年　　報

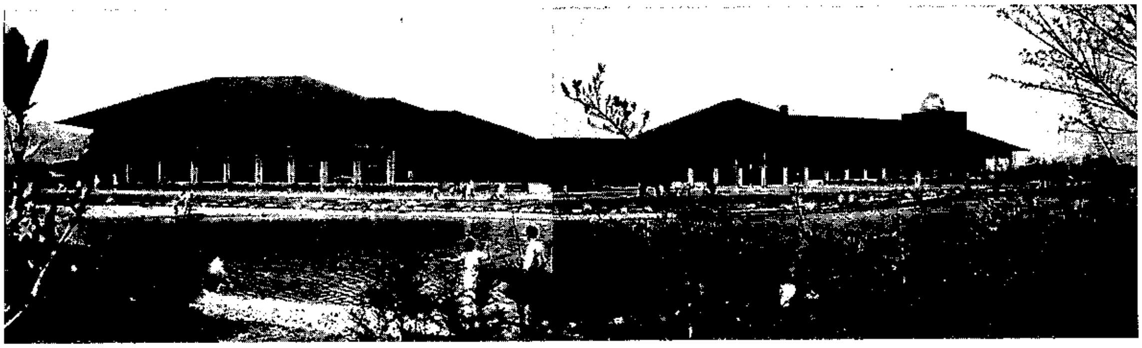
—昭和58年１月～昭和59年３月—

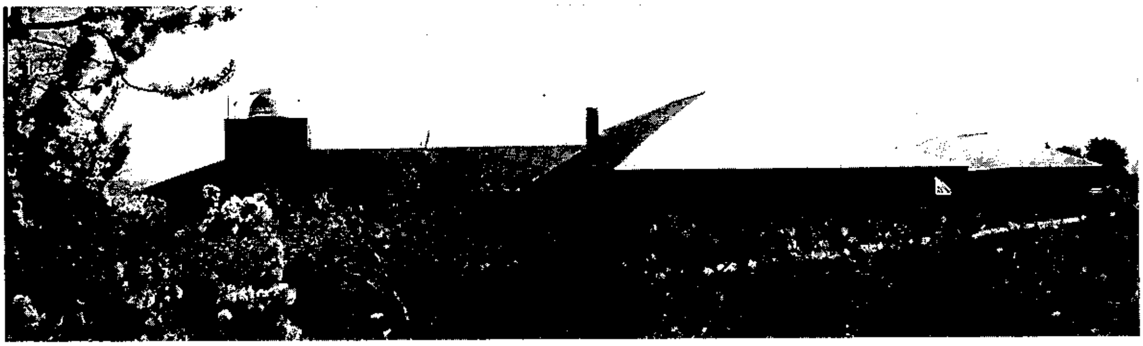
VOL. 2

昭和59年３月

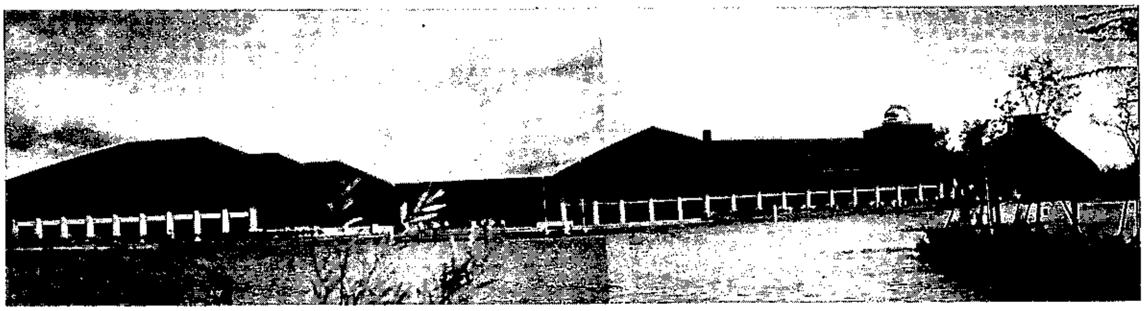
長野市立博物館

博物館の四季

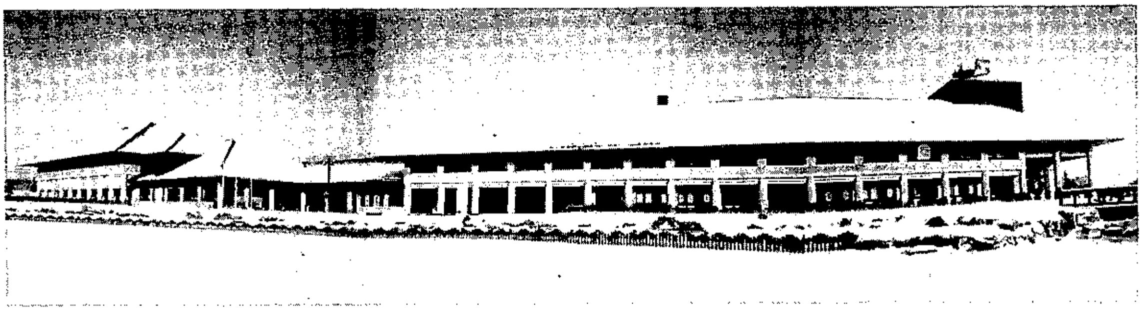




春（上　正面・下　裏面）



秋（台風18号通過翌日）



冬（昭和59年１月）

序

当長野市立博物館の昭和58年１月から昭和59年３月までの活動と、御利用の状況をまとめ、ここに年報第２号を発行します。

昭和59年３月

長野市立博物館

例　　　言

1　本書は，博物館における事業・運営等の実績報告書の意を含んでいる。

2　本書で記載した事項は，主として昭和58年1月～昭和59年3月までのものであるが，資料等に関するものには，それ以前のものもある。

3　文中氏名の記載にあたっては，当館の役職をもつ方を前段に記し，他は順不同である。また敬称を略した場合もある。お許し願いたい。

4　本書の執筆にあたっては，博物館職員があたり，分担については文末に記した。

5　本書に掲載した写真は，当館(山口(明)・大蔵・青木・西川・松沢撮影)のもののほか，社会教育課（野外彫刻賞運営委員会・長野市遺跡調査会）・宮下健司氏のご援助をいただいた。

目　次

序

例　言

Ⅰ　博物館日誌……………………………………………………………………………… 1

1　博物館日誌（抄）（昭和58年1月～昭和59年3月）………………………………… 1

Ⅱ　事業報告……………………………………………………………………………… 9

1　展示……………………………………………………………………………………… 9
2　調査研究………………………………………………………………………………… 34
3　教育普及活動…………………………………………………………………………… 47

Ⅲ　博物館収蔵資料……………………………………………………………………… 57

1　購入資料………………………………………………………………………………… 57
2　収蔵・寄贈資料………………………………………………………………………… 60
3　寄託・借用資料………………………………………………………………………… 74

Ⅳ　博物館施設・管理…………………………………………………………………… 75

1　博物館建物概要………………………………………………………………………… 75
2　博物館施設整備事業…………………………………………………………………… 76
3　委託事業等……………………………………………………………………………… 77

Ⅴ　事務報告……………………………………………………………………………… 78

1　予　算…………………………………………………………………………………… 78
2　入館者等………………………………………………………………………………… 78

Ⅵ　彙　報………………………………………………………………………………… 80

1　長野市立博物館条例・施行規則……………………………………………………… 80
2　長野市立博物館協議会………………………………………………………………… 89
3　組　織…………………………………………………………………………………… 90

Ⅶ　講演会・実演収録…………………………………………………………………… 91

1　講演会収録「松代焼の伝統と新しい可能性について」唐木田又三………………… 91
2　職人さんの製作工程…………………………………………………………………… 95

I　博物館日誌

博物館日誌（抄）

昭和58年1月～59年3月

1月1日～3日　館内ボイラー運転のため庶務係出勤。

1月4日　仕事始め。朝館長室で新年の挨拶。展示室は家族づれでにぎわい，公園では子供の凧上げ風景も見られ，のどかな正月である。

1月5日　学芸員室では，年報I・館報発行について打合せをする。

1月6日　民俗担当は，田植祭神事を松代東条の玉依比売命神社に取材調査。

1月7日　民俗担当は，午前中に玉依比売命神社の玉改め神事を取材調査，午後には，大岡村芦ノ尻道祖神祭の取材調査。大阪の民博に展示されているだけに，地元として正確な資料を持つ準備を進める。

1月11・12日　小島係長・矢口学芸員施設研修のため，埼玉県博・群馬県歴博へ出張。

1月12日　午前中降雪，白一色の公園が，自然をとりもどしたように美しい。

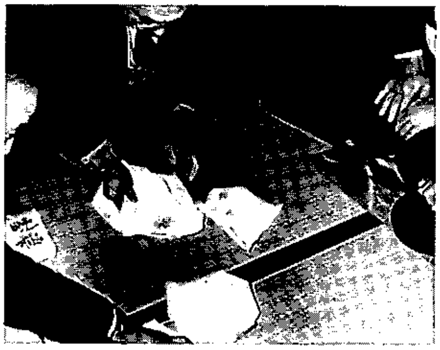
1月13日　餌場を雪で失った小さぎが，前の池で魚とり。器用に長い足を水中でゆすって，魚を追い出してついばむ様子がおもしろい。

1月14日　ものづくりを民家の居間にする。今年は，神社の欅の枝を整枝して使ったがやはり柳の枝の方が風情があるように思う。

今日からバス停の松代行の位置が公園の駐車場横に変わる。

1月15日　成人式。民俗担当，篠ノ井塩崎越の道祖神祭の取材調査。御神体をわらで作り，それを焼くというこの地方では特異な祭の様式である。県史刊行会宮下健司専門主事も同行。

夕方から，全館くん蒸のための機械器具の運搬が始まる。



包換神事

1月16～22日　全館くん蒸のため休館。

1月16日　早朝から目ばり作業。来館者があるため，終日庭でわら仕事をしながら，事情の説明をする。（副館長）

1月17日　収蔵庫等一部ガス注入。信毎写真部取材。

1月18日　古文書収蔵庫でガスもれ。急遽目ばりを前室までする。

1月19日　前夜半から，一部でガス抜きを始める。

1月21日　ガス抜き完了。午前中検査。丹青社からスライド等点検修理器機の搬入。

外構（排気・外柵等）工事，前田建設に落札。

1月22日　休館あけの開館。多少臭うが換気を盛んにする。

道祖神をつくる

1月25・26日　矢口学芸員研修のため出張（職員研修所)。

1月26日　文化財防火デー。午後3時から防災訓練。南消防署から指導を受ける。

1月27日　中央大学今教授等来館。

1月28日　蔵春閣から長井雲坪の山水図等55点の絵画等美術品の所管替えで収蔵する。

1月29日　職人展の準備で、下駄屋さんが来館。

1月31日　企画展資料借入れのため，綿内山新田へ(両山口)。古文書教室の打合せのため小林計一郎先生訪問（矢口)。

2月1日　館内の空調工事が開始される。

2月3日　節分。来館者に福豆を配る。クーリングタワーの配管が事故。急拠復旧工事。
午後館長が驥山館に挨拶。

2月6日　古文書教室一日目，小林計一郎先生。講読に続き午後には海津城など史跡を見学する。

2月13日　古文書教室二日目。

2月15日　企画展会場づくりに大工さん入る。

2月16日　富山市から古墳の整備について視察来館。川柳将軍塚等へ案内。

2月24日　小島田村絵図（明和2年）の寄託を町内会長から受ける。

2月27日　企画展“職人さん„オープン。実演は棒屋さん。テレビ4社で取材にぎわう。

3月3日　岐阜県立博物館から視察来館。

3月5日　企画展実演は桶屋さん。放送局の生中継もあり館内にぎわう。

3月6日　企画展目あての来館者が多い。

3月8日　信濃美術館から次長ほか来館。

3月12・13日　企画展実演は“曲げ物屋さん„。

3月15日　春めいた天候に公園散策後の来館者が多い。

3月16日　地元更北公民館と山梨県一宮町の老人会の交歓会を会議室で開く。勉強熱心なお年寄りに感心した。

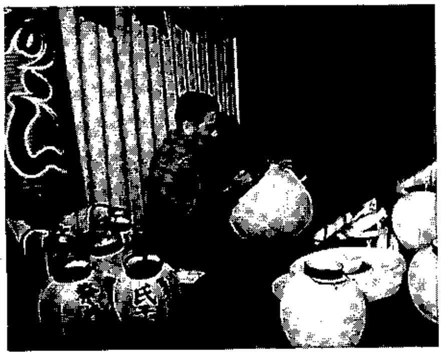
3月19～21日　企画展実演に“下駄屋さんに竹細工屋さん„職人と来館者との対話もあり、昔話に花が咲く。

3月20日　唐木田又三先生の講演会，会議室満員の聴講者で，熱気のある講演会であった。

3月24日　学習院大元学長児玉幸多先生来館。

文化財防火デー

史跡めぐり（海津城)



収材「提灯屋さん」

収材「経師屋さん」

3月25日　松代史跡保存会の矢沢会長等来館。

3月26日　長野市立博物館協議会開会。58年度事業予定等について協議。

3月26・27日　企画展実演は“畳屋さん・棒屋さん„27日企画展最終日。

3月30日　大阪府箕面市文書担当者来館。

4月1日　朝館長から年度初めの挨拶。人事異動で6名転入出する。

4月3日　家族づれの来館者多く，公園内に昼食風景が多く見られた。

4月5日　つばめが前庭の池の面をとび交う。

4月7日　外構工事の検査完了する。

4月10日　新収蔵資料展オープン（～5月15日）今日から11月中まで定期観光バス来館。

4月13日　池に鴨一対が見え，泳ぎ回る。

4月14日　理料センター関係者会議で，博物館見学についての説明をする。(和田専門主事)。

4月17日　小あじさしが一対飛来，池の魚を上手に取る。

4月19日　石家庄市の農業研修生来館。

4月23日　石家庄市劉力夫市長一行7名来館。

4月26日　建設業協会賞審査会。

4月29～5月5日　無休で開館。天気の日には，千曲川の土手の斜面にサイクリング車がずらりと並ぶ。公園も博物館もにぎわう。

5月7日　朝，前線の通過で集中豪雨。池に大量の水が流れ込む。

5目10日　小学生の遠足が盛ん。上越市から合戦場見学で来館，熱心に見学して帰る。

5月18日　群馬県安中市第一中学校生徒来館，志賀高原からの日帰りのバス見学。

5月19日　小島境遺跡の発掘調査は最終段階，実測のため調査員の夫人も現地調査に参加。

5月22日　育成会の団体が何組か入館。

5月25日　桜ヶ丘中学校2年生全員が理科センターの実験とセットで見学していく。

5月26日　東部中学校2年生展示室見学。

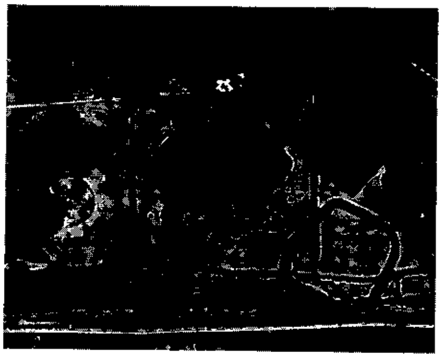
5月27・28日　北信越博物館協議会，長野市内で開催。二日目当館等見学。

5月29日　気温が上り，池で泳ぐ子供も出た日曜日。観光バスの客も多くなった。

6月1日　団体の小・中・高生で館内にぎわう。シル

収材「鍛治屋さん」

石家庄市市長



小島境遺跡調査

地質教室

バー人材センターの草取り始じまる。
6月2日　実験農場に綿の種をまく。
6月4・5日　富沢恒雄先生の地質教室。
6月6日　雨不足で，庭の芝生に散水をする。
6月8日　長野ろう学校生徒の母子遠足。
6月9日　県立長野工業高校建築科生徒現地実習のため来館。
6月10日　大分県の高校生修学旅行。副館長 文化庁・文化財研究所へ出張。重文の展示について打合せ。
6月13日　企画展“シナノから科野国へ„の資料借入れ始じまる。
6月16日　市指定文化財“素環頭太刀„当館へ寄託される。
6月20日　光化学スモック観察用朝顔を実験農場に植える。
6月24日　土口将軍塚古墳調査団会議を開催明大大塚・筑波大岩崎・団長米山各先生等出席。
6月28日　全国博物館協会館長会議に館長出席。
6月30日　周辺の鉱泉の分析調査始める。
7月1日　企画展の会場づくり開始する。
7月8日　石家庄市友好使節団一行来館，理科センター、天体学習室・展示室を見学。
7月11～17日　第5回指定文化財展示取扱講習会に矢口学芸員出席。
7月17日　企画展“シナノから科野国へ„オープン。
7月25日　群馬県嬬恋村溶岩樹形の写真撮影に山口(純)・矢口出張。
7月27～8月13日　第2次土口将軍塚古墳調査実施。
7月31日　岩崎卓也先生の講演会。会場に入れない受講者用にテレビ中継をする。“長野県における古墳の出現について„。
8月2日　県高校地理学会の研究会が会議室で開催される。
8月3日　三木文雄・上田宏範先生来館。
8月5日　大塚初重先生土口将軍塚古墳調査のため来館。
8月7日　諏訪彰先生来館。
8月9日　土口将軍塚古墳で石室が二つ確認したため，現地で記者会見をする。
8月10日　教育長土口将軍塚古墳視察。
8月10日　奈文研坪井清足所長来館。
8月8～17日　博物館実習生1名受入れ。

日本庭園のさつき

石家庄市教師学生友好団

溶岩樹型

古墳教室

8月13～16日　盆中全日開館。茶臼山動物園の開園で，子供づれの見学は減った様子。

8月21日　小林行雄先生来館。

この日で企画展終了。この会期中12,343人の見学者が入館する。

8月22日　企画展展示物の返還始める。

8月23日　山口副館長，東京文化財研究所・文化庁美術工芸課へ重文展示について打合せのため出張。

8月26日　会計検査院の検査。書類検査の後一行6名で展示室を見学される。

8月27日　寛慶寺鬼瓦の修復作業始める。石川条里制遺構調査始める。

8月28日　下水内・豊田村佐藤博物館々長以下友の会員来館。館内見学される。

8月31日　山口(純)・矢口・藤森3名松本市保福寺・南安曇堀金村へ出張。

9月1日　矢口北陸方面，山口明・藤森屋代，上田方面，山口(純)・和田坂城方面へそれぞれ特展資料借入れのため出張。

9月2日　山口(純)・藤森桑原象山記念館へ出張。夕方，プラネ秋のプログラム“カシオペア王妃大いに語る„試写。

9月3日　山口(純)・矢口軽井沢・海野町へ出張。東博から係官来館。

9月4日　松本市役所部課長一行見学のため来館。

9月7日　停電事故。見学中の更府小の児童安全に退館する。

9月9日　山口(純)・矢口上越市博物館へ資料借用のため出張。榊神社の乗物の借用についてお願いをする。

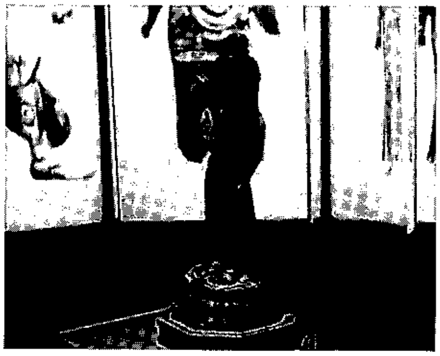
9月10日　筑波大岩崎先生・神奈川歯科大小出義治先生・東洋大玉口時雄先生来館。箱清水式土器の研究をされる。

9月13日　タイ国の小・中学校の先生が教育機関の見学のため来館。和田専門主事説明。矢口新潟県巻町博物館へ資料借用のため出張。

9月21日　山口(純)・藤森東京交通博・逓信博へ資料借用のため出張。

9月22日　重文　山千寺銅造観音菩薩立像を搬入，常設展示室に展示する(～11月3日)。

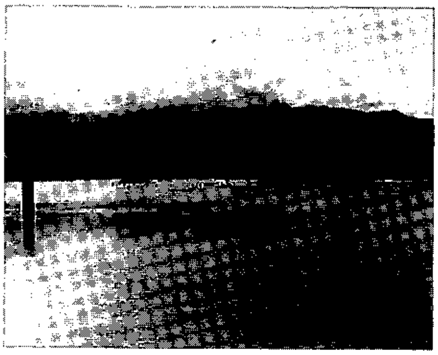
9月23日　開館記念日，20万人目入館者，東京都三鷹市，若林藤四郎さんに記念品贈呈。



山千寺銅造観音菩薩立像

同上をみる

20万人目の来館者



台風10号による前庭冠水

9月27日　特展の大工工事開始。矢口北陸方面へ資料借用に出張。

9月28日　台風10号による水害。夜半公園から館の周囲まで水没。

10月1日　特展の会場作りほぼ完了。

10月2日　庭のどうだんつつじの紅葉深まる。少し早いように思うが……。

10月3日　矢口・大蔵新潟県巻町博物館へ出張。

10月4日　山口(純)東京交通博・逓信博へ展示資料借用のため出張。

10月5日　青木・大蔵伊那・木曽方面へ資料借用のため出張。

10月6日　特別展の資料そろう。

10月9日　開館2周年記念特別企画展“街道と旅„開会。報道関係の取材と来館者でにぎわう。

10月13日～　全国博物館協会の大会が新潟県で開催され，館長出席する。

10月16日　神奈川県教育委員会で来館視察。

10月18日　北信越市長会一行160人来館。

10月19日　上水内・信州新町公民館長ほか老人大学一行来館。

10月20日　長野市立博物館協議会開会。本年度から来年度の事業計画等諮る。

10月24日　市監査委員による事務監査。

10月25日　野外彫刻賞受賞作品“演技者„吉田芳夫作が前庭に除幕。現地で表彰式。出席の方々館内を見学。

10月27日　全国共済連安藤事務局長来館。

10月28日　県下17市教育委員研修会一行64人来館。

10月29日　上水内・小川村農業祭へ山口明出張。ワラ製民具の取材をする。

10月31～11月1日　歴民博杉山助教授一行が来館，神坂峠出土物・土口将軍塚古墳出土鉄鏃等の精査される。

11月2日　初当選の市議会議員一行が視察のため来館。

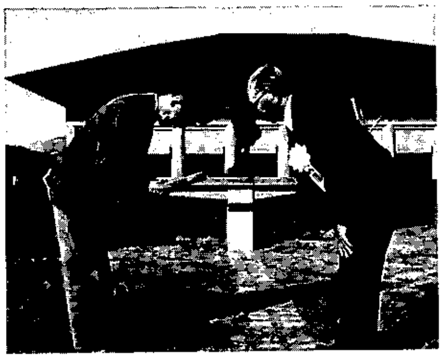
11月3日　文化の日　児玉幸多先生御講演“街道と旅„140人余の市民と市長・教育長も同席で受講する。

11月8日　福島県いわき市教育委員長ほか一行来館。

11月9日　59年度予算編成の打合せ会議。

11月13日　特展最終日。会期中映画“むかしの旅„に人気があった。会期中の入館者数は6,237人。

北信越市長会来館



野外彫刻賞「演技者」受賞式

特別企画展「街道と旅」

もちつき

11月15～18日　特展に出品いただいた各館に返還，輸送は日通長野支店美術専用車に委託する。

11月21日　市議会総務文教委員会で，館の概要を説明する。

11月30日　大岡村民俗資料館・同芦ノ尻道祖神の調査（両山口・矢口）。

11月中の入館者6,141人，前年度の同月中の入館者をはじめて越す。

12月2日　夕方，冬の天体学習室のプラネタリウム“客星現わる„試写。

12月6・7日　篠ノ井公民館主催の博物館見学。

12月15日　県立盲学校の生徒が常設展示室見学，弱視の方がほとんどだが，特に強度の生徒には触手により見学してもらう。

12月18～25日　しめ縄づくり教室。浅川欣一先生の講義の後，技術伝承者宮島克巳先生の実技指導。縄もなえない人もあり，大変な教室であった。

12月25日　餅つき。例年により2階民家で来館者に“まるもち„を試食してもらう。テレビ局の取材4社。

12月28日　仕事納め。館長から挨拶を受ける。

12月29日～1月3日　休館。本年から凍結防止の施設が作動するため，この間の出勤はない。

1月4日　仕事始め。職員一同館長から挨拶を受ける。松本花子先生木綿機の用意に見える。

1月7日　大岡村芦ノ尻道祖神の取材のため矢口・山口明学芸員出張。小林よしい・長沢マス両技術伝承者の木綿機織り始まる。

1月10日　くん蒸準備のため関東港業と打合せ。

1月13日　ものづくりの枝を河原にとりに行く。

1月14日　物づくり。民家の居間に飾る。

1月15日　小正月。両山口どんどん焼の取材に塩崎長谷・越地区へ終日出張。5ヶ所の独特などんどん焼のやまづくりを記録する。

1月17日　山口明学芸員，新潟県津南町歴史民俗資料館まで，資料の借用に出張。雪の中，日通美術特送車も難儀する。

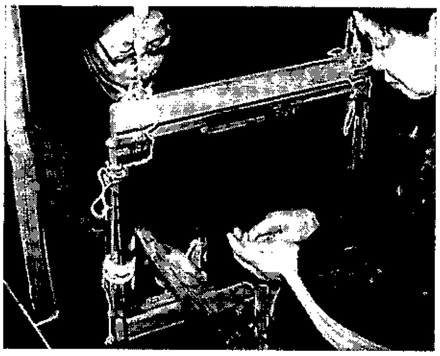
1月18日　山口明学芸員，山ノ内町へ出張。

1月22～28日　全館くん蒸のため休館。22日夕よりガス投入。48時間くん蒸無事終了。

1月24日　山口明・大蔵学芸員美麻村へ資料借用のため出張。

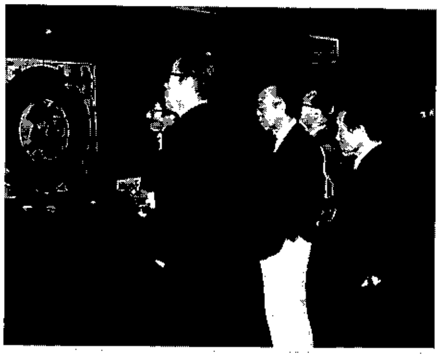
1月29日　降り続いた雪で，公園のゲレンデは家族づ

しめ縄教室



機織しつけ

機　織



韓国大使館主席教育官

れのスキー，ソリ遊びににぎわう。

1月31日　豪雪地の博物館施設ということで福島県から視察者来館。

2月3日　クリアウオーター市から英語教師来館。

2月5日　大岡村芦ノ尻地区の代表が，道祖神かざりつけのため来館。

2月6日　韓国大使館、安商述主席教育官来館。

2月7日　向山雅重先生，ワラと生活展準備状況視察のため来館。

2月14日　土口将軍塚古墳調査団会議開かれる。

2月15日　矢口・大蔵学芸員，別所上手地区へワラ馬借用に出張。

2月19日　「ワラと生活」展オープン。実演と体験コーナーに人気。

2月24日　戸隠・鬼無里両村教育委員来館。

2月26日　古文書教室，西沢武彦先生により近世宿場関係の文書を講読する。

2月29日　2月中の入館者が昨年を上まわる。

3月1日　中庭のツララ，ついに地上と連結。寒気いまだ厳しい。

3月4日　春のプラネ“一升星と七ツ星„スタート。

3月6日　松代城絵図のうち最古の「主図合結記」収蔵資料の中から発見する。

3月10日　ワラ細工教室，19人全員ゾウリを完成。

3月15日　ねはん会のやしょうまを来館者に配る。

3月17日　千葉大，坂本勝比古教授来館。

3月18日　やっと春めき，来館者もつぐら作りにむらがる。

3月20日　向山雅重先生講演会，天候の加減か来館者は少なかった。

3月22～26日　防火訓練。26日には消防署から指導。

3月23日　博物館協議会開催，来年度事業について諮問する。

3月25日　ワラと生活展最終日。体験コーナーでは家族ワラ細工でにぎわう。

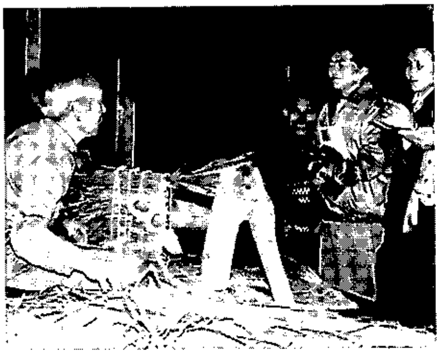
3月26～31日　開館以来借用していた資料の一部を返還，その部分の展示替えをする。

3月27～31日　新潟県津南町はじめ，借用のワラ製品の返還，無事終了。

3月31日　埼玉県喜多院所蔵“職人盡絵屏風„借用について，御内意を得る。

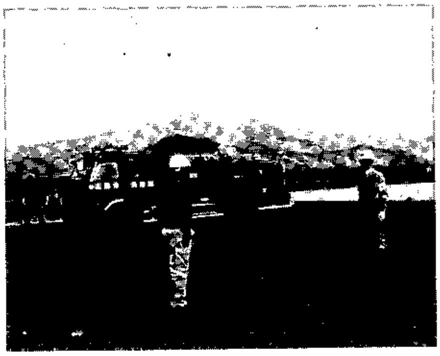
（山口純一）

古文書教室



実演「わらぼてつくり」

体験コーナー



防火訓練

II 事業報告

1 展 示

1) 常設展示

常設展示の構想・構成は，開館当時（昭和56年9月23日）と基本的に変らない。ただ新収蔵資料のうち展示中の寄託資料に変わるものがある場合は展示替えを，また主題に合った重要な資料は漸次追加展示している。

本年実施した展示替え・追加展示資料は下記のとおりである。（　）内は寄贈者で敬称は略する。

鏡肌（冨沢恒雄）
クジラ肋骨化石（大久保邦彦）
浅間山の溶岩樹型写真
信州大地震山頽川塞湛水之図（購入）
信州犀川崩激六郡漂蕩之図（購入・展示替）
発掘された筵（篠ノ井遺跡群聖川堤防遺跡）
湯谷1号古墳出土鉄器
挙手人面土器複製（国学院大学考古学資料館）
信濃国善光寺略絵図（購入・展示替）
長尾景虎書状複製（展示替）
田村騒動願書（展示替）
諸国道中独案内図（野本粥次）
火消頭巾（大須賀太吉）
高機一式（駒村満）
虫送り行事虫籠（篠ノ井横田区・展示替）
米俵・わらじ（吉沢梅吉）
縄ない機（池田善治）
すごろく（購入・展示替）
たばこ盆・帳場机・結界・そろばん・大福帳（以上八田勇）
粉ふるい・こね鉢・はんぼう・とうじかご・すいのう（酒井英知）

この他常設展示室では民家を利用して歳時に応じ行事的な展示を行っている。実演を伴うものに1月14日には小正月の行事として農産物・繭玉などを柳の小枝にとりつける〝ものづくり〟を，年末の日曜日には〝しめ縄づくり〟・〝もちつき〟などを行い好評であった。

常設展示室

常設展示室

常設展示室

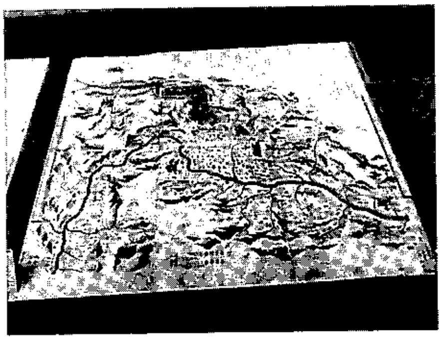
しめ縄づくりは〝しめ縄教室〞として別にあつかってきているが，教室受講希望者が多く，その選にもれた方々および来館者を対象にした技術展示である。〝もちつき〞も忘れ去られゆく運命にある年末行事である。この技術的な展示の目的は本来あった姿を残そうという意図と〝鏡もち〞などをつくり，もちのもつ意義を再確認することにある。

視聴覚関係では，「長野盆地の生いたち」「ゆれる大地」三面マルチ「川中島の戦」，三台設置の「長野市とその周辺」のスライド投影器を，「石器をつくる」のビデオ機器を使用している。本年は1月のくん蒸期間中にオーバーホールしたためか故障が少なかったが，これらの機器の使用頻度が激しいため，スライド等の退色は避け難く，年2回差し替えている。

当館の主な展示資料である地震体験室は，大きな故障もなく，平日6回・日曜日と祝日7回運転し，地震波の異なりや地震への対処のし方を勉強してもらっている。体験用の地震波は，震度4のエルセントロ地震，震度5の十勝沖地震・宮城県沖地震そして機械的につくり出した震度6と7の前後波を抽出している。

（和田　博・坂口清子）

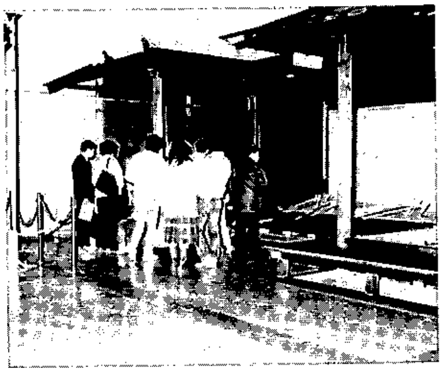
常設展示室



信州大地震山頽川塞湛水之図

2）特別企画展示・企画展示

特別企画展示と企画展示のちがいは，前者が個別の主題をもとに地域・県境を越えてより広域的なものであるのにたいし，後者は前者の副題的性格を有しており，長野市とその周辺の地域性を強調していることにある。また前者は特別入館料を徴収するが，後者は常設展示室入館料で観覧できる。共に展示会場は特別展示室を利用している。なお特別企画展示・企画展示に回数を付したが，これは開館より両者合せた通し回数である。



実演会場

(1) 第4回企画展「職人さん」

期間　昭和58年2月27日～3月27日
（実質開館日数25日）

出版物　A2版カラー刷ポスター 350枚
A4版両面刷二ツ折パンフ

入館者　約5,200人

〔趣旨〕

「手に職を持つ」という言葉に象徴される手工的生産で生計をたててきた様々の職人たちは，機械の発明・

実演「棒屋さん」

改良・発達などによる生産の増大により生活様式の変化とともに急速に数を減少しつつある。そしてこの傾向は製品の減少をまねき，種類も限られたものになってきていることは否めない事実である。

しかし長い生活文化の中で職人たちによって生産されてきた生活用具や生活物資は,「手仕事」で行なわれ，その品質は「職人気質」と呼ばれる意気ごみで支えられ保証されてきた。そこには伝統・歴史が感じられ，また人間の暖みも伝わってくる。特に最近伝統的工芸品・民具などが愛され，活用されていることは，機械文明によってもたらされた製品に何かものたりなさを感じ，本来の本物に帰ろうとする一つのあらわれではないかと思える。

こうした動きの中で今回の企画展示は，長野市とその周辺に残された庶民の生活文化の根底となってきた手仕事による用具・製品をふりかえり，見直しながら，現在に残り伝えられている木製品職人の技術を実演を通して再確認するとともに記録保存をしようとするものである。

〔内容〕

この企画展は，住まいの用具(大工・畳屋・指物屋・経師屋)・暮しの用具（桶屋・提灯屋・曲物屋・竹細工屋)・はきものと着物（下駄屋・紺屋)・生産の用具（棒屋・杣・鍛治屋）の4部構成になっている。このうち期間中の土・日・祭日には，棒屋（太田恒雄・長野市岡田町)・桶屋（渡辺江一郎・長野市七瀬)・曲物屋(遠藤広一・更埴市稲荷山)・竹細工(徳武義治・戸隠村中社)・下駄屋（山田春房・長野市三輪)・畳屋(春原利昭・長野市県町）の技術展示（実演）を行った。

展示資料とご指導・ご援助いただいた方々は下記のとおりである。

①住いの用具

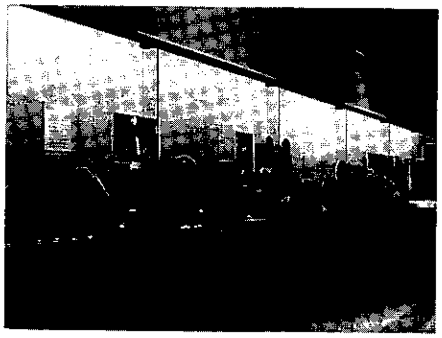
大工（宮沢組・長野市吉田，花岡真一（寄贈)・長野市若槻）

道具　留形・釘じめ・たがね・釘ぬき・玄能・刃槌・ボルト錐・坪錐・四つ目錐・三つ目錐・ぎむね・ぎむね替歯・廻挽き鋸・畔挽き鋸・尺一両刃鋸・九寸両刃鋸・八寸両刃鋸・かがり鋸・巻曲・朱壺・墨壺・墨さし・自在定規・すこや・水準器・割り罫引・穴罫引・筋罫引・はたがね・斧・突のみ・手斧・白引・名倉砥石・蟻じゃくり鉋・底取り鉋・角面取り鉋・ひふくら鉋・小穴つき鉋・丸鉋・際

展示

展示

展示


展示

鉋・脇取り鉋・あらつき鉋・平鉋・台直し鉋・基一作里・割り定規・こてのみ・つきのみ・厚のみ（6分・8分）・薄のみ（1分・2分・3分・4分・5分・6分・8分・1.2寸・1.4寸）・胴付鋸

着物　法被・股引・腹掛け

畳屋（春原利昭・長野市県町，左右田清裕・長野市南長池）

道具　小包丁・框包丁・おとし包丁・縁引き針・針入れ・針・三つ目錐・縁鉤・敷き込み鉤・待ち針・平鉋・渡・加・鋸・肘あて・金槌・目押し定規・小尺・ブラシ・行李・畳台・長さ尺・幅尺・大曲

原材料　付け糸・床糸上糸・床糸下糸・縁・縁下紙・畳表（備後手織・備後長引・麻糸たて・柄表・流備・中継表）・踏床

製品　一本縁畳・縁付畳（特製特級品・特級品・1級品・2級品・3級品）・有職畳（御神座・六角畳・円形畳・礼盤・礼盤四天王）・紋べり付四畳半・拝敷・柔道畳

指物屋（信州ファニチャー・長野市北長池，長野共同同高等職業訓練校・長野市大豆島）

道具　胴付鋸・横片挽き鋸・廻挽き鋸・畔挽き鋸・さしがね・玄能・ぶち抜き・ぎんなん面鉋・ひも面鉋・外丸鉋・内丸鉋・反台鉋・蟻鉋・定規付際鉋・溝鉋・ひふくら鉋・底取り鉋・小穴さらい・小面取り鉋・台直し鉋・筋罫引・しゃくり鉋・こてのみ・追入れのみ・丸のみ・突のみ・くり小刀・のみ（2分・3分）・さらいのみ・四つ目錐・坪錐・切交せ罫引・はたがね・白引・釘じめ・穴罫引・三尺物差

製品　座卓・刀掛け・文机・茶だんす・けんどん・桐だんす

経師屋（西沢淳夫・長野市西鶴賀）

道具　仮張り・糊桶・糊刷毛・なで刷毛・水刷毛・つけ回し刷毛・どうさ引き・打ち刷毛・糊こし・裏ずり・定規・覆輪定規・糊板・金ふるい・平鉋・やすり・金槌・木槌・引き手はがし・はさみ・竹べら・留型・胴付鋸・小刀・裁ち合せ包丁・留切・四つ目錐・千枚通し・釘じめ・つきのみ・のみ

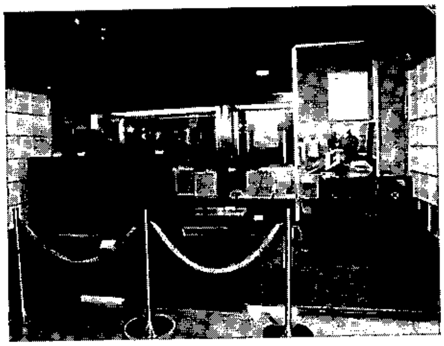
原材料　裏うち紙（土佐紙・美濃紙・宇多紙）・発装・裂地・もみ紙・軸・鈦・紐

未製品　大和表装仕立

製品　衝立・風炉先屏風・屏風・額・大和表装掛軸・

展示「大工さん」

実演「畳屋さん」



展示「指物屋さん」

展示「経師屋さん」

軸箱

②暮しの用具

桶屋（渡辺江一郎・長野市七瀬）

道具　割金・木槌・外銑・内銑・外鉋・内鉋・木型・底型・ぶんまわし・底廻し鋸・いりぎわ・かきいり・三つ目錐・三木錐・打錐・罫引・平鉋・正直台・しめ木・水箒・金べら・竹銑・おさえ竹

原材料　板目材・さわら原木

未製品　取立

製品　桶・酒樽・玉桶・鮨飯台・手桶

提灯屋（横田屋提灯店・長野市新田町，田中勝太郎・小諸市本町）

道具　高張用木型・高張用万力・小物用木型・小物用万力・張輪

原材料　竹ひご（高張用・小物用）・内山紙・木綿糸

未製品　火袋・丸形提灯火袋

製品　小田原提灯・弓張提灯・尺三丸提灯

曲物屋（遠藤広一・更埴市稲荷山，原山賢一（寄贈）・長野市小鍋）

道具　小刀・叩き棒・渦型・罫引・胴付鋸・平鉋・はさみ・はり・皮かき

原材料　桜皮

未製品　渦・受輪・親輪・腰輪

製品　せいろう・めんぱ・米通しふるい・豆通しふるい・粉ふるい・裏ごし・柄杓・絹ふるい

竹細工屋（戸隠中社竹細工生産組合，徳武義治・戸隠村中社，井上輝雄・戸隠村中社，原山善治・戸隠村中社）

道具　はさみ・金べら・錐・なた・底板・へだて棒・おさえ板・なぎなた

原材料　根曲り竹・皮竹・にば・桜皮・藤つる・藤皮・藤繊維・縁巻きの竹・

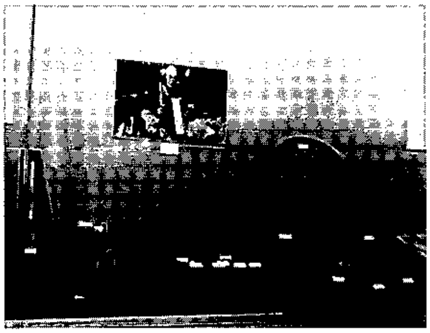
未製品　竹箕

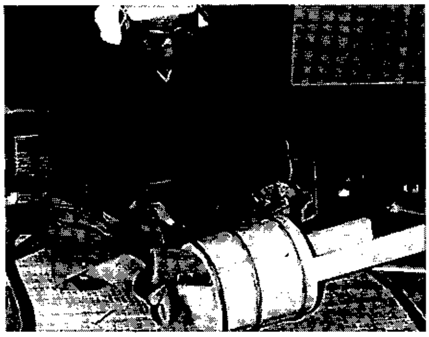
製品　竹箕・そばざる・大そばざる・とうじかご・水のう・茶碗かご・花かご・石けん入れ・状差・中びく・花器台・ふうてかご・びん入れ

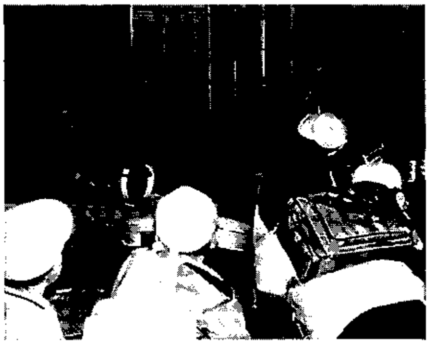
③はきものと着物

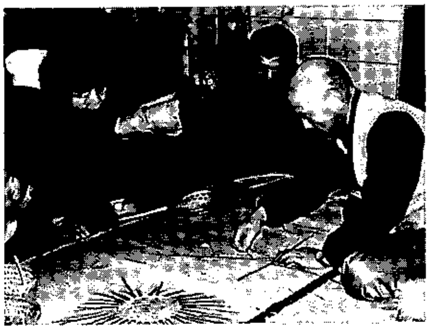
下駄屋（山田春房（寄贈）・長野市三輪，南哲夫（寄贈）長野市安茂里，小池万吉（寄贈）・長野市中村，宮ノ本源太郎・信州新町）

道具　引き割り鋸・墨壺・墨さし・墨罫引・突込鋸・廻挽き鋸・面型・ほう歯型・歯型・鼻廻し台・鼻


展示「桶屋さん」


実演「桶屋さん」


実演「曲物屋さん」


実演「竹細工屋さん」

廻し・まわし錐・玄能・歯ころし台・木槌・平鉋・甲すき・こて・釘抜き・緒立て棒・柾目立て・油壺・曲尺・文尺・あり挽き鋸・歯切鋸・前つぼ取り・重能のみ・耳なし重能のみ・みさお重能のみ・さすのみ・ありかきのみ・逆目突きのみ・返し突きのみ・歯突きのみ・こてのみ・丸かきのみ・表付突きのみ・鎬のみ

原材料　丸太の木取り

未製品　日和台木取り・のめり木取り・高歯台木取り・駒下駄木取り・駒下駄組抜き

製品　日和下駄・めのり下駄・高歯下駄・駒下駄・ほう歯・一本歯・雪箱下駄・天そり時雨・高堀・塗り日和

紺屋（中沢恒雄(寄贈)・長野市松代町，松下達(寄贈)・長野市松代町，五明計義・長野市松代町，川崎喜作・長野市西鶴賀・松本花子・長野市松代町，共和小学校，川田小学校）

道具　洗張用片手桶・藍染め用片手桶・手桶・大釜・藍甕・打板・杵・洗張伸子・藍染め伸子・張手

製品　布団地・上布・風呂敷・印袢天・合せ着物・総模様標本

④生産の用具

棒屋（太田恒雄・長野市岡田町）

道具　鍬柄の木型・台の木型・ボルト錐・平鉋・脇鉋・反台鉋・内丸鉋・内丸反台鉋・外丸反台鉋・金槌・罫引・曲尺・まわし錐・墨壺・平のみ（7分・8分)・厚のみ・彫刻のみ・丸のみ・突きのみ・かがり鋸・廻挽き鋸・両刃鋸・目立やすり

原材料　ぶな板材・くさび

未製品　鍬柄の木取り・台の木取り

製品　鍬・のし棒・木槌・杵・柄（鍬・草かき・つるはし・まさかり・鎌・なた)・雪かき・まな板・ちり取り・ばち・こみ・すり粉木・まな箸

杣　（森山公一（寄贈）・信濃町，関本元宏（寄贈）・長野市若穂，松橋俊治(寄贈)・長野市県町）

道具　水筒・手斧・矢・墨壺・木挽き鋸・まきひき鋸・台切り鋸・よき・刃広

原材料　アカシヤ・樅・プラタナス・赤松・山桜・杉

鍛冶屋（柄沢邦治・長野市茂菅）

道具　火ばし・たがね・金槌

展示「下駄屋さん」

実演「下駄屋さん」

展示「紺屋さん」

展示「提灯屋さん」

未製品　手鍬（工程）

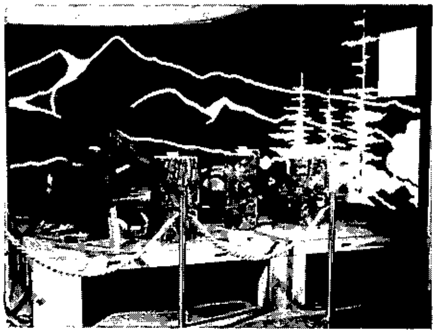
製品　まき割り・金矢・堆肥切り・草かき・板鍬・改良鍬・押し切り・備中鍬（田起し用・畑用・堆肥用）・手鍬

⑤写真パネル

桶づくり・曲物づくり・竹細工編み・提灯はり・桐下駄木取りの自然乾燥・鍬柄づくり・農具鍛治・家具づくり・表装・畳づくり

⑥古文書類

彩色職人部類・喜多院職人尽屛風絵

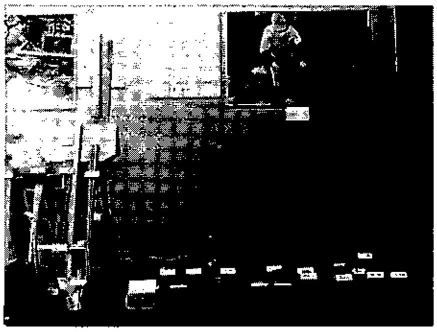


展示「杣」

⑦解説パネル

桶屋さん・曲物屋さん・竹細工屋さん・提灯屋さん・下駄屋さん・紺屋さん・棒屋さん・杣・鍛治屋さん・大工さん・畳屋さん・指物屋さん・経師屋さん（以上全紙）・暮しの用具・はきものと着物・生産の用具・住まいの用具・手仕事のぬくもり（以上全倍）

⑧16㎜「伝統工芸」（記録映画社）



展示「鍛治屋さん」

なおこれらのうち製品関係については，実演者および製作者のご厚意により割安で博物館収蔵資料として購入した。

この企画展を開催にあたり上記したほか多勢の方々のお世話になった。特に山口和兵衛氏（長野市西町）より曲物屋について貴重な助言をいただき，市内にもまだまだ数人の職人さんがいることがわかった。

（山口　明）

ポスター

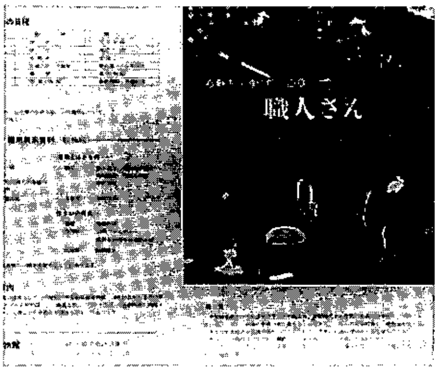
(2)「昭和57年度新収蔵資料展」

期間　昭和58年4月10日～5月15日

この展示会は，昭和57年度に寄贈・寄託・購入した資料を中心に公開した。

衣　うちかけ・祭袢てん・軍服（以上着物）・下駄・高下駄（以上はき物）・しゅろみの（雨具）・たらい（洗濯用具）・長持（収納具）

食　桶・一斗樽・穀箱・甕・俵・つぐら・桶・大甕（以以貯蔵）・鍋・釜・やかん・すいのう・とうじかご・おひつ（以上炊事）・こんろあみ・ふるい・ところ天押器・おろし金・石臼・杵（以上調理・調製具）・もろみかくはん棒・みそかき棒（以上醸造）・木盃・陶製盃・なつめ・煎茶用布巾筒・茶杓・煎媒・きせる入れ・煙草入れ・楽雁作り型（以上嗜好品）・重箱・木製匙・弁当箱・



パンフレット

盆・めんぱ・漆器椀（以上飲食器）

住　けんどん箱式戸棚・へっつい・十能・火ばし・鉄あみ・火運び・火消壺・長火鉢・手焙・鬼瓦・はしご段(以上住居)・桐箪笥・箱机・漆塗木箱・机・電灯のかさ・灯心台・納戸箪笥(以上家具・調度)

生産・生業　蚕室暖房用火桶・桑摘みかご・すくら折り器・蚕かご・桑切り台・桑こき台・蚕あみ・桑こき(以上養蚕)・麻糸・座ぐり・糸枠・おぼけ・いざり機・整経器・高機・麻撚機・つむ・あい甕・片手桶・伸子・張手(以上染織)・スコップ・土入れ機・平鍬・備中鍬・細鋤・じょれん・筋切り鎌・カルチベーター・草掻き・金鍬・振馬鍬・四つ叉鍬・三つ叉鍬・板鍬先・風呂鍬(以上農耕具)・千歯ごき・稲刈り鎌・なた・ふるい・摺臼・(以上収穫・調整具)・手押し消毒ポンプ・脚立・鎌掛け(以上管理具)・わらすぐり・わら編み台・わら打ち槌・木槌・かけ矢・縄ない機・ねこ編み機・ねうし・杵・押し切り鎌・下駄作り道具・たがね・木針(以上手工)・魚網・筌・かすみ網（以上魚撈・狩猟）

交通・運輸・通信　背負子・地車・牛車・鞍・自転車・両掛け・文箱・矢立・ござはばき・胴乱・布製物入れ・ほら貝・のれん・一斗枡・測量縄・そろばん・藩札・富くじ札・貨幣

社会生活・信仰　消防ポンプ・竜吐水・じょれん・三つ叉鉤棒・とび口(以上防災)・脊町戸籍簿・脊町契約書・旧々地籍図(以上行政資料)・神社おはらい札(信仰)

民俗芸能・遊技　伎楽面・舞楽面・そり・三十六歌仙雙録・蹴鞠沓・まり・百人一首・尺八・面子・下駄スケート・ひな飾り・内裏びな

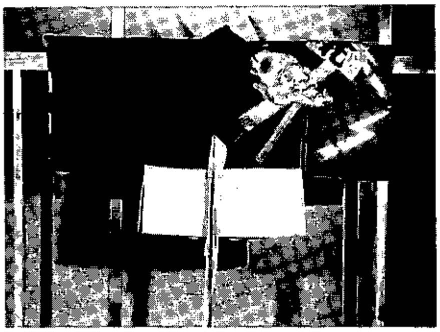
古文書・絵図等　大日本道中絵図・寛永御江戸絵図・長野市中部絵図・日本百将伝・甲越勇士鑑・東海道膝栗毛・続東海道膝栗毛・小島田村絵図

古美術　川中島合戦謙信車懸図錦絵・煉革黒漆塗仏胴具足・胴丸鉄具足・唐扇・和鏡・長井雲坪画水墨夏景山水図・賀川華城書・中林梧竹書

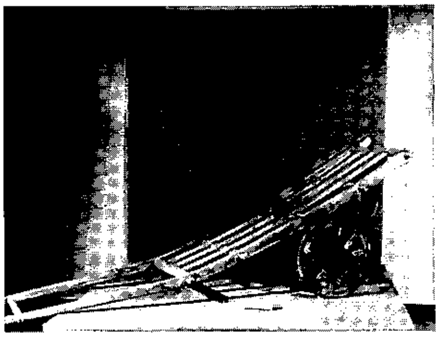
化石　森島一夫・冨沢恒雄氏寄贈品

埋蔵文化財　小島境遺跡出土品・聖川堤防遺跡出土品

これらの展示品の寄贈者等については年報VOL 1を参照に願いたい。　　　　（矢口忠良・大林育薬）

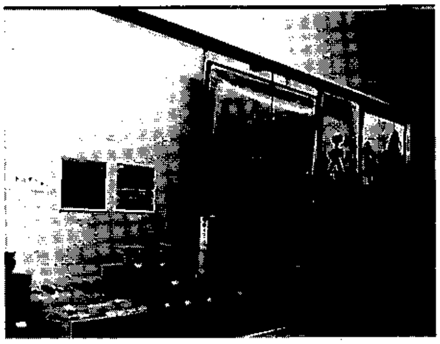


祭袢てん



地車

展示



展示

(3) 第5回企画展「シナノから科野国へ」

期間　昭和58年7月17日～8月21日
　　　（実質開館日数31日）
出版物　A2版カラー刷ポスター 500枚
　　　　A4版両面刷二ツ折パンフ
　　　　『シナノから科野国へ』B5版本文90頁
入館者　約13,000名

〔趣旨〕

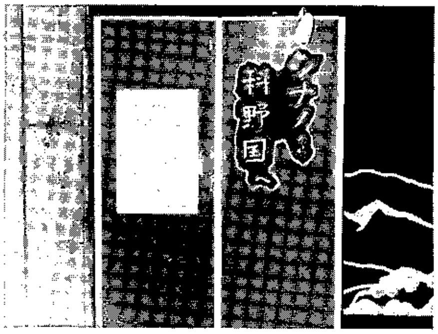
長野県に関係する古い国名「信濃国」は、和銅6年(713年）に改称されたもので，それ以前は「科野」という字があてられている。この字がいつから用いられたかは明らかでないが，地方制度を定めた「大化の改新」(645年）以前から「シナノ」という音韻はあったことは事実であろう。それが連綿と続き現在に至っている。

ただこの標題は文献史学的な問題が残ることを懸念するところであるが,「科野国」の成立が祭政一致的意味あいをもっている点を強調したいための字句であって他意はない。言いかえれば本企画展の趣旨にかかわる問題で,「シナノ」を弥生時代後期に,「科野国」を大和政権を媒介とする地域文化圏と政治的統一による初期のクニとしてのまとまりをもち，それに継続する時代を指している。年代でいうと3世紀から5世紀にかけての動乱の時代を想定している。

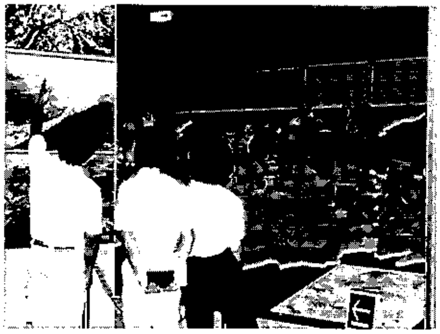
本企画展は考古学的資料がこの問題にたいし，資料が何をものがたり，確証としての資料になりうるか問いたいものであることから出発し，その内容においては生活必需的性格を有する土器の様相と権力者の墓制と副葬品・社会構成の変化などの異なりをもって地域差と時間差を認識することにある。

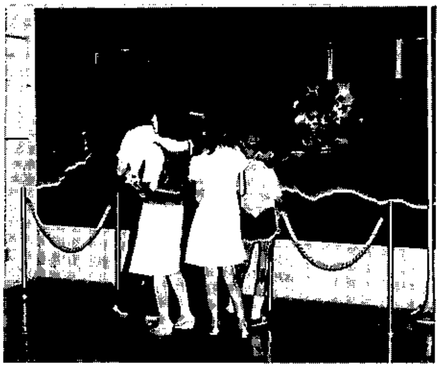
〔内容〕

伊那谷を受入口に県内に流入した弥生文化が定着し，シナノ独自の弥生文化が成熟する過程で，山地と河川流域に区画される地域に独自の文化を生み出してきている。そのきわめつけは千曲川水系と天竜川水系に大別でき，共に強い独自性を有しており，その中から権力者の存在を思わせる墓制（方形周溝墓）が出現してくる。これがやがて大和政権に組み込まれ，高塚としての前方後円墳が登場する。その副葬品が当時の文化的内容をものがたっていると考え，展示構成・資料の選択をはかった。主題をムラからクニへ――天竜川と千曲川の弥生文化・青銅器と祭祀・首長の誕生,



展示室入口


展示解説


展示「箱清水式土器」

展示「弥生時代」

科野国の幕あけ——土師器の登場・玉造りのムラ・古墳の出現と大別した。

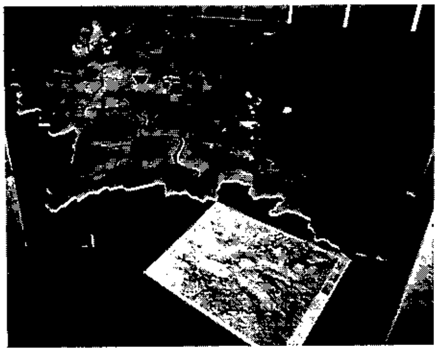
展示資料等は下記の出品目録のとおりである。

① 出品目録 (敬称略)

中野市歴史民俗資料館			
	安源寺遺跡	土器	8
		紡錘車	4
		土製勾玉	2
		土製丸玉	1
川柳将軍塚保存会(長野市)			
	川柳将軍塚古墳	埴輪円筒棺	1
布制神社(長野市)			
	川柳将軍塚古墳	銅鏡	6
		勾玉	4
		管玉	103
		小玉	2(連)
		琴柱状石製品	2
平出遺跡考古博物館(塩尻市)			
	柴宮遺跡	銅鐸	1
岡谷市教育委員会			
	橋原遺跡	土器	12
		紡錘車	3
		石包丁	2
		砥石	2
諏訪市片倉館			
	下蟹河原遺跡	土器	6
辰野町郷土美術館			
	樋口五反田遺跡	鉄斧	1
喬木村教育委員会			
	帰牛原遺跡	銅鏃	1
菅沼直亮(下伊那郡豊丘村)			
	伴野原遺跡	銅鏃	1
飯田市教育委員会			
	恒川遺跡	土器	23
	小池遺跡	土器	3
	中島平遺跡	紡錘車	2
飯田市立竜丘小学校			
	兼清塚古墳	銅鏡	3
長野県教育委員会			
	酒屋前遺跡	土器	10
	上ノ金谷遺跡	土器	1
	滝沢井尻遺跡	鉄剣	2

展示「森将軍塚古墳」

展示「森将軍塚古墳出土品」



展示「古墳時代土器」

展示「弥生時代土器」

宮崎遺跡　　石器　　5

長野市立博物館

聖川堤防遺跡　土器　　24

四ッ屋遺跡　土器　　4

牟礼バイパスA地点遺跡　土器　　10

小島境遺跡　土器　　1

玉類　　7

玉未成品　　一括

玉砥石　　3

伴野稀一郎（佐久市）

社宮寺遺跡　銅鏡破片　　1

管玉　　25

勾玉　　1

鉄斧　　1

土器　　1

小山直（小県郡武石村）

上平遺跡　巴形銅器　　1

上諏訪神社（大町市）

小谷地方（？）　銅戈　　1

小島貞雄（長野市）

松節遺跡　銅鉾　　1

依田ノブ・依田修一（長野市）

長野市若穂保科出土　鉄刀　　2

更埴市教育委員会

灰塚遺跡　土器　　6

生仁遺跡　骨角器　　18

紡錘車　　2

石製品　　3

銅釧　　1

森将軍塚古墳

土製品　　1

鉄鏃ほか　　14

管玉　　3

勾玉　　1

銅鏡破片　　4

埴輪　　9

千曲川水系古代文化研究所（埴科郡戸倉町）

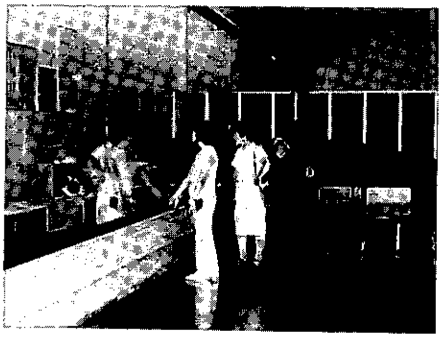
御屋敷遺跡　土器　　5

佐良志奈神社（埴科郡戸倉町）

箭塚遺跡　細形銅剣　　1

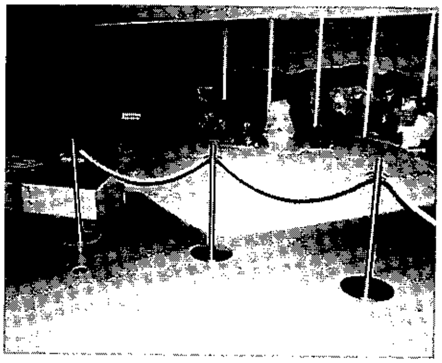
望月町教育委員会

後沖遺跡　土器　　7

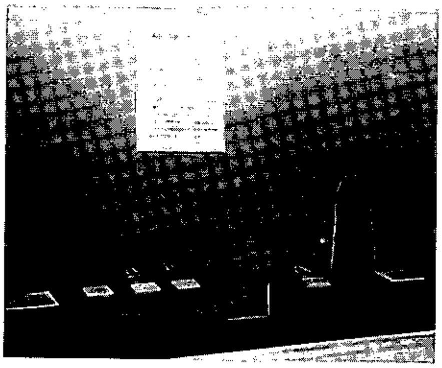


展示「古墳時代」

展示「方(円)形周溝墓」



展示「森将軍塚古墳」



展示「青銅器」

後沢遺跡　玉造り剝片	16
佐久市教育委員会	
後沢遺跡　土器	9
周防畑Ｂ遺跡　土器	17
下小平遺跡　土器	4
松本市教育委員会	
弘法山古墳　銅鏡	1
ガラス小玉	481
鉄斧	1
鉄剣	3
鉄器破片	2
鉄鏃	20
銅鏃	1
土器	4
中山36号古墳　銅鏡	1
土器	1
宮渕遺跡　銅鐸破片	1

②写真パネル　(　)内は提供者

後沖遺跡（望月町教育委員会)・弘法山古墳（松本市教育委員会)・森将軍塚古墳（更埴市教育委員会)・恒川遺跡（飯田市教育委員会)・社軍神遺跡（丸子町教育委員会)・年礼バイパスＡ地点遺跡・聖川堤防遺跡・小島境遺跡（以上長野市)・県内各地域航空写真（信濃航空株式会社）

③復元模型等

長野県地形図　発泡スチロールを台に，おがくずで立体感を出し，山地を茶色，河川を青色で表現した。

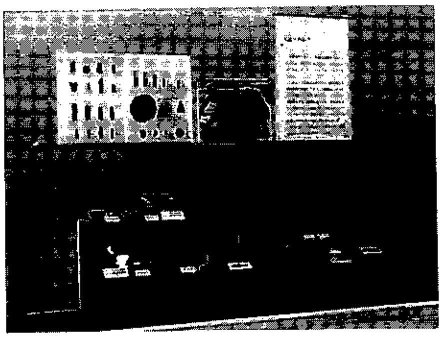
方形周溝墓・円形周溝墓　長野市聖川堤防遺跡と佐久市後沢遺跡のものを約10分の１の規模で復元し，出土地点付近に遺物を置いた。造り方は箱形に基礎をつくり表面をおがくずで覆う方法をもちいた。

前方後円墳　森将軍塚古墳を想定して模型化した。材料は上記と同じである。

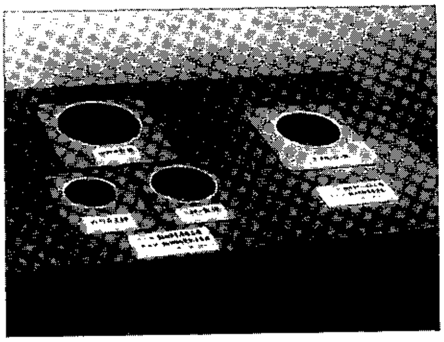
④解説パネル

天竜川流域の弥生後期文化・千曲川流域の弥生後期文化・ムラからクニへ・弥生時代の墓制・青銅の祭祀・科野国の幕あけ・土師器の登場・古墳の出現・玉造りのムラ(以上全倍)・石製農耕具・武器を形どった祭祀・紡錘車・素環頭大刀・占骨・白銅製垂飾・銅鐸・巴形銅器（以上変形Ｂ５）

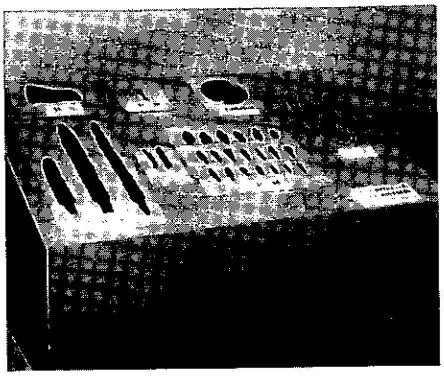
⑤16㎜映画　「登呂の村」「大和の国のはじまり」土・日・祝日１日４回上映



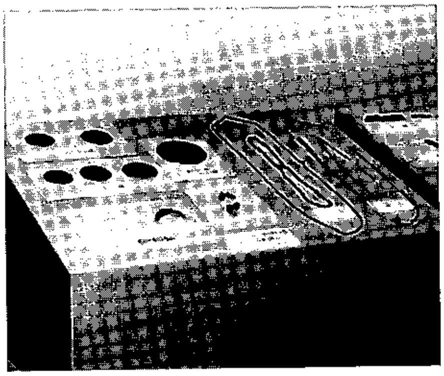
展示「玉造り」



展示「鏡鑑」



展示「弘法山古墳出土品」



展示「川柳将軍塚古墳出土品」

⑥考古学教室　企画展開催中の土・日曜日の午後2時から行う。

⑦図録原稿執筆者

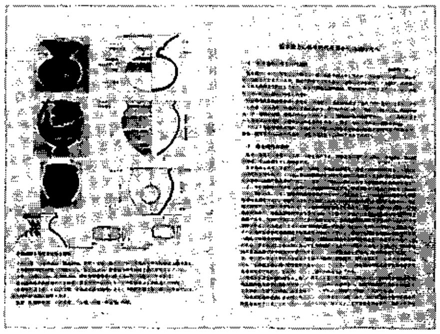
「シナノから科野国へ」森嶋　稔

「千曲川水系の後期弥生文化とその終焉」笹沢　浩

「下伊那における地域性とその終結」神村　透

「松本地方の弥生時代後期から古墳時代へ」神澤昌二郎

「諏訪地方弥生後期の様相とその終焉」宮坂光昭



図録

出品いただいた方々のほか、この企画展を開催するにあたり以下の皆さんのご指導・ご協力をいただいた。末尾ではあるが記して感謝の意を表します。

森将軍塚古墳発掘調査団・上田市立信濃国分寺資料館・松本市立博物館・岡谷美術考古館・諏訪市美術館・喬木村歴史民俗資料館・飯田市考古資料館・長野県埋蔵文化財センター・長野県史刊行会・丸子町教育委員会・金井汲次(中野市)・岩崎卓也(野田市)（敬称略・順不同)。　　　　　　　　（青木和明・大林育葉）

ポスター

(4)　第6回特別企画展「街道と旅」

期間　昭和58年10月9日～11月13日

（実質開館日数31日）

出版物　B2版カラー刷ポスター 300枚

A3版カラー刷ポスター 200枚

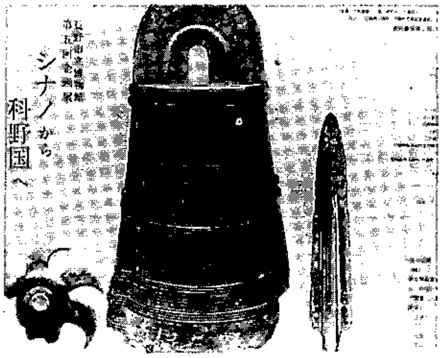
A4版両面刷二ツ折パンフ

『街道と旅』B5版本文57頁

入館者　6,237人

〔趣旨〕

旅は自分の世界から他の世界へ行くことで，人と自然とのかかわりと，人と人との交流を通じて，人間が生きるための多くの情報と物を得ることだといわれている。私たちの祖先も人生の旅を通じて人間の生命を守り，文化を育て，子々孫々へ伝えて来た。そしてその文化を広めるために，人々は集団でより遠くへ道を求めて，あるときは争い，あるときは力を合せ道の整備につとめた。古くは縄文時代の黒曜石の道，弥生時代では籾の道に代表される。古墳時代には峠の荒振る神を鎮める祭祀が行われ，奈良時代以降になると7つの官道が定められ，整備され，地方と都を結ぶ道が完備してきた。中世は軍馬の道・宗教の道になり，旅や物資輸送のため施設が整備されたりし，その時代・



パンフレット

入口看板

時期を象徴される光景が行き交った。

今回の企画は，こうした長い歴史の上につちかわれた道とそこを往還した旅人にスポットをあててみた。ただ近世後期以前の資料があまりにも少なく，それも文献資料がほとんどである。こうした点を考慮し，時代の設定を幕末から明治時代初期に中心を置き，文献資料は必要最低限におさえて，目で見て理解できるよう道具・用具・錦絵・民俗的資料を多く展示し，昔の旅にはどのようなものがあり，またどのようなものであったか理解することにある。

〔内容〕

古代・中世を代表して神器の石製模造品・万葉歌碑・親鸞聖人伝絵・松平忠輝制札・宋銭をとり上げてみた。近世以降は関所（番所）・大名行列（参勤交代）・宿場と旅・講・運輸・旅人の6主題を設けた。

まず入場券として「御番所中」なる木札を発行し，それを持参して入館するわけである。入るとすぐ大笹関所門が4分の3大で復元され，そこを通過すると左手に役人がひかえた関所が，右手に一里塚のある道を行き交う飛脚・旅人・越後の毒消し売り・越中の薬売りの5体の人形を配し、ふんい気を出している。宿場のコーナーは休憩所を兼ね16mm映写会場として利用した。

出品目録は下記のとおりである。

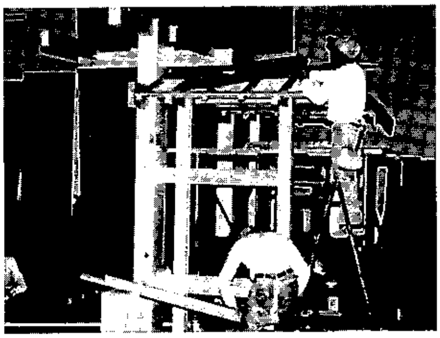
①出品目録 （敬称略）

古代・中世関係

資料名	員数	所有者・備考
神坂峠出土品	41	阿智村教育委員会
入山峠出土品	24	渡辺考古民俗資料館(軽井沢町)
紙本著色親鸞聖人伝絵	1	康楽寺(長野市塩崎)
松平忠輝制札	2	牟礼神社（牟礼村）
宋銭	5	（小出ふみ子寄贈）
万葉歌碑拓本	1	青木村教育委員会

関所（番所）関係

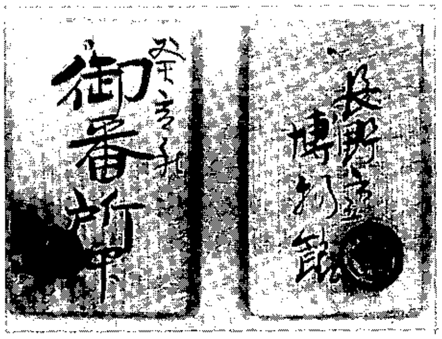
関所門	1	大笹関所復元(¾大)
幔幕	1	推定復元
突棒・刺股・袖搦	3	鈴木守雄(小川村立屋番所)
突棒・槍	2	長谷川義人(坂城町鼠番所)
突棒・刺股・弓・十手	6	西沢義昭（坂城町）
鉄砲	2	長野市立共和小学校



関所門復元工事

関所門復元工事

関所門復元



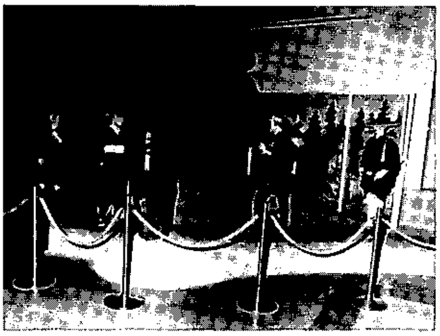
入場券(札)

裃	1式	長谷川義人(坂城町)
陣笠	1	〃
鳶口・熊手	2	鈴木守雄(小川村)
竜吐水	1	(石井久務寄贈)
足かせ・帯尻	2	上田市立博物館
御用日記	1	長谷川義人
福島関所絵図写	1	生駒勘七(木曽福島町)
紀州女手形	1	〃
江戸留守居判鑑	1	〃
鉄砲証文	1	安井善三(木曽福島町)

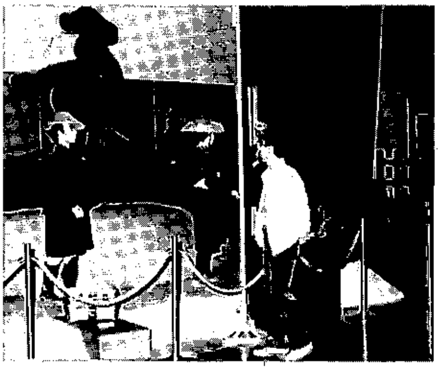
展示「関所」

大名行列（参勤交代）関係

加賀藩大名行列図屏風	1双	石川県立郷土資料館
大名行列押絵屏風	1	藤井常夫(善光寺宿本陣)
大名行列道具(加賀藩)		石川県立郷土資料館
陣笠	1	
薬莢入れ	1	
太刀筒	1	
鉄砲	1	
朱塗武具運枠	1	(財)成巽閣（金沢市）
大名行列道具(上田藩)		上田市立博物館
十文字槍	1	
素槍	1	
毛槍	1	
纒	1	
馬印	1	
大名行列道具ひな形	1式	木曽福島町郷土館
前田公使用旅道具		(財)成巽閣（金沢市）
角透骨扇子	1	
下街道絵図入扇子	1	
網入携帯用ロウ立(三段式銀水呑内蔵)	1	
銀水呑（吸口付）	1	
銀丸形火打器	1	
什器	1式	小川道彦（軽井沢町追分宿脇本陣）
東都道中分間絵図	3巻	上越市立高田図書館
信州通御道中日記	1	〃
御乗物	1	榊神社（上越市）



展示「旅人」



展示「旅人」

宿場・講・旅関係

宿場		
丹波島宿絵図	1	柳島慎一（長野市）

展示「茶屋」

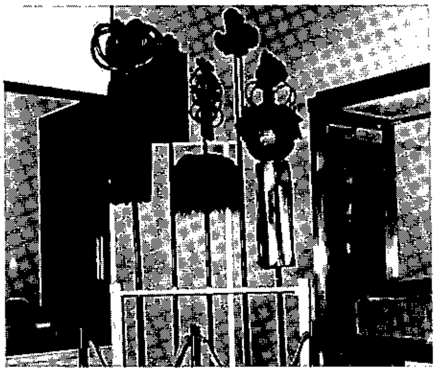
関札等		
柳生但島守他	3	土屋勝氏(軽井沢町追分宿本陣)
設楽甚十郎様御宿	1	新右衛門屋敷象山桑原記念館（更埴市）
道中先触	1	〃
「脇御本陣小川」看板	1	小川道彦
「柿崎平九郎」看板	1	柿崎幹男（更埴市矢代宿脇本陣）
「ふじや平五郎」看板	1	藤井常夫氏
薬種販売の看板	1	上越市立総合博物館
加賀様宿帳控	1	（藤井常夫寄贈）
高札	1	西沢健吉（長野市）
講		
戸隠講中幕	1	極意旅館(戸隠村)
松平丹波守書状		〃
一新講看板	3	（藤井常夫寄贈）
蓮友講鑑札	1	〃
金比羅参宿図		藤井常夫
伊勢参道中絵図		上田市立博物館
旅装束		
旅人姿(人形付)	1	㈶交通博物館(東京都)
三度笠	1	上田市立博物館
道中合羽	1	〃
着物	1	〃
道中防寒外被	1	新右衛門屋敷象山桑原記念館（更埴市）
はさみ箱	1	〃
両掛け	1	（酒井喜仁寄贈）
大日本道中絵図	1	（野本きみ寄贈）
道中独案内図	1	〃
旅行用心集	1	㈶交通博物館
路銀		野本きみ（長野市）
丁銀	1	上田市立博物館
矢立て	3	（野本きみ寄贈）
胴乱	3	〃
キセル入れ	3	〃
煙草入れ	3	〃
弁当箱	1	〃
旅札	1	〃
中山道宿場錦絵	8	藤森治幸（長野市）
道標	1	篠ノ井五明区

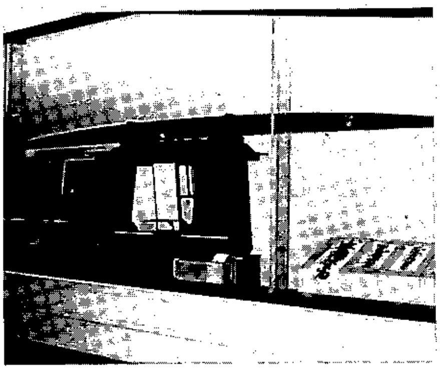
運輸・商人

飛脚装束		逓信博物館(東京都)
飛脚箱	1	

展示「講」

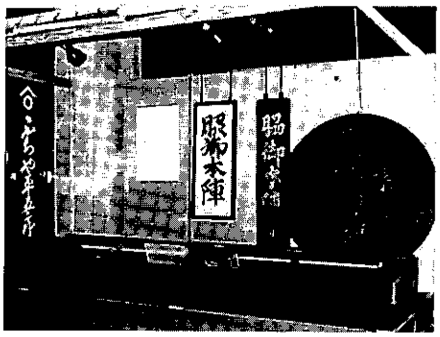
展示「大名行列道具」


展示「大名行列道具」

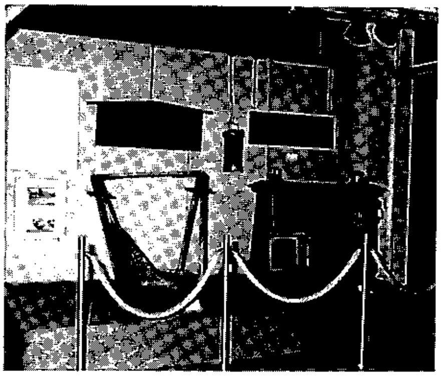

展示「関札・御乗物」

胴乱	1	逓信博物館(東京都)
革袋	1	
法被	1	
胸当	1	
草鞋	1	
網袋	1	
風呂敷	1	
道中高札	1	
現金運送箱	1	
伝馬		
御朱印箱	1	土屋勝
御用箱	1	木曽福島町郷土資料館
高札(駄賃定)	1	土屋勝
藩鑑	1	〃
中馬・中牛		
松本の中馬絵馬	1	保福寺(松本市)
三州街道中馬絵馬	1	育良神社(飯田市)
大上野村絵図	1	木曽福島町郷土館
尾州名入の提灯	3	〃
鑑札	1	牧内亮憲（長野市）
越中薬売の装束		㈶水橋歴史資料館(富山市)
着物	1	
厚子(あつし)	1	
前掛	1	
角帯	1	
足袋	1	
脚袢	1	
股引	1	
風呂敷(薬籠)	1	
薬籠	1	
中くくり(真田紐)	1	
笠	1	
煙草入れ	1	
越後薬売の装束		巻町郷土資料館(新潟県)
着物	1	
帯	1	
手甲	1	
脚袢	1	
草鞋	1	
足袋	1	
風呂敷(薬籠)	1	
乗物	1	南部小学校
山駕籠	1	(長沼小学校寄贈)

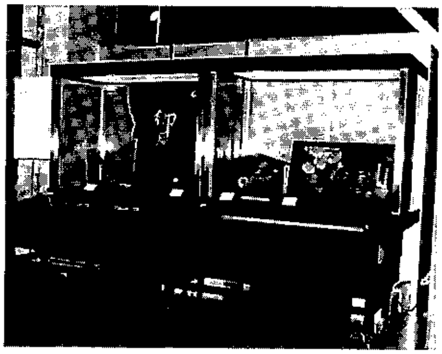
展示「大名行列図屛風」



展示「宿場」



展示「運輸」



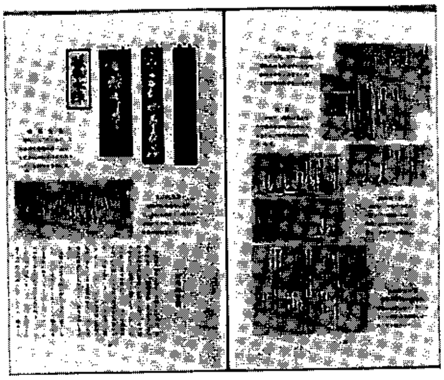
展示「運輸」

写真提供・複写関係

資　料　名	所 有 者・備 考
神坂峠(信濃側)	木下平八郎（飯田市）
入山峠遠望	『入山峠』軽井沢町教育委員会
犀川渡船図	『復刻善光寺道名所図会』信濃毎日新聞社
立石の茶屋	〃
康楽寺門前の図	〃
前田公使用旅道具	(財)成巽閣
加賀藩大名行列図屛風	石川県立郷土資料館
加賀藩大名行列道具	〃
大笹関所門	宮沢卯蔵（長野市）
万葉歌碑	青木村教育委員会

展示「古代・中世」

映画を見る



図録

ポスター

②図パネル

主要交通路図――東海道・甲州街道・中山道・水戸路・日光街道・三国街道・北国街道・千国街道・三州街道

参勤交代石高別往還道図――上記と同じ

③写真パネル

丹波島船渡（善光寺道名所図会より）・追分の分去れ・海野宿・馬籠宿・神坂峠（美濃側を望む）・万葉歌碑

④復元模型等

大笹関所門・関所取り調べ室・高札場・一里塚・茶屋・大名行列道具立て

⑤解説パネル

古代の旅・中世の街道と旅・近世初期の街道と旅・五街道と脇街道・関所と口留番所・寺社詣・講・参勤交代・宿場・運輸（伝馬）・運輸（中牛・中馬）（以上全倍）・旅装束・松代藩内絵図・大名行列の道具・関所門・篠ノ井追分立石の茶屋（以上全紙）

⑥16㎜映画　「むかしの旅」（東映株式会社）

茶屋を利用して，希望者がある場合は常時上映した。そのため日・祭日は休む暇もなかった程である。展示資料と映像・音響の効果が有機的に連携した例といえよう。

⑦図録原稿執筆者

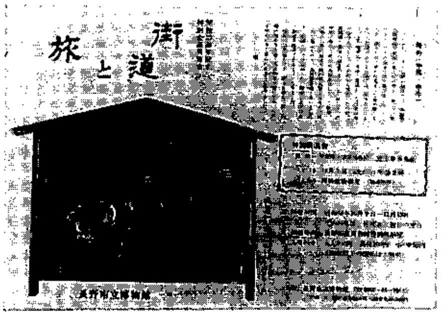
「街道と旅について」西沢武彦

尚、児玉幸多先生から展示内容について、誤りの指摘をいただいたほか以下の方々のご指導をいただいた。記して感謝いたします。

飯田瑞穂（尊經閣文庫）・今村善興（飯田市）・小林正春（飯田市教委）・清沢聡（上越市）・土屋長久（軽井沢町歴史民俗資料館）・吾妻良秋（坂城町）・長井勘尓（和

田村)・矢野恒雄（県史刊行会)・中沢大治（長野市)・松本徳繁（長野市)・金子清（長野市)・新潟県史刊行会・和田村郷土資料館・松井田町誌編さん委員会・富山市立郷土博物館・嬬恋村教育委員会（敬称略・順不同）

（藤森治幸）



パンフレット

(5) 第７回企画展「ワラと生活」

期間　昭和59年２月19日～３月25日

（実質開館日数30日）

出版物　Ａ２版カラー刷ポスター 350枚

Ａ４判両面刷二ツ折パンフ

『ワラと生活』Ｂ５版本文75頁

入館者　約4,000人

〔趣旨〕

ワラは，水稲栽培の技術が伝来した今から約2,300年前から利用されてきたと考えられ，次第に日本人の生活と深いかかわりを持ち，独特の生活文化をつくり上げてきた。やわらかで繊維質に富んだワラは，加工しやすいうえ，どこでも手に入る特性がいっそう生活の中で利用されるようになり，盛んに多方面で使われるようになった。特に冬の間雪にとざされた地域では，農業の一部としてワラ細工が定着し，農作業の補助具から日常生活の用具にいたるまで，多種多様の民具が製作されてきた。

中でも気候や地形に強く影響された農業の補助具としての製品は，地域性が強く，更に降雪量の多寡の差も加わって，使用の目的と方法によっても地域差が生じてきている。そしてその技法は，親から子へと相伝され，人々の生活の中に生きて来た。

最近，農業や日常生活で，ワラ製用具の利用が減り，ワラ製品の生産も徐々に減していきつつあり，一部を除き，民芸品として取り扱われているのが現状といっても過言ではなかろう。

こうした中で，もう一度ワラがはたした役割りを見なおし，人と自然とのかかわりの深さを認識してみようというのが今回の企画展である。

〔内容〕

ワラ製品を，衣・食・住・農耕・山仕事・狩猟・漁撈・養蚕・畜産・運搬・信仰・人の一生に分類し、更に手仕事の技，手仕事の用具，はきものにみるワラ民具の地域性に大別し展示した。また製品のみの展示では，ワラ製品になじみの薄い40歳以下の人達には単な

ぞうりをつくる

たわらをつくる

わらぼてをつくる

るモノとして理解されやすいので，今回も技術伝承者による技術展示（実演）とワラ細工教室「ゾウリを作ろう」を実施した。実演で作った製品および実演者(敬称略）は次のとおりである。ぞうり・わらじ・(堀米和雄・長野市西三才)，たわら・ばせ(堀米和雄・長野市西三才)，わらぼて（大日方英雄・長野市安茂里)，ふんごみ（小林宗太郎・長野市広瀬)，つぐら（大日方英雄)，みの（渡辺けさの・深石よね・飯山市照岡）

展示資料と製作者・所有者等（敬称略）は下記のとおりである。●は重要有形民俗文化財に指定されている。展示にあたっての名称はカタカナを用いた。

①生活の中のワラ

衣生活

資料名	員数	製作者(地)	所有者・寄贈者
スゲボウシ	1	津南町（新潟県）	津南町歴史民俗資料館
ワラボウシ	1	松倉旧義(美麻村)	製作者寄贈
ワラテブクロ	1	須坂市	須坂市立博物館
ケミノ	1	津南町	津南町歴史民俗資料館
ミノ	1	〃	〃
〃	1	須坂市	須坂市立博物館
〃	1	長野市芋井	芋井郷土資料室
〃	1	長野市中越	（大川成司寄贈）
〃	2	原山繁穂（戸隠村）	製作者寄贈
〃	1	松倉旧義	〃
〃	1	飯島角松（大町市）	
ハバキ	2	堀米富治（山ノ内町）	
〃	1	大町市	
ゴザハバキ	1	長野市小田切	（原山賢一寄贈）

食生活

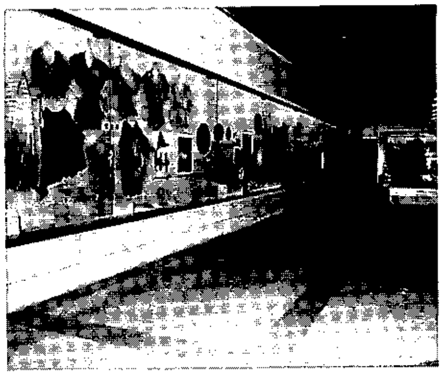
コシキ	1	津南町	津南町歴史民俗資料館
ミソコシ	1	〃	〃
ミソコシオケ	1	〃	〃
ワダラ	1	〃	〃
●ナベシキ	1	〃	〃
ツットコ	1	吉沢梅吉(長野市川中島)	製作者寄贈
タワラ	3	〃	〃
タワランバセ	4	望月秀雄(長野市若穂)	〃

住生活

カマツグラ	1	須坂市	須坂市立博物館
メシビツツグラ	1	〃	〃

みのをつくる

展示



展示

展示「衣生活」

ネコツブラ	1	須坂市	須坂市立博物館
カマツグラ	2	長野市小田切	(柳沢善一郎寄贈)
ワラボウキ	1	飯島角松	
庭木雪除け	1	松倉旧義	製作者寄贈
〃	3	羽田国義(長野市西寺尾)	〃

農耕

●カ ベ	1	津南町	津南町歴史民俗資料館
●アシナカ	1	〃	〃
フルイ	1	須坂市	須坂市立博物館
カマス	1	〃	〃
ワラボテ	2	宮島克己(長野市丹波島)	製作者寄贈
〃	1	羽田国義	〃
ワラボテノツツ	1	〃	〃

山仕事

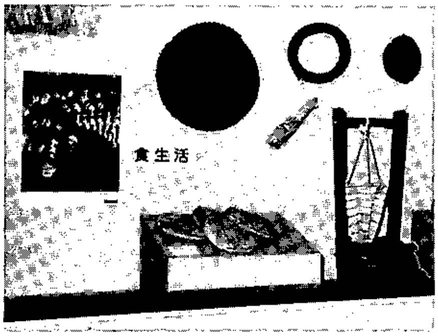
●タ ス	1	津南町	津南町歴史民俗資料館
カマス	1	堀米富治	
トイシブクロ	1	須坂市	須坂市立博物館
ショイブクロ	1	〃	〃
トブクロ	1	大日方英雄(長野市芋井・小市)	製作者寄贈
ショイブクロ	1	小林宗太郎(長野市芋井)	〃
ウソカケ	1	西山定則(中条村)	〃

狩猟・漁撈

●ワグラ	1	津南町	津南町歴史民俗郷土資料館
●サケテゴ	1	〃	〃

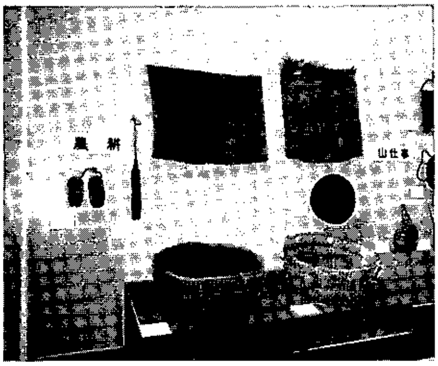
養蚕

●クワトリテゴ	1	津南町	津南町歴史民俗資料館
●クルマヅク	1	〃	〃
●サンザ	1	〃	〃
カイコムシロ	1	長野市若穂	(望月秀雄寄贈)
スクラ	3	〃	〃
スクラアミキ	2	〃	〃
スクラオリキ	1	長野市塩崎	(駒村 満寄贈)
〃	1	〃	(鎌田むつ寄贈)
〃	1	長野市小田切	(酒井英知寄贈)
ナワアミ	1	長野市松代	(野村堯春寄贈)
ナワアミキ	1	長野市川中島	(山崎範夫寄贈)
〃	1	長野市小田切	(酒井英知寄贈)

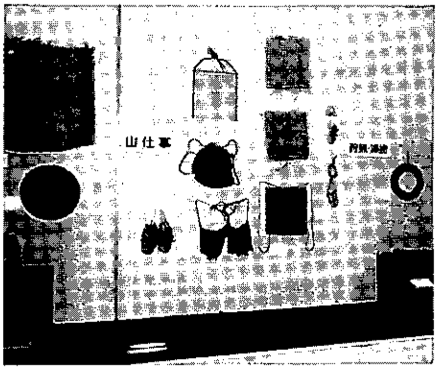


展示「食生活」

展示「住生活」



展示「農耕」



展示「山仕事・狩猟・漁撈」

畜　産

ウマノソッコウ	1	須坂市	須坂市立博物館
ウマワラジ	1	大日方英雄	製作者寄贈
ウマノクツ	1	小川村	
〃	1	飯島角松	
〃	3	羽田国松	製作者寄贈
ウマノクツゴウ	1	長野市芋井	芋井郷土資料室
〃	1	美麻村	(松倉旧義寄贈)
ウシノクツ	1	小川村	
ガ　ニ	1	飯島角松	

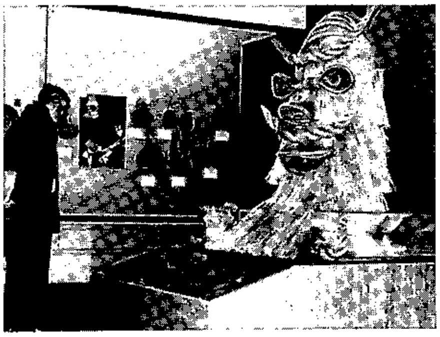
運　搬

●セナコウジ	4	津南町	津南町歴史民俗資料館
●ナワテゴ	1	〃	〃
●コエテゴ	1	〃	〃
セナカチ	1	飯山市	渡辺金松
〃	3	栄村ほか	須坂市立博物館
セナカアテ	1	大日方英雄	製作者寄贈
〃	1	飯島角松	〃
ショイコ	1	長野市若穂	(依田寿朗寄贈)
〃	1	上田市	(森山公一寄贈)
〃	1	駒ヶ根市	(松本才徳寄贈)
ショイコノテ	1	小川村	
〃	1	原山繁穂	製作者寄贈
モッコ	1	長野市芋井	芋井郷土資料室

信仰・行事

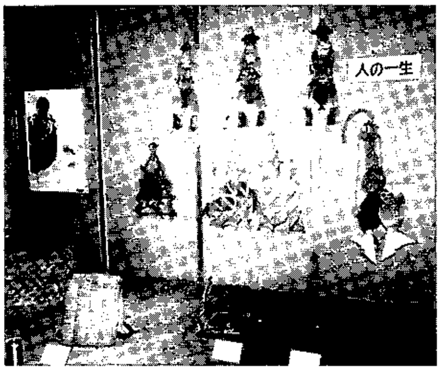
ホウソウヨケ	1	津南町	津南町歴史民俗資料館
ヨコジメ	1	羽田国義	製作者寄贈
〃	1	松倉旧義	〃
大黒ジメ	1	羽田国義	〃
〃	2	宮島克己	〃
ゴボウジメ	2	〃	〃
アシツキ大黒	1	〃	〃
輪ジメ	2	〃	〃
三尺横ジメ	1	〃	〃
シャクシジメ	1	〃	〃
オオジメ	1	羽田国義	〃
宝　船	1	宮島克己	〃
〃	1	〃	〃
ヤ　ス	1	飯島角松	〃
神面装飾道祖神	1	大岡村芦ノ尻区	
ワラウマ	14	中野市・上山田町・真田町・戸隠村・戸倉町・和田村・坂城町・長野市	(森山公一寄贈)
ヤス（大・小）	4	大岡村芦ノ尻区	(芦ノ尻区寄贈)
七五三縄	5	〃	〃
シメカザリ	1	〃	〃
ボウジメ	1	〃	〃

展示「養蚕・運搬」



展示「信仰・行事」

展示「信仰・行事」



展示「人の一生」

人の一生

ツグラ	1	長野市信更町	(大矢好武寄贈)
ハイノウ	1	長野市芋井	芋井郷土資料室
ツ　ル	1	津南町	津南町歴史民俗資料館
カ　メ	1	〃	〃
サンシキ	1	大岡村	大岡村歴史民俗資料館
〃	1	小川村	小川村歴史民俗資料館

②手仕事と用具

手仕事の技

細　縄	8	吉沢梅吉	製作者寄贈
太　縄	1	〃	〃
三つ縄	1	〃	〃

手仕事の用具

ムシロバタ	1	長野市小田切	(酒井英知寄贈)
ネコバタ	1	〃	〃
ワラスグリ	1	〃	〃
ツマガケノカタ	2	〃	〃
ゾウリヅクリ	1	〃	〃
〃	1	長野市信更町	(酒井祐治寄贈)
コモアシ	1	長野市若穂	(望月秀雄寄贈)
コモデイシ	8	〃	(　〃　)
ヨコヅチ	1	長野市松代町	(八田　勇寄贈)
〃	1	長野市篠田	(春原和昭寄贈)
ジョオベエイシ	1	戸隠村	(今井嘉正寄贈)

③はきものにみるワラ民具の地域性

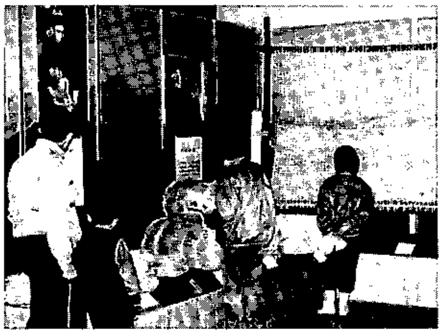
平坦部地域

ゾウリ	11	吉沢梅吉	製作者寄贈
〃	2	羽田国義	〃
ワラジ	1	吉沢梅吉	〃
〃	1	羽田国義	〃
ワラジ(子供用)	1	〃	〃
〃	2	一由房四郎(長野市安茂里)	製作者寄贈
〃	3	望月秀雄	〃
コキグツ	1	羽田国義	〃
ウソカケ	1	長野市中越	(大川成司寄贈)
フカワラグツ	1	長野市若槻	(関　康二寄贈)
コンゴウ	1	小川村	(小林　勇寄贈)

飯山以北

●ツマガケ	1	津南町	津南町歴史民俗資料館
●スッポン	1	〃	〃
●クツズッポン	1	〃	〃
●スッペズッポン	1	〃	〃

手仕事の技　松倉旧義氏



展示「手仕事の技」

展示「飯山以北のはきもの」

展示「飯山・平坦部のはきもの」

●スッペノカタ	1	津南町	津南町歴史民俗資料館
スッペ	1	〃	〃
カンジキ	1	〃	〃
スカリ	1	〃	〃
ゴンゾノツツ	1	小田切蓮(飯山市)	
ワラグツ	1	〃	
ゴンゾ	1	〃	
〃	1	飯山市	渡辺金松

戸隠（芋井を含む）

スッペソ	1	原山繁穂	製作者寄贈
ゾウリ	1	〃	〃
ワラジ	1	〃	〃
ワラグツ	1	〃	〃
カンジキ	1	〃	〃
フンゴミ	1	〃	〃
〃	3	和田与作(戸隠村)	
〃	1	長野市芋井	芋井郷土資料室
フンゴミ(子供用)	1	〃	〃
コンゴウ	1	〃	〃
ワラグツ	1	〃	〃
ワラジ	1	〃	(寄贈) 小林宗太郎

西山部（小田切を含む）

ツマガケ	2	大日方英雄	製作者寄贈
ハナムスビ	1	〃	〃
ウソカケ	1	〃	〃
ワラジ	1	〃	〃
コンゴウ	1	〃	〃
〃	1	小川村	小川村歴史民俗資料館
ユキグツ	1	〃	〃
ゴンゾウ	1	〃	〃
コンゴウ	1	西山定則	製作者寄贈
ワラジ	1	〃	〃
ゾウリ	10	酒井英知	〃
ウソカケ	1	〃	〃

④写真パネル（敬称略）

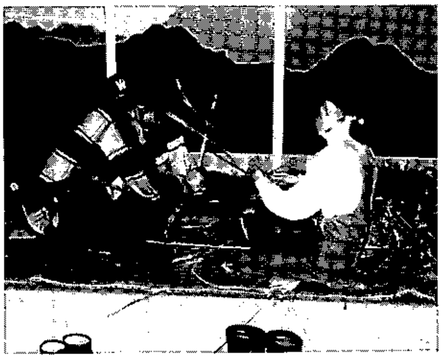
始まった稲刈り・みそ玉をつるす・まゆかき・ショイコを使う・馬ひき・ツグラで育てられる子・雪道を行く人（以上 柴崎高陽(上田市) 撮影）

ミノボウシをかぶる子供たち（ 原田征夫(牟礼村) 撮影）

ゴンゾノツツを編む・ゴンゾノダイを編む・豪雪地帯（以上 鈴木政秀(須坂市) 撮影）

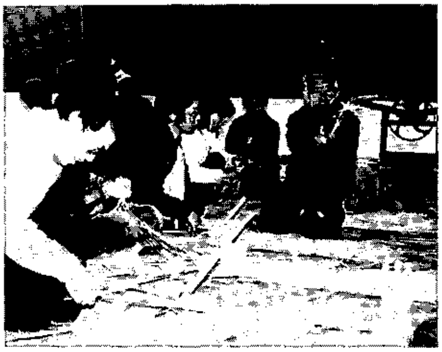
ウマノクツをつくる・大岡村のシメ飾り・大岡村芦

展示「西山部のはきもの」



体験コーナー

体験コーナー



ワラ細工教室

ノ尻道祖神・縄を綯う・コンゴウを編む・ゾウリを編む・ネコを掻く・ミゴカマスを織る・ワラスグリ・ワラタタキ・ツマガケノカタを使う・ハナムスビをつくる・空からみた善光寺平

⑤解説パネル

生活の中のワラ・手仕事と用具・はきものにみるワラ民具の地域性・体験コーナー・大岡村芦ノ尻道祖神（以上全倍）・ワラウマ・手仕事の技「掻く」・「編む」・「織る」・「綯う」——平坦部のはきもの・西山部（小田切）のはきもの・戸隠（芋井）のはきもの・飯山以北のはきもの（以上全紙）

ワラ細工教室

⑥16㎜映画　「わら細工」（群馬県教育委員会監修・毎日映画社）

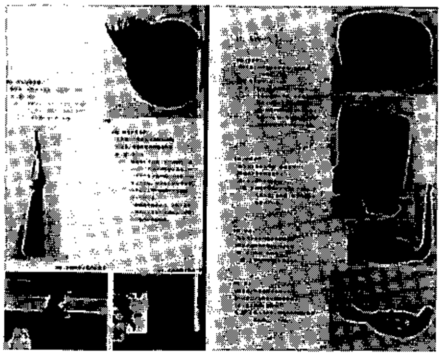
⑦ワラ細工教室　「ゾウリをつくろう」3月10日午後1時より，定員20名

実技指導者　大日方英雄（長野市安茂里）

堀米和雄（長野市西三才）

⑧図録原稿執筆者

「ワラと生活」　向山雅重


図録

出品・寄贈・製作・実演いただいた方々のほか，この企画展開催にあたり，以下の皆さんのご指導・ご支援をいただいた。末尾であるが記して感謝申し上げます。

文化庁無形文化民俗文化課・群馬県教育委員会・大岡村芦ノ尻区・丸山利雄（飯山市）・宮沢茂（長野市西寺尾）・和田辰三（西寺尾）・松本忠義（小川村）・松本史（小川村）・和田初義（小川村）・保坂進（津南町）・金子哲雄（津南町），（順不同・敬称略）　（山口　明）

ポスター

(6)　常設展示室「機織り」実演

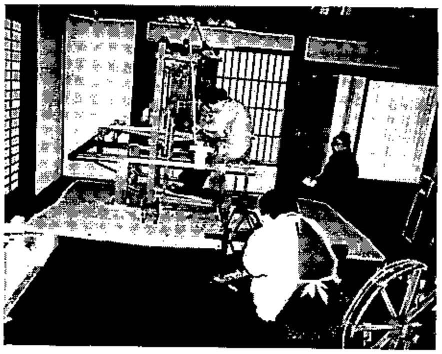
期間　昭和59年1月～3月の毎土・日・祝日

実演者　小林よしゐ・長沢マス・小林こう・岡沢安子（長野市小島田町）

染色・しつけ　松本花子（長野市松代町）

〔内容〕

機織りは，冬の仕事の一つであったが，一部工芸品を除いて織られなくなって久しい。そして織り手も高齢になり，技術伝承者も少なくなっている。こうした動きの中で，昔盛んであった機織りを復元し，実演展示することは博物館の使命であると考えている。今回の実演は木綿平織である。　〔矢口忠良〕


機織り

2 調査研究

1) 埋蔵文化財

埋蔵文化財の調査では，社会教育課が事務手続などの行政，および会計面を担当し，現場における調査・整理関係を博物館が行うことになっている。そのため昭和58年に実施した調査及び整理は，青木和明学芸員（社会教育課兼務）が主体になって行い，報告書を作成中である。

尚、調査で得られた資料・諸記録は，すべて博物館で保管している。

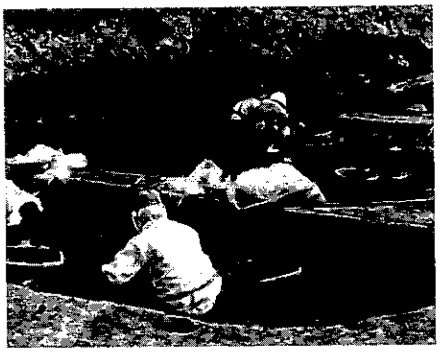
(1) 小島・柳原遺跡群（石渡・北尾張部）
　　—小島境地点遺跡（第2次）—

期間　昭和48年4月13日～5月22日

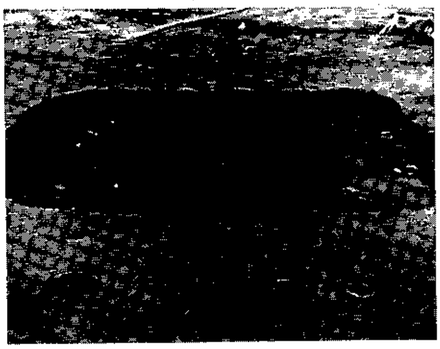
調査原因　特殊宅地造成事業に伴う緊急発掘調査

担当職員　矢口忠良・山口　明・青木和明

調査結果　主として弥生時代から古墳時代にかけての複合遺跡である。低湿地が断続的に広がる中の微高地に本遺跡がある。第1次調査で玉造り工房址が発見され有名になり，今回の調査でも工房址の可能性がある2軒の住居址を検出したが，主体的遺構を確認するにいたらなかった。検出した遺構は，弥生時代中期住居址1軒・後期1軒，古墳時代前期住居址4軒・方形周溝1か所・中期土壙2基，近世水田水路ほか溝および柱穴群がある。遺物は該期の什器類を中心とするが，粘土層に包含されていたため，残存状態は良くない。玉造り関係では砥石・剥片・砕片が出土している。



小島境地点遺跡調査



小島境地点遺跡住居址

(2) 箱清水遺跡（第2次）

期間　昭和58年6月21日～6月24日
　　（遺構確認分布調査）
　　昭和58年9月10日～9月22日

調査原因　長野県立長野西高等学校体育館建設に伴う緊急発掘調査

担当職員　青木和明

調査結果　明治時代，この学校の敷地から多量の土器が出土し，弥生時代後期の箱清水式土器の標式遺跡になった。第1次調査は昭和55年に行われ，古墳時代の柱穴群・該期の遺物が確認されている。今回の調査地は，山よりにあり，敷地造成時に削平されている可能性があったため，分布調査を実施したところ包含層が調査地東側に残っており，住居址の一部を確認したため本調査を実施することにした。遺構は，弥生時代後期住居址1軒と学校造成前の旧地形を検出すること

箱清水遺跡調査

ができた。

(3) 土口将軍塚古墳（第2次）（岩野・土口）

期間　昭和58年7月27日～3月29日

調査原因　学術調査（国庫補助事業）

担当職員　青木和明

調査結果　昨年の第1次調査は，墳丘測量・葺石・埴輪列のあり方などをさぐるのが目的であった。2年目の今回は，主体部を中心に進められた。主体部は墳丘主軸上に併列して2基確認された。ともに数回の盗掘を受け石室の破壊が著しかったが，盗掘者もさすがに2基あるのに気がつかなかったのか，2号竪穴石室から鉄鏃約20点・甲冑破片数点・ガラス小玉類が出土した。また墓壙周縁より土師器高坏などを得た。竪穴石室の規模は，主軸長(推定)6m・巾0.6mである。

(4) 石川条里的遺跡（第2次）（篠ノ井）

期間　昭和58年8月27日～9月5日

調査原因　団体営ほ場整備に伴う緊急発掘調査

担当職員　青木和明

調査結果　今回調査した地点は，昨年の場所より更に西側に移り，現状でも条里的遺構がうかがえる地点である。調査は下部まで破壊を受ける用水溝建設地をトレンチによった。この結果畦畔を約20か所確認することができ，埋没年代を知る手掛りの資料として，畦畔わきに須恵器坏が10枚重なって横転した状態で出土したのをはじめ，皿形の灰釉陶器片を得た。これにもとづくと11世紀前後の年代と推定される。花粉分析によれば，今回検出した埋没水田の下にもう1ないし2つの水田があった可能性が強い。

(5) 塩崎遺跡群（篠ノ井）

―塩崎小学校地点遺跡（第4次）―

期間　昭和58年10月11日～10月27日

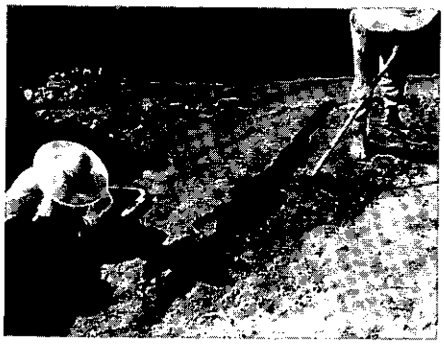
調査原因　児童会館建設に伴う緊急発掘調査

調査職員　青木和明

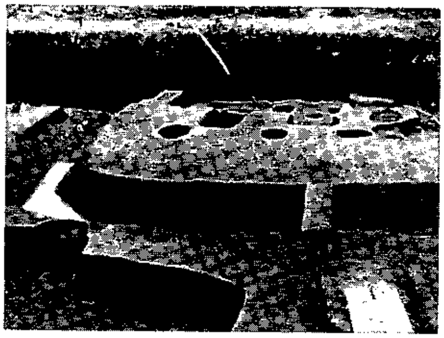
調査結果　第3次までの調査地は，学校敷地内であったが，今回は学校に隣接する地域であるので，遺跡名も従来のまま使用した。これらの地域は，どこを掘り起こしても遺物・遺構にあたる所で，今回の調査でも奈良時代を中心とする住居址9軒・土壙2基・柱穴群と古墳時代前期の方形周溝墓1基を検出した。遺物

土口将軍塚古墳調査

土口将軍塚古墳石室



石川条里的遺跡調査



塩崎遺跡群方形周溝墓

は該期の土器が多数出土したほか，奈良時代に比定できる銙帯金具（丸鞆）が住居址内より出土した。

(6) 宮崎古墳（松代）

期日　昭和58年11月11日～11月23日

調査原因　宅地造成事業に伴う緊急発掘調査

調査職員　青木和明

調査結果　この古墳は，関屋川の扇状地上にあり，水田造成時破壊を受けており天井石・盛土もほとんど失われていたし，石室も２分の１程しか残っていなかった。積石塚で，横穴石室をもつ古墳であったことをうかがわせ，壁には長さ１ｍ以上もある巨石が使用されており，床面には円礫がしきつめられていた。遺物は，盗掘をまぬがれたものに，直刀・刀子・鉄鏃などの武器，鉸具，雲珠などの馬具，丸玉・ガラス小玉などの玉類がある。これらの出土状態は，一か所にかたまることなく散乱していた。

(7) 三輪遺跡

期間　昭和58年11月29日～30日

調査原因　都市計画公園造成事業に伴う分布調査

調査職員　青木和明

調査結果　トレンチ法により調査したところ，古墳時代中期の遺物包含層を確認し，また該期の遺構も存在することが判明した。本調査に備え，埋め戻しをもって調査を終了した。

(8) 上駒沢遺跡

期日　昭和58年12月２日～４日

調査原因　農業基盤整備事業に伴う分布調査

調査職員　青木和明

調査結果　本調査地は，浅川・駒沢川の扇状地端部にあたっており，すぐ西方に湧水遺構を伴う駒沢祭祀遺跡がある。当初この遺跡より東側下方には遺跡がないものと考えていたが，河川改修地にトレンチを入れたところ部分的に遺物包含層が確認されたり，弥生時代の土壙１基を検出した。また調査地より東は，グライ土壌が広がっていることがわかった。

（青木和明）

宮崎古墳調査

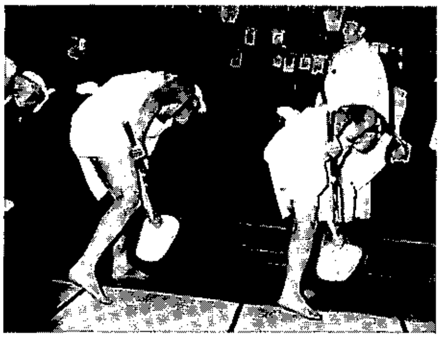
宮崎古墳石室

三輪遺跡調査

上駒沢遺跡調査

2) 民俗文化財

長野市とその周辺地域に伝承される有形及び無形の民俗文化財の調査と記録を鋭意進めている。有形の民俗文化財については，調査研究の成果を逐一，企画展示に反映させている。ここでは特に無形民俗文化財の調査について記す。


御田祭り

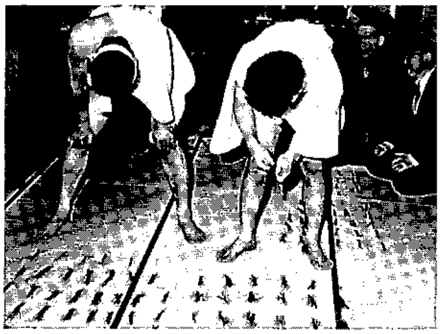
(1) 玉依比売命神社御神事

調査月日　昭和58年1月6・7日

調査地　長野市松代町東条

調査者　山口　明

内容　前年に引き続き，再調査を行なった。6日は午後3時より御田祭りが行なわれ，3名の独身男性(近年では該当者が少ないため，独身とは限定しないという）が作男に扮し，神前にて，神官よりお祓いを受けたのち，御田植えの所作に入る。神官の音頭で，餅に柄をつけた鍬を用いて，田起こしを行なう。次に作男は馬・鼻とり・馬鍬となって，代掻きを行ない，拝殿の下陣を掻き回る。次に神官の「宜し」の合図で作男は苗の代わりに松葉を受取り，下陣で田植えの所作を行なう。まわりで見ている村の人々も，松葉をもらって，一緒に田植えを行ない。豊作を祈願する。

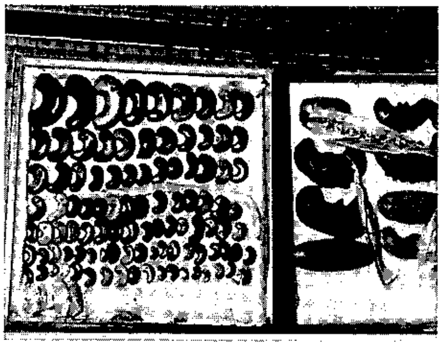

御田植祭

田植えが終わると下陣で神官を胴上げし，次に大総代，作男と順に胴上げをして神事は終了となる。

二日目は早朝8時より児玉石の神事・包換神事が行なわれる。児玉台の神事は神官による御玉読みで，年毎の増減により，その年の豊凶を占う。冒頭に読みあげる3点の子持勾玉はそれぞれ「宝祚延長ノ石」・「天下泰平ノ石」・「氏子繁昌ノ石」の紙箋が付けられている。神官は御神宝の玉を紙マスクをして，1つ1つ改めながら読み進め，下陣両側には総代が着座して，玉数を筆記していく。今年は789個で1つ減になった。

児玉石の神事

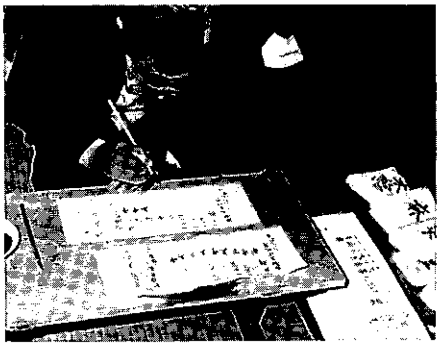
西の間では，併行して前年神前に供えた甕の中から包み紙をとり出し，1種ずつ包み紙を開き，蒸御飯の糀のつき具合を上中下と判別する。この結果は御田祭包換と記した用紙に，「一早稲中・一中稲中・一晩稲上・一大麦下・一小麦下・一大豆中・一粟下・一麻下一木綿中」と記して，氏子に配られる。神占が終わると来年のために，蒸御飯を紙に包み，甕に入れて，神前に供えて包換神事は終了となる。


児玉石（勾玉）

児玉石の神事に用いられ，特別視される子持勾玉は，

「玉はまた玉を生む」と信じられている。その性格を究明する上で重要な神事と位置づけられる。

御田祭に始まる一連の神事は，豊作を祈願し，子孫繁栄を祈り，穀物の豊凶を占う予祝行事であるが，現在まで継承されているのは全国的にも珍しい。



包換神事

(2) 芦ノ尻道祖神祭

調査月日　昭和58年1月7日

調査地　更級郡大岡村芦ノ尻

調査者　矢口忠良・山口　明

内容　前年に続いての調査で，道祖神を作る過程を中心に調査を行なった。

芦ノ尻は43戸からなる部落で，上組・下組の2組より成る。午後1時半頃より，道祖神前の祭場に各家から下げられた松飾りが持ち寄られる。昨年作った道祖神の顔をとり除き，祭場に山と積まれたシメ縄の中から，道祖神の顔を想定しながら，各部位に適したシメ縄を選び出すことから始められる。

道祖神碑の位置

七五三のタレジメをまず腰巻風に碑に何重にも回す。次に太いボウジメ2本を組み合わせて，眉をつくる。そして眉の下にヤスを二重にして，両目を作って，取り付ける。目の下にはヤスを組み合わせて大きな鼻を形づくる。口はヤスを開いて二重にし，それを上下に組み合わせる。次に眉の上部に，ヤスを開いて5段重ねにした帽子をかぶせる。最後に鼻と口の間にボウジメ2本をつなげて，口ひげとする。以上の本体づくりと併行して，酒樽（小さいヤスを集めてつくる)・三つ重の酒杯（ヤスを3段に重ねる)・鯛（ボウジメを曲げる）がそれぞれつくられ，本体の前に供えられる。

前年の道祖神

一方，祭場の南側ではどんど焼きの準備が同時に進められ，山から伐り出した栗・松・檜の3本を御神木として，ヤグラがつくられる。

参会者は道祖神に供えた御神酒や煮物などをいただき，神と飲食を共にして，散会となる。

今は道祖神の後ろに新道が通るが，以前は碑の前に道が通っていたという。従って，現在は新道に道切りがシメ縄を用いて行なわれている。

道祖神をつくる

(3) 越の道祖神祭り

調査月日　昭和58年1月15日

調査地　　長野市篠ノ井塩崎越

調査者　　山口純一・山口　明

内容　越地区では昭和30年頃まで，道祖神祭りが行なわれ，また戦前は若衆組によって執り行なわれたという。しかしその後は途絶えてしまい，現在に至っている。今般，民俗行事を見直そうという気運の中で30年余り途絶えていた道祖神祭りが復活されることになった。

越地区の道祖神祭りはどんど焼きのヤグラの中に大きなワラ人形を据えるという珍しい形態を有する。

早朝，各家では松飾りを下げて，公民館へ持ち寄る。公民館の一角にはワラ束が大量に持ち込まれ，準備が整えられる。30余年ぶりのため，古老２人の指導のもとに人形づくりが進められた。

人形はお姿と呼ばれ，胴体・腕・足・指・頭の各部分が次々にワラを束ねて作られる。また巨大なオンマラとタマを作って，各部分は出来上りとなる。

一方，公民館の中では，お姿の烏帽子・顔・袖・腹掛け用にお札(ふだ)を広げて貼り合わせを行なう。お姿づくりが一段落すると，人々は貼り合わせた紙のところに寄り集まって，袖には女性の陰部を墨書きし，そのあと各人がそれに筆を入れ，更に「夫婦円満」「子孫繁栄」などと添書きされる。腹掛けには巴の文様を描く。次いでお姿の顔が描かれる。

こうしてお姿づくりの各部分ができると，山から伐り出したくぬぎの木３本による御神木の中に胴体に頭をつけたお姿が運び込まれる。このあと腕・足がつけられ，オンマラを御神木から吊り，タマを安置して，組み立ては終わりとなる。このあとお札を貼り合わせて，その裏に墨書きしたものをお姿に飾りつけ，完成となる。

完成したお姿は，両手でオンマラを抱(いだ)き，両足を前に出してタマを抱え座した形となっている。

お姿が完成すると，持ち寄られたダルマや松飾りがヤグラの中に入れられ，このあと道祖神にお参りし，御神酒を供える。

夕刻になると，人々が大勢集まり，ヤグラは切り火によって，点火される。

この道祖神祭りはワラ人形で男神をつくり，ヤグラの中に据え，夕刻にはどんど焼きで燃やしてしまうというもので，いまのところ，近隣に類例はなく，その系譜や性格を究明する上で，更に調査を重ねる必要がある。

部位（タマ）をつくる

部位（マラ）をつくる

長谷の道祖神

(4)　清水神社の秋祭り

調査月日　昭和58年10月４日

調査地　　長野市真島町真島

調査者　　山口　明

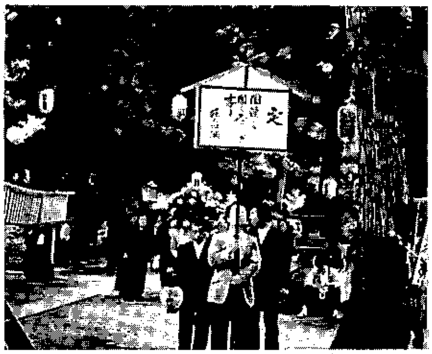
内容　秋祭りは春の祈年祭に対して，収穫祭とも呼ばれ，盛大に祭りが行なわれる。

午後２時に神主を先頭に各部落の区長・氏子総代が続いて，鳥居から入る。境内に入ってから，神主がお祓いをした後，拝殿に進み着座する。このあとは神道の例規に従い，お祓い，各区長・氏子総代らによる玉串の奉奠（ほうてん）などがおごそかに行なわれて神事は終わる。ここまでの神事は春の祈年祭の時と同様の次第で進められる。

以上の神事が終わると，拝殿の前に仮設された祭場で、各部落による太々神楽が奉納される。境内に各組の神楽が並び警固役２人が拝殿の前に進み出て,「これから〇〇組，太々神楽を奉納します」とあいさつをする。これを合図に境内より拝殿脇に，道中囃子を奏しながら進む。このあとしゃんぎりに移り，神楽の中より獅子頭をとり出し，舞台に上がって，獅子舞を奉納する。今年は中真島組が年番のため，祭典係２人が拝殿の前の両側に，また各組の警固役２人がその隣を固める。

神楽奉納が滞りなく終わると，神主・年番(中真島)組・堀ノ内組・前渕組・北村組と順に奉納される。

神楽奉納が滞なく終わると，神主・年番（中真島）の氏子総代のあいさつが行なわれ，このあと参会者全員で万歳三唱をして終わる。各組の神楽は，各自の組に戻り，夕刻より家々を回り，夜遅くまで，にぎやかな神楽噺子を奏する。



清水神社秋祭り

清水神社秋祭り

清水神社秋祭り

(5)　芦ノ尻道祖神祭

調査月日　昭和59年１月７日

調査地　　更級郡大岡村芦ノ尻

調査者　　矢口忠良・山口　明

内容　前年は道祖神の顔を作る工程を写真に収めたが，今回は芦ノ尻の各家における松飾りの実態を調査することを主眼とした。

芦ノ尻道祖神は各家々のシメナワで作られるが，善光寺平ではみられないシメが多い。芦ノ尻では，七五三にボウジメを垂らし，その両側に大小のヤスを松につけて飾るシメが多くみられる。七五三に垂らすが絢

芦ノ尻の道祖神祭り

わないで，ワラ束を下げる簡略的なものもある。このようなシメが基本的なものとみられる。そのほかに，7本のみ，5本のみ，3本のみという変化型もみられる。こうした門口に飾るシメの中央には，昆布・鰑・橙などがつけられる。

七五三のタレジメの両側に飾るヤスは大小を組み合わせるのが本来の姿という。今回の知見では，大きいヤスだけをつけたのが目立った。大きいヤスは歳神様に供える椀に相当し，径5cm程の小さいヤスは御神酒の盃にあたる。また松飾りの松も七階・五階・三階のそれぞれを場所に応じて飾った。

また門口ではなく，屋内のそれぞれの場所を司どる神々には，ボウジメが松とともに飾られる。

これらのシメナワは，現在でも全戸で，それぞれの家の伝統に従ってつくられている。シメナワがつくられる限り，異様な顔立ちをして村を悪霊から守ってくれる道祖神づくりも継続していくと思われる。

第7回企画展「ワラと生活」では芦ノ尻道祖神を館内に展示することになっている。

芦ノ尻の道祖神

(6) 長谷・越の道祖神祭り

調査月日　昭和59年1月15日

調査地　　長野市篠ノ井塩崎長谷・越

調査者　　山口純一・山口　明

内容　前年は30余年ぶりに復活した越の道祖神祭りを調査し，記録に留めた。今回は，越のほかに，近隣でも類似した習俗が伝承されていると聞き（県史刊行会宮下健司氏の御教示）調査することにした。

越組では昨年と同様にワラ人形がつくられたが，昨年のオスガタづくりの中で2か所ほど誤りが確認された。まず胴体の腹掛けに描かれる巴が昨年は右巴だったが，これが左巴に訂正された。次にオスガタのオシマラが上下逆であったことが指摘された。

長谷・越では，現在でも数ヶ所で道祖神祭りが行われているが，その中でも東谷と平の両組は越と同様に人形を作る点で注目される。

東谷は戸数80ほどの組で，部落の中には，松飾りをせず，豆がらに御幣をつける習俗が伝承されているところもある。東谷ではどんど焼きのヤグラを道祖神碑の上につくる。ヤグラの中に松飾りやダルマなどをつめるとヨメ・ムコのフウフモノと呼ばれる人形2体をヤグラに立てる。人形は長い竹の先端に30cm程の竹

長谷のどんど焼き

を十字に組み，その下に40cm位の幅に新聞紙を巻き芯とする。この芯棒に色紙で作った服を着せる。頭はかぶらを竹にさして作る。ムコは大福帳を左に持ち，ヨメは扇を右手に持ち，向かって右にムコ，左にヨメが位置する。ムコは青色に近い着物と柴色の袴，ヨメは黄色の着物と赤色の袴を着用し，袴の下からムコは青と赤の御幣，ヨメは赤の御幣を下げる。

このフウフモノの人形もどんど焼きの火であっという間に燃え，芯棒だけとなる。

また道祖神碑はどんど焼きの火で燃やし，もろくなるためか他の組のものに比し，大きな碑が立てられている。

平は17戸ほどの小さな組で，部落の中には道祖神碑はみられないが，ヤグラを作ってどんど焼きを行なう。

ヤグラの高さは170cm程の小形で，その中に立ち姿のワラ人形を据えるという。我々が越・東谷とまわって，平に着いた時には，ヤグラに点火され，ワラ人形がくずれ落ちる時で，人形の姿や作り方など詳細はわからない。来年の再調査に期待したい。

以上，長谷・越という狭い地域の中で，それぞれ内容の異なる道祖神祭りが行なわれていることがわかった。こうした人形送りの系譜や分布，どんど焼きと道祖神祭りの習合の仕方など究明すべき問題は多く，更に東谷や平の個々の祭りの追求と分析が必要になると思われる。（山口　明）

東谷のどんど焼き

東谷のどんど焼き

3）温泉調査

目的　長野市とその周辺にある温泉の成分とその含量を調べ，地震との関連性を考える。

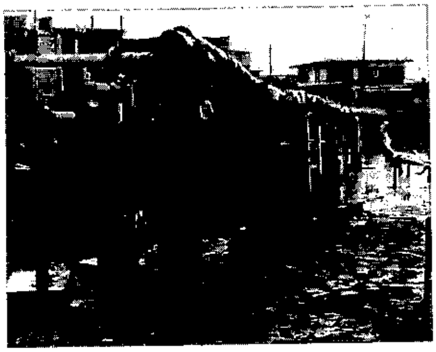
調査月日　8月17日・9月13日・10月12日・11月15日・12月23日・1月20日・2月8日・3月10日（月1回）

調査場所　森（更埴市）・倉科（更埴市）・太陽通信社（松代）・松代温泉・一陽館（松代）・長野市保健保養訓練センター（松代）・温湯温泉（若穂）

調査者　大蔵満・中沢袈裟延・西川昭史

内容　各々の場所で気温・泉温・電気伝導度・pHおよびRpHを測定し，採集ビンに泉水を取る。採集ビンに取った泉水を翌日分析する。

成分分析は，陽イオンとしてマグネシウムイオンおよびカルシウムイオン，陰イオンとして硫酸イオンお



調査「松代温泉」

よび塩素イオンの計4種類について行なった。

測定方法　温度補正した温度計を用いて気温と泉温を測定し，伝導度計を用いて電気伝導度を測定した。pHとRpHは，比色法によって測定した。また硫酸イオンは吸光度法，塩素イオンはモール法，カルシウムイオンとマグネシウムイオンに関しては，EDTA溶液を使ってキレート滴定してそれぞれ求めた。

分析に用いた試料

(1)pH・RpHの測定

指示薬としてPR・BTBを使用した。

(2)硫酸イオン測定

塩化バリウムーゼラチン溶液・塩酸

(3)塩素イオン測定

硝酸銀・クロム酸カリウム

(4)カルシウムイオンとマグネシウムイオンの測定

EDTA溶液・EBT・NN・塩酸ヒドロキシルアミン・アンモニア・水酸化カリウム

(5)水はすべてイオン交換樹脂を通した。

測定結果　泉温は，各温泉でかなりのばらつきがあったが，松代温泉・一陽館・保養センターの温泉では，弱酸性を示し，新しい空気を入れて激しく振ると弱アルカリ性になる。このことは，これらの温泉に炭酸イオンが多く含まれていることを示している。他の温泉では，弱アルカリ性を示し，空気を入れて振っても変化がなかった。さらに松代温泉・一陽館・保養センターの各温泉は，4つのイオンの含量や電気伝導度の値が他の温泉に比べてけた違いに大きかった。以上のことにより，調査した温泉は，大きく二つのタイプに分れることがわかった。

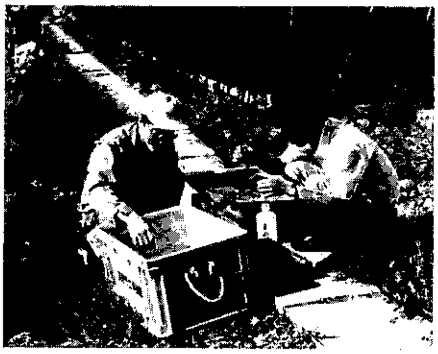
1つは，弱酸性で，炭酸イオンが多く，新しい空気を入れると弱アルカリ性になり，イオンの含量の多い温泉は，松代温泉・一陽館・保養センターである。

他の1つは，弱アルカリ性で，新しい空気を入れても変化がなく，イオンの含量が少ない温泉は，森・倉科・太陽通信社・温湯温泉である。

考察　いまのところイオンの含量・電気伝導度等には，変化がないが，これらの値が変化する可能性も大である。今後は，炎光光度計を使いナトリウムイオンとカリウムイオンの含量を求め，炭酸イオンの含量やアルカリ度等を調べ，どのような因子が，地震と関連性があるかを調べてみる必要があろう。

事例として11月16日に行なった測定値を示す。

調査「森」



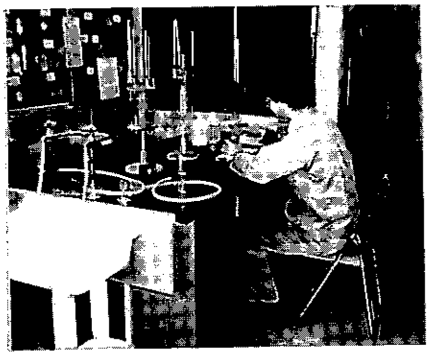
調査「倉科」

調査「太陽通信社」

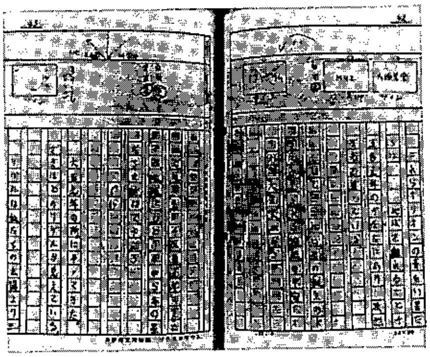
調査「訓練センター」

場所	泉温(℃)	pH	RpH	Cl^-	SO_4^{2-}	Ca^{2+}	Mg^{2+}(mg/kg)
森	33.1	8.6	8.6	92.0	48.1	28.1	0.5
倉科	24.5	7.9	8.0	127.6	38.0	60.9	4.9
太陽通信社	20.3	7.2	7.4	216.2	38.5	92.2	27.2
温湯温泉	29.4	8.1	8.1	79.2	42.0	13.6	0.9
松代温泉	45.7	6.9	7.2	9,004.3	275.0	985.9	282.1
松代保養センター	50.2	6.8	7.2	1,0138.7	275.0	1,018.0	296.7
一陽館	41.2	6.5	7.2	6,203.7	275.0	1,250.5	262.7

（中沢袈裟延・西川昭史）



水質分析



シナリオ

番組製作(録音)

番組製作(録音)

4） 天体学習室

〔運営方針〕

プラネタリウムの投影室を天体学習室と呼んでいる。通常の平日は，学校教育関係の理科教育センターが使用し，土曜・日曜及び祝日は，当博物館が使用することになっている。当館が使用する場合は，一般を対象に投影しているが，それは劇場などのように楽しみを中心とする所ではなく，あくまで天体のことについて学ぶ場・教室と考え，また事故防止の立場から投影の際に次の注意をお願いしている。

○投影開始後の学習室への出入はできないこと
○自分の席を立たないこと
○話をしないこと
○機械類には絶対に手を触れないこと
○室内での飲食・喫煙はしないこと

〔投影時刻等〕

午前9時30分・11時，午後1時・3時の4回である。このほか小中学校が長期休業の時は，平日の午後2時に特別投影を行なっている。投影時間は，40分前後としている。

団体予約は，入館者数（定員120名）に限りがあるため，第1回目の投影に限り受けつけている。

〔投影内容〕

毎回当館職員による自主制作番組であるが，夏の番組から録音に限り株式会社長野トップに委託している。

(1) 春の番組（昭和58年3月～5月）

①題 「内惑星の世界」

ロケットで水星・金星に行き，水星・金星の世界を体験し，地球がいかに生命の誕生にふさわしい条件をそなえているかを知る。

②スカイライン 「長野市の昼・水星・金星」

③星・惑星・雲星・星団等 「水星・金星・北斗七星・北極星・しし座（レグルス）・かに座(プレセペ(M44))・うみへび座（アルファルド・ふたご座)」

④神話 「しし座・うみへび座・かに座」

⑤スタッフ

声　松木正則

絵　井原美恵

企画制作　長野市立博物館

(2) 夏の番組（昭和58年6月～8月）

①題 「星の招待状」

星子がラビという星空の郵便配達人とともに夏の星座をめぐりながら，七夕の話をおりまぜて，織姫に会いに行く話。

②スカイライン 「銀河通り」

③星・惑星・星雲・星団等 「みなみのかんむり座・かんむり座・南斗六星・北斗七星・いて座・さそり座（アンタレス)・こと座（べガ)・わし座（アルタイル)・こぎつね座・いるか座・干潟星雲(M8)・三裂星雲(M20)」

④スタッフ

絵　井原美恵

録音　株式会社長野トップ

企画制作　長野市立博物館

(3) 秋の番組（昭和58年9月～11月）

①題 「カシオペア王妃大いに語る」

カシオペア座から北極星の見つけ方を学び，十二支と北極星の話しをしながら，北極星の高度を上げ白夜や極点から見る星の動きを解説する。またギリシャ神話からエチオピア王家にかかわる星座の話をカシオペアをとおして紹介してもらう。

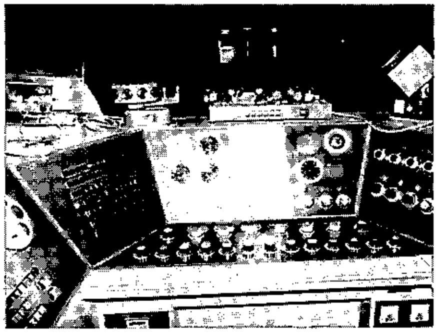
②スカイライン 「海・ベルホヤンスクの風景・秋の八幡原」

③星・星座・星雲・星団等 「カシオペア座・北極星・ケフェウス座・アンドロメダ座・ペルセウス座（アルゴル)・ペガスス座，北斗七星」

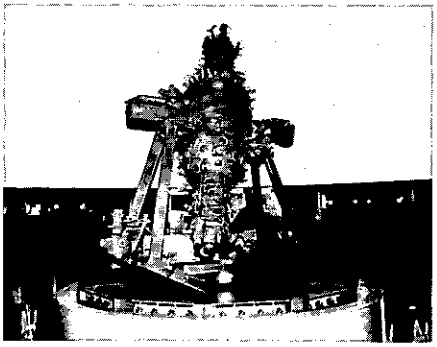
④神話，エチオピア王家の物語(ギリシャ神話)

番組編集（スライド製作）

番組編集



コンソールボックス



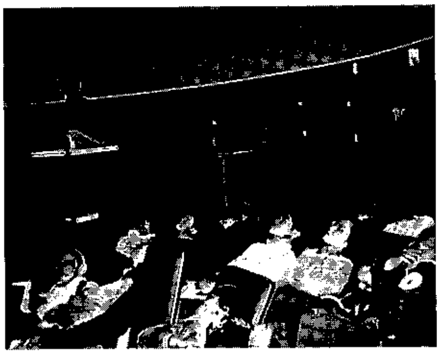
プラネタリウム

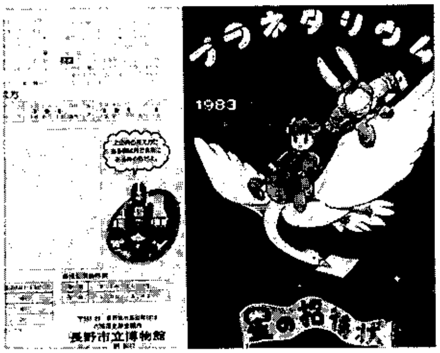
⑤スタッフ
　絵　　　竹内理恵子
　録音　　株式会社長野トップ
企画制作　長野市立博物館

(4)　冬の番組（昭和58年12月～昭和59年２月）
①題　「客星現れる」
おうし座にあるかに星雲(Ｍ１)について説明し，星の一生を３段階に分け，どのような星が，白色矮星・中性子星・ブラックホールになるかを話す。さらに太陽についてもふれる。
②スカイライン　「冬の八幡原・中性子星」
③星・惑星・星雲・星団等　「おうし座(アルデバラン・ζ星・かに星雲(Ｍ１)・プレアデス星団すばる)・ヒアデス星団)・オリオン座(ベテルギュース・リゲル・ベラトリックス・サイフ・三つ星・オリオン大星雲)・馭者座（カペラ)・こいぬ座（プロキオン)・おおいぬ座（シリウス)」
④スタッフ
　絵　　　竹内理恵子
　録音　　株式会社長野トップ
企画制作　長野市立博物館

(5)　春の番組（昭和59年３月～５月）
①題　「一升星と七つ星」
星の名前は西洋の名前がいつも使われているが，昔から日本人によって名前がつけられ親しまれてきた星もある。そうした日本の星を春の夜空を見ながら探してゆく。
②スカイライン　「北信濃の春」
③星・星座・星雲星団等「すばる・北斗七星（おおくま座)・アルクトゥルス（うしかい座)・スピカ（おとめ座)・からす座・春の大曲線」
④物語　「天人女房」　沖縄県石垣島の民話
⑤スタッフ
　絵　　　竹内理恵子
　録音　　株式会社長野トップ
企画制作　長野市立博物館
〔出版物〕
各番組毎に，投影内容に合せＡ５版３色刷り二ッ折パンフレットを発行している。このパンフレットには，星座や星の案内と，季節による月の満ち欠け

投　影


天体教室



パンフレット

パンフレット

や天体に関する特記事項を掲載している。

〔施設・設備〕

(1)座席数　120席

(2)天体ドームの大きさ　直径12ｍ・高さ８ｍ

(3)投影機等

①プラネタリウム機種　五藤光学研究所GXAT型

②附属投影機

ツインスライド投影機，ズームスライド投影機・ユニプロジェクター150型・ドーム用スライド投影機・回転式星座絵投影機・汎用星座絵投影機・惑星パノラマ投影機・太陽系投影機・群流星投影機・稲妻投影機・宇宙船投影機・コメット投影機・オーロラ投影機・日月食投影機。

（大蔵　満・中沢袈裟延・西川昭史）

3　教育普及活動

1)　講演会

本年の講演会は，特別企画展示会・企画展示会と各種の博物館教室において開催した。聴講者は「広報ながの」を主体にして公募し，聴講は無料である。

(1)　企画展「職人さん」講演会

日時　昭和58年３月20日　午後２:00～

会場　会議室

講演　「松代焼の伝統と新しい可能性について」

資料　「信州の土とやきもの」抜刷，松代焼・製陶パネル

講師　唐木田又三（日本工芸会正会員）

聴講者　90人

内容　松代焼の再興者であり，また青磁研究者として著名な唐木田先生の目を通した陶芸の世界を話題に展開していただいた。まず松代焼について，その伝統的な美とそれを再興する過程をわかりやすく説かれ，松代焼が将来あるべき姿を予見された。

講演は，実際の経験を通しての話材であり，また古い松代焼と自からの手による製品を片手に講演され，松代焼について再認識をした味い深い講演会であったし，一つの製品を作り焼き上げるまでの心の葛藤には，本物を追う姿を感じた。

講演については，先生のお許しを得て本年報のⅦ章

パンフレット

講演会　唐木田又三氏

講演会　唐木田又三氏

講演会　唐木田又三氏

に掲載した。

(2) 企画展「シナノから科野国へ」講演会

日時　昭和58年7月31日　午後2時～

会場　会議室

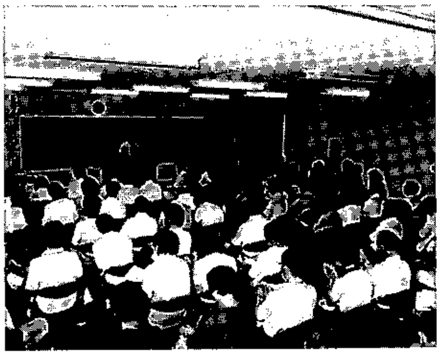
講演　「長野県における古墳の発生」

資料　「長野県における古墳の発生」プリント

講師　岩崎卓也（筑波大学助教授）

聴講者　約100人

内容　岩崎先生は東京教育大学で教鞭をとるかたわら，千曲川水系における弥生時代から古墳時代の研究を進めてきた。またこの企画展の開催中は，長野盆地で最大・最古の古墳である森将軍塚古墳の主体部の調査に入っており，先生はこの発掘調査団長でもあった。このかかわりから森将軍塚古墳が構築されるまでの経過を，型式伝播の問題から土器は何を反映しているか，土器伝播の諸形態を纒向（まきむく）遺跡・石川県・伊勢湾の例を引きながら古墳出現前夜の話があり，長野盆地について詳論された。また墳墓のあり方については，弥生時代の墓から高塚形態移行と編年観が述べられ，最後に森将軍塚古墳等の被葬者の性格の問題にも触れられ，長野盆地における墳墓研究は新たな展開を示すように思える。



講演会　岩崎卓也氏

講演会　岩崎卓也氏

(3) 特別企画展「街道と旅」講演会

日時　昭和58年11月3日　午後2時～

会場　会議室

講演　「街道と旅」

講師　児玉幸多（学習院大学名誉教授）

聴講者　約140人

内容　主題を中山道と北国街道におき，東海道や他の街道例をとり上げながら，街道整備の歴史・街道における施設・それを運用する人々・従事した人々を行政的な面から追求された。そして街道にかかわりある庶民生活を経済面や社会習俗からの論考がなされた。

講演は一般にわかり易く，手をとるようになされ，さすがに交通史の第一人者であるという感を増々深くした。

また聴講者が多くなると予想されたため，隣接する部屋にビデオ映像の機器を設置したが，直接講演を聞くことを希望され，定員約100名の部屋に140名程おし込んでしまい，先生はじめ聴講者の皆さんには大変ご

講演会　児玉幸多氏

講演会　児玉幸多氏

迷惑をおかけした。

(4) 企画展「ワラと生活」講演会

日時　昭和59年３月25日　午後２時～

会場　会議室

講演　「ワラと生活」

講師　向山雅重（日本民俗学会評議員）

聴講者　約50人

内容　向山先生の長年の民俗学調査の中から，今回はワラを題材に，生活とのかかわりを民俗事例をもとに講演された。その内容は，ワラ利用の歴史・収穫・履物・着物・敷物・住・入れ物・運搬具・飼料・肥料・養蚕・猟具・食・ワラ灰・もみがら・正月行事・儀礼などに使われているワラ製品と使い方・効用などの説明があり，最後にワラが人々の生活にいかに深くかかわってきたかということを明らかにすることは，庶民生活の歴史を知る上でかくことのできないことであると結んだ。とかくワラといえば製品を思い浮かべるのであるが，飼料・肥料・ワラ灰などの利用方法もあり，人間生活のあらゆる分野でワラとかかわって来たことを再認識させるものであった。　　　　（矢口忠良）

2) 博物館教室

博物館教室は，常設展示の内容を深めるためと，市民の博物館事業の要求に答えるため，施設・資料・講師等当館が対応できる範囲で実施しているものであり，その内容は講義を基本として実習・演習をとり入れている。

また受講生の募集については，広報ながのを通して行ない，その選択は期日を定めた電話受付をしている。それは会場・バス等の都合により定員を決めており，定員を上まわる場合があるためで，今のところ一番公平な方法と考えている。このことについて受講定員からはずれた方から，往復葉書を用いまたは単なる抽選にしたらどうかとの提案もあることを付記しておく。

(1) 博物館古文書教室

日時　昭和58年２月６日・13日（２回）

会場　教室

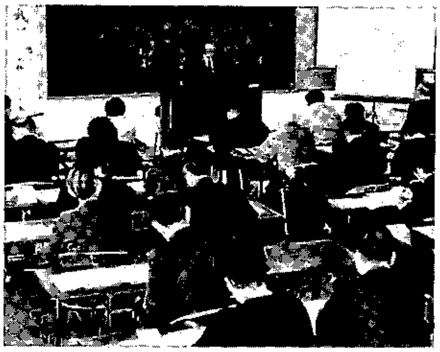
講義　「川中島の戦」

講師　小林計一郎（長野高等工業専門学校教授）

受講者　39人

講演会　向山雅重氏

講演会　向山雅重氏



講義　小林計一郎氏

古文書教室

内容　武田晴信感状(2)・武田晴信朱印状・武田勝頼判物・上杉輝虎(謙信)願文(2)を読み下し，古文書に記載された用語を当時の様相にてらして解説され，甲越両軍の戦闘ぶりをふりかえった。

午後は講義をもとにした史跡めぐりを実施し武田側が一時本陣に使用した大堀居館跡・山本勘介の墓・武田軍の海津城(松代城)・上杉軍の本陣であった妻女山・頼山陽の碑で有名な雨宮の渡を見学した。

折りからの雪と寒い中であったが，参加者全員妻女山に登るなど川中島の戦いの主な古戦場を巡見することができ，近くて著名なわりにはほとんどの人が初めて接する史跡が多く，古文書の解読とともに地域の歴史を紹介する上で貴重な体験をした。

大堀居館址

(2)　博物館地質教室

日時　昭和58年6月4日　午後2：00～
　　　〃　　6月5日　午前9：00～午後4：00
会場　教室・現地
講義　「北信地方の化石と長野盆地西縁の化石」
資料　「現地見学資料・長野付近地形図」
講師　冨沢恒雄（長野高等工業専門学校講師）
受講者　24人（市内在中の小学校6年生以上で，両日参加できる方）
持ち物　ハンマー・双眼鏡・クリノメーター
教材費　300円

講義　冨沢恒雄氏

内容　第1日目は，博物館教室において，堆積岩のでき方と化石の年代をスライドや地球儀を通して学習し，更に地質図を見ながら第2日目の現地実習について予備知識を得た。第2日目は，資料を片手に安茂里白岩・里島・松島トンネル・善光寺温泉・豊野町観音山・豊野町石の堆積岩の状況をつぶさに巡見した。白岩では旭山層・不整合・断層の観察と裾花凝灰岩の採集を行ない，里島では礫の堆積と岩石の観察を，松島トンネルでは小田切背斜を，善光寺温泉では柱状節理・小川累層（団塊・サンドパイプ等）を，観音山では豊野層（泥岩・シルト岩・凝灰岩の互層）と傾斜角の測定，石では豊野層の背斜構造を観察スケッチした。

岩石調査

善光寺温泉では，化石の産状観察と採集を行なう予定であったが，梅雨による増水のためあきらめざるを得なかった。

傾斜角の測定

(3)　博物館古墳教室

日時　昭和58年8月8日　午前10:00～午後4：00
会場　博物館教室・土口将軍塚古墳・森将軍塚古墳・川柳将軍塚古墳
講義　「善光寺平の前方後円墳」
資料　「善光寺平の古墳等」9頁
講師　青木和明（学芸員）
土口――小林秀夫（桜ヶ丘中学校教諭）
森――森将軍塚古墳調査団
川柳――矢口忠良（学芸員）
受講者　40人（定員）小学校4年生以上の市民
持ち物　更埴地方図
教材費　200円
内容　今回巡見した古墳は，長野盆地南縁に位置する著名な古式の前方後円墳で，土口・森将軍塚古墳では保存整備のため発掘調査が進められていた。

午前は古墳についての基礎知識を資料とスライドで学習し，また見学する個々の古墳についての見所について解説がなされ，土口将軍塚古墳へ向かった。

土口将軍塚古墳では，ちょうど主体部の調査が進んでおり，小林秀夫先生より主軸に沿って2基の竪穴石室が併設され，時期差はそれほど感じさせない珍らしい例であるとのお話があった。

森将軍塚古墳では，大形の割石が整然と積まれた竪穴石室をみせつけられて，当時の権力者の力をまのあたりにみた思いがした。

川柳将軍塚古墳で昼食をとったわけであるが，この間に埴輪片が，後円部墳頂端部から採集されたりして，この古墳の歴史的・編年的位置を考え，また古墳の位置を地図上におとし生産地とのかかわり方，支配空間を学習しながらこの古墳教室を終えた。

土口将軍塚古墳

森将軍塚古墳

川柳将軍塚古墳

(4)　春の天体教室

日時　昭和58年5月14日・6月11日　午後6：30～9：00（星座を中心として）
昭和58年5月19日・6月18日　午後6：30～9：00（月を中心として）
会場　天体学習室・博物館前庭
講義　「天体望遠鏡の取扱について」・「春の星座」・「月の観察」
資料　「天体教室資料」11頁・「月を観察しよう」6頁
講師・指導者　大蔵　満（学芸員）・中沢袈裟延（専門主事）・西川昭史（専門員）

星の位置をさがす

受講者　各回50名定員（小学校4年生以上の市民）
持ち物　星座早見盤・双眼鏡(持っている人のみ)・懐中電燈

内容　天体教室で8cm屈折赤道儀の取扱いや，16mm映画「太陽系」・星座早見盤とプラネタリウムを使い，実際の夜空から星座・惑星をさがし出す方法を学習した後，博物館前庭で屈折赤道儀5台を使用して星座・月の観察を行なった。観察した星座(星)は，大熊座・小熊座・北極星・ミザールとアルゴルの2重星・うしかい座・おとめ座・からす座・春の大曲線・しし座・うみへび座・かに座などである。

月の学習は，月の満ち欠け・動きと見え方そして観察ではクレーター・山の部分・海の部分等である。この他金星・木星・土星の観察も行なった。

(5) 夏の天体教室

日時　昭和58年8月14日　午後6:30～9:00
資料　「天体教室資料(夏)」7頁

内容　講師・指導者・受講者・持ち物・会場使用・教材等は前回と同じである。今回観察対象にした惑星・星座は，木星・ガリレオ衛星・北斗七星(大熊座)・北極星(小熊座)・アークトウルス(うしかい座)・スピカ(おとめ座)・デネブ・アルビレオ(はくちょう座)・ベガ(こと座)・アルタイル(わし座)・アンタレス（さそり座)・M13（ヘレクレス座)・天の川の中にある星雲星団などである。

(6) 秋の天体学習室

日時　昭和58年11月26日　午後6:00～9:00
資料　「天体教室資料(秋)」14頁

内容　今回はあいにくの曇天で実際の観察はできなかった。天体学習室内でプラネタリュームにより秋の星座(星)の見つけ方を学び，指示燈で確認しながら，実際の天空でさがし出す訓練をした。星座(星)はペガスス座・アンドロメダ座・カシオペア座・ケフエウス座・ペルセウス座・やぎ座・みずがめ座・南のうお座・うお座・くじら座・M31(アンドロメダ大星雲)・M33(カシオペア座)の散開星団・こと座のリング状星雲である。

(7) 博物館しめ縄教室

日時　昭和58年12月18日・25日　午前10：00～午後

星座早見盤をつかって

天体望遠鏡の取り扱い

天体望遠鏡の操作

惑星をみる

4：00

会場　博物館教室・会議室

講義　「しめ縄について」

講師　浅川欽一（長野市文化財保護審議会委員）

技術指導　宮島克巳（長野市丹波島町）

協力者　横山　勝（長野市上松）

教材　わら２把・わらすべ・細紐・針金・タイ等の飾物・松

受講者　各回25人（長野市在住の成人）

教材費　500円

持ち物　はさみ

内容　この教室は単なる技術習得だけでなく，その歴史や地方による風習の違いなどを講義をとおして学習している。そのため午前に講義を，午前と午後にまたがり技術的なものを学んでいる。

今回の実習は，ごぼうじめ・輪じめ・しゃくしじめ・大黒じめ等をつくった。はじめ左ないが出来なくて苦労している人もあったが，終り頃になると手ぎわが良くなり，何本もつくり家に持ち帰る人も多かった。

ただこの教室の受講希望があまりにも多く，おことわりするにも一苦労であったし，受講対象者等を考えなければならない問題が残った。

(7)　博物館古文書教室

日時　昭和59年２月26日・３月４日　午後２：00～4：00

会場　博物館教室

講義　「宿場」

講師　西沢武彦（元長野県史編纂委員）

受講者　各回30人定員（長野市在住の成人）

教材費　300円

内容　北国街道丹波島宿問屋柳島家（現当主柳島啓也）の宿場関係古文書をお借りし，江戸時代後期の宿場のあり方や，変遷を学習した。使用教材は以下のとおりである。

伝馬人足仰付書・伝馬宿書出・差上申一札之事・給仕女取締文書・御尋ニ付乍恐以書付御答奉申上候・一札之事・人馬賃銭割増之件・覚（文政２年）・定（正徳元年）・差上申御請証文事・乍恐以書付願上候

（矢口忠良）

講義　浅川欽一氏

実技指導　宮島克巳氏

講義　西沢武彦氏

古文書教室

3) オリエンテーション

オリエンテーション

博物館に入館するにあたり，展示の見所・注意事項など入館時間に応じて学芸員が対応している。これには，団体の場合事前の申し込みをお願いしているが，突然に訪れる団体等においても人員配置が可能な限り応じている。主な団体は，市内外の５・６年生等の学習・中学生・地域育成会・老人会・婦人団体・公民館各種教室・行政組織団体・長野市主催みどりの見学・市職員研修所・郷土史研究団体などである。

展示室での案内・解説は，学芸員が常時館内を巡回しながら，質問・疑問などに応待している。この他来館者及び電話での資料についての問い合せには，資料を持参いただき，相談室にて応待ししているが，専門的分野にかかわる質問は，担当の専門主事・学芸員が担当することにしている。

（大林育葉）

4) 館外での普及活動

博物館主催・後援等のものでなく，外部機関・団体等により講演会・講習会・学習会などに講師・指導者・解説員として派遣依頼を受けたものと，博物館が行なった広報活動についてのみ記す。

(1) 講師・指導者・解説員

事業名	期日	主催	講演	講師
篠ノ井史談会総会	5月17日	篠ノ井史談会	石川条里的遺構について	矢口忠良
野外彫刻めぐり	6月17日	広聴課	自然と彫刻との対話	藤森治幸
〃	9月27日	〃	〃	〃
〃	10月20日	〃	〃	〃
〃	10月30日	〃	〃	〃
〃	11月 9日	南部公民館	野外彫刻の鑑賞	〃
南部ふるさと学級	6月25日	〃	芹田の歴史	和田博
〃	7月12日	〃	史跡見学	〃
〃	8月20日	〃	武士のおこり	〃
〃	9月10日	〃	地方武士と城	〃
〃	10月 1日	〃	〃	〃
〃	11月12日	〃	川中島の戦い	〃
〃	12月10日	〃	〃	〃
〃	1月28日	〃	近世へのあゆみ	〃
〃	2月18日	〃	江戸時代の概観	〃
〃	3月10日	〃	まとめ・閉講式	〃
犀南支会講演会	7月 8日	長野市教育会犀南支会	地域にある生物教材	中沢袈裟延
新任職員後期研修会	10月 4日	職員研修所	長野市の歴史	和田博
婦人学級	11月 1日	篠ノ井公民館	街道と旅	矢口忠良
ふるさと学級	1月23日	北部公民館	若槻のおこりとあら町宿	和田博
〃	2月 6日	〃	〃	〃
長野市学校事務職員研修会	2月 9日	長野市学校事務研究会	地域文化と博物館	山口純一

(2) 刊行物・広報等

名称	年月日	規格	備考
博物館だより第2号	58・2・1	B5　4頁	館報
職人さん	58・2・27	A4二ツ折	企画展「職人さん」パンフレット
年報　VOL 1	58・3・8	B5本文82頁	昭和56年4月～昭和57年12月
川田条里的遺構他	58・3・25	B5本文59頁	長野市の埋蔵文化財第13集
シナノから科野国へ	58・7・17	A4二ツ折	企画展「シナノから科野国へ」パンフレット
〃	〃	B5本文90頁	企画展「シナノから科野国へ」図録
街道と旅	58・10・9	A4二ツ折	特別企画展「街道と旅」パンフレット
〃	〃	B5本文57頁	特別企画展「街道と旅」図録
内惑星の世界	58・3・1	A4二ツ折	プラネタリウム1983春パンフレット
星の招待状	58・6・1	〃	プラネタリウム1983夏パンフレット
カシオペア王妃大いに語る	58・9・1	〃	プラネタリウム1983秋パンフレット
客星現わる!!	58・12・1	〃	プラネタリウム1983-4冬パンフレット
一升星と七つ星	59・3・1	〃	プラネタリウム1984－春パンフレット
ワラと生活	59・2・19	A4二ツ折	企画展「ワラと生活」パンフレット
〃	〃	B5本文75頁	企画展「ワラと生活」図録
石川条里的遺構地	59・2・29	B5本文40頁	長野市の埋蔵文化財第14集
博物館だよりNo.3・4	59・3・20	B5　8頁	館報

尚，博物館行事・企画展示・プラネタリウムなどの新企画については，毎月1日・15日号の長野市公報「みんなの広場」の中に〝博物館だより〟のコーナーをいただき紹介している。このほか有線放送をはじめとする各種マスコミ関係，近隣市町村の観光協会・旅館組合などに，博物館への来館及び博物館の宣伝に努めている。おかげでじょじょにであるが，その効果がでて来ていることはありがたいことである。　　（竪岩百合子）

5) 博物館実習

目標　大学における学習を基盤にして，博物館の実態にふれ実務を研修体験することによって，学芸員としての資質を培う。

期間　昭和58年8月8日～8月17日（10日間）

実習生　大沢美香（法政大学文学部史学科）・住所　長野市中御所町1－61

実習日程概要

日時		ねらい	研修事項	研修内容	指導分担	備考
8(月)	終日	概要を理解する	実習にあたって	実習計画その他指示打合せ，展示室整備手伝	副館長他	
9(火)	午前			館員への紹介挨拶 館長講話（博物館機能，実習心得その他）	副館長 館長	8:30までに来館
	午後			館員の機構と業務分担，施設設備見学	係長	
10(水)	終日		調査研究業務	土口将軍塚古墳発掘調査参加	青木	作業の身仕度

11(木)	午前	業務の理解と、実務実習	展示業務 企画展示	展示構成と資料収集方法	矢口	
	午後		常設展示	展示の構想と構成	和田	
12(金)	終日		収蔵業務	収蔵システム 資料の取扱い（民俗資料）	山口明	
				収蔵資料整理（古文書資料）	藤森	
13(土) 14(日)	午前		入館者応待業務	受付，団体オリエンティーション 展示案内（地震体験室を含む）	水品 大林	開館準備 閉館整理 を含む
	午後			考古学教室，企画展示説明	矢口	
15(月)	終日		プラネタリウム運営業務	施設設備・業務概要・投影・入館者応待・番組製作	大蔵	
16(火)	終日	整理	施設見学	蝶の博物館，　真田宝物館ほか	副館長	
17(水)	終日		まとめと反省	残務補習 館長講話 実習整理と反省		

（和田　博）

Ⅲ　博物館収蔵資料

基本的には，昭和59年１月までに収蔵された資料のうち受入れ台帳に登録されたものを記す。そのため本年度以前のものも記載したし，本年度いただいた資料でも載せられなかったものもある点来年度の年報で記載することでご了承いただきたい。（敬称略）

1　購入資料

1）古文書類

資　料　名	作者・発行所
木曽路名所図絵（全７巻）	穐里籬島
農家調宝記（３巻）	和泉屋金右衛門
陸測地図(大町,戸隠,長野,坂城,御代田)	大日本帝国陸地測量部
和漢稀世古銭図録（全２巻）	嵩山堂
諸国道中袖鏡	岡田屋嘉七
養蚕新論（正・続５冊）	田嶋邦寧
養蚕秘録	上垣守国
古銭見聞帳　原拓本	路渓
和漢古今泉貨鑑　厭勝品	柏原屋清右衛門
和漢古今泉貨鑑　不知品	柏原屋清右衛門
篆刻独学（全２巻）	渋谷鉄司
篆字画引十体千字文綱目	天王寺屋

2）図 書 類

書　籍　名	編集・出版社
古地震	東京大学出版会
しなの方言考（上）	信濃毎日新聞社
奥信濃祭り考	信濃毎日新聞社
日本仏教史（全10巻）	岩波書店
岡谷市史（上・中・下）	岡谷市
諏訪史（二巻後編）	信濃教育会諏訪部会
小川村誌	村誌編纂委員会
開田村誌（上・下）	村誌編纂委員会
木曽福島町誌(歴史編・現代編1)	木曽福島町教育委員会
歴史の道調査報告書信州街道	長野県教育委員会
上高井郡仏像写真集	上高井郡教育会
片桐村誌	中川西公民館
下条村誌（全２冊）	村誌編纂会
喬木村誌（全２冊）	村誌編纂会
飯島村史（復刻）	名著出版
生田村誌	村誌編纂会
北佐久郡誌（復刻）	明治文献
味噌沿革史	全国味噌工業協会
上伊那郡誌（歴史篇）	郡史刊行会
上田市史（上・下）	信濃毎日新聞社
日本雛祭考	有坂與太郎
日本玩具史	有坂與太郎
中山道信濃二六宿	信濃毎日新聞社
長野県史近世史料編４巻(2)、７巻（２，３）	県史刊行会
長野県史近代史料編2巻(1,2)7巻，10巻(1)	県史刊行会
日本の職人	遠藤元男
日本職人史の研究	遠藤元男
法蔵寺史	寺史刊行会
朝日遺跡（全４冊）	愛知県教育委員会
日本仏教基礎講座（１，５，６）	雄山閣
陶器講座（2～7,9～13）	雄山閣
日本化石集（１～59集）	築地書館
古生物学各論（全４冊）	築地書館
農具便利論	恒和出版
日本庶民生活史料集成(22,28,29)	三一書房
日本庶民文化史料集成(遊び)	三一書房
古語辞典	講談社
富雄丸山古墳・西宮山古墳出土遺物	臨川書店
日本古墳文化資料綜覧	臨川書店
飛鳥時代寺院址の研究（復刻版全3冊）	第一書房
科学発見シリーズ（全20巻）	教育社
日本はどのように建造物をつくってきたか　江戸町（上・下）	草思社
明治前日本天文学史	臨川書店
信州の文化シリーズ　手づくりと郷土玩具	信濃毎日新聞社
技術シリーズ　（写真），（接着）	朝倉書店
豪華天体写真集	河出書房新社
地学野外調査の方法	築地書館
「日本列島」地質構造発達史	築地書館
日本の第四系	築地書館
牧野新日本植物図鑑	北隆館
神道考古学講座（１～６巻）	雄山閣
日本地名大辞典(19,20,21,46)	角川書店

上水内郡地質誌	上水内郡教育会
更級埴科地方誌（第一巻）	地方誌刊行会
長野県考古学会研究報告(8)	県考古学会
下久堅村史	村誌刊行会
豊丘村誌（1・2巻）	村誌刊行会
南向村史	信濃毎日新聞社
松尾村史	村誌刊行会
龍江村誌	甲陽書房
遠山谷の民俗	上村村誌刊行会
木曽楢川村の民俗（1・2巻）	楢川村教育会
伊那長谷村の民俗	長谷村文化財専門委員会
高井鴻山遺墨集	遺墨集刊行会
長野県史考古資料編（全1巻②主要遺跡）	長野県史刊行会
古文書時代鑑（全2冊）	東京大学出版会
佐倉市江原台遺跡(1)	千葉県文化財センター
千葉市荒屋敷貝塚	千葉県文化財センター
千葉市東寺山戸張作	千葉県文化財センター
千葉市東寺山石神遺跡	千葉県文化財センター
千葉市中野僧御堂	千葉県文化財センター
新潟県史資料編（全16冊）	新潟県
鏡山猛先生古稀記念　古文化論攷	中国書店
本郷村誌	村誌編纂会
菅平牧場百年史	菅平牧場畜産農協
全国遺跡地図長野県版	国土地理協会
科学新聞縮刷版（1982年後期）	科学新聞社
雨宮県村誌	村誌刊行会
戸隠村誌	村誌刊行会
小海町誌（社会編）	小海町教育委員会
売木村誌	売木村役場
宮田村誌（上・下）	村誌編纂委員会
子供組の習俗	長野県教育委員会
木曽三岳村の民俗	長野県教育委員会
裾花渓谷の民俗	長野県教育委員会
坂部の冬祭り	長野県教育委員会
中馬制の記録	長野県教育委員会
雨宮の御神事	長野県教育委員会
井戸尻	藤森栄一
信濃蚕糸業史（全3巻）	信濃毎日新聞社
北佐久郡誌（全4巻）	郡誌刊行会
佐久町誌　民俗編	町誌編纂会
錦部村のあゆみ	町誌編纂会
四賀村誌	町誌編纂会
田立村史	町誌編纂会
大島村誌	大島村役場
平野村誌（上・下）	村誌刊行会
諏訪の近世史	諏訪教育会
平賀村誌	村誌編纂会
松代町史（下巻）	町史刊行会
東筑摩郡・松本市・塩尻市誌別篇（人名）	郷土資料編纂会
三義村誌	三義村役場
朝陽村誌	篠原太一
東北考古学の諸問題	東出版寧楽社
考古学論叢	東出版寧楽社
亀井遺跡	大阪文化財センター
日本農耕文化の源流	日本放送協会
山国のくらし	長野県教育委員会
安源寺	中野市教育委員会
密教チベット仏教の世界	ぎょうせい
新標準星図	地人書館
長野県野草図鑑（別巻）	信濃毎日新聞社
世界の火山災害	古今書院
分析化学の理論と計算	広川書店
定量分析の実験と計算（1～3巻）	共立出版
伊和中辞典	小学館
歴史がつくった景観	古今書院
水質データの統計的解析	森北出版
歴史への招待（24巻）	日本放送協会
民俗民芸双書（瞽女の民俗）	岩崎美術社
民俗民芸双書（生業の民俗）	岩崎美術社
藤井旭の天体望遠鏡ＡＢＣ教室	誠文堂新光社
藤井旭の月面観測教室	誠文堂新光社
藤井旭の天体写真教室	誠文堂新光社
天体観測星表	誠文堂新光社
原色日本蝶類生態図鑑（II）	保育社
日本民俗文化大系（稲と鉄、神と仏、太陽と月）	小学館
寺崎日本植物図鑑	平凡社
比色分析法	共立出版
第十改正日本薬局方	広川書店
地理学のあゆみ	古今書院
信濃の紋章	郷土出版
木地屋の民俗	岩崎美術社
村の民俗	岩崎美術社
信仰と民俗	岩崎美術社
現代天文学講座（別巻）	恒星社厚生閣
原色図鑑	保育社
石器時代の日本	築地書館
世界の宇宙開発	旺文社
仏教考古学講座（2・3・4・7）	雄山閣
日本近海海底地形誌	東京大学出版会
分析化学便覧	丸善
火山と構造図	東海大出版
仏具大辞典	鎌倉新書
和漢三才図会（上・下）	東京美術
信濃路の民家	信濃路

民間伝承（合本　4 冊）	六人社
サンカ社会の研究	厚徳社
サンカの社会資料編	厚徳社
幕末明治日本国勢地図	柏書房
考古遺跡遺物地名表	〃
長井雲坪遺墨集	長井雲坪顕彰会
上伊那の文化財	伊那毎日新聞社
朝鮮考古資料集成（5，13～17巻）	創学社
画人長井雲坪	信教出版
江戸店舗図譜	三樹書房
看板図譜	三樹書房
博物館研究集大成（全16巻）	日本博物館協会
日本まつりと年中行事事典	桜楓社
日本民俗語大辞典	桜楓社
職人ことば辞典	桜楓社
式内社の研究（2～5）	雄山閣
道具古事記	東京美術
ものと人間の文化史（燈用植物）	法政大学出版部
民俗芸能の研究	明治書院
冬虫夏草菌図譜	保育社
新しい太陽	朝倉書店
天体観測シリーズ（全12巻）	恒星社厚生閣
藤井旭の星雲星団観測教室	誠文堂新光社
地球科学講座 4（海洋）	共立出版
無機応用比色分析（全 6 巻）	共立出版
生態学への招待（全 6 巻）	共立出版
現代中国語辞典	光生館
藩札図録（全 5 巻）	文献出版
論集日本語研究（12・13）	有精堂
単位の起源辞典	東京書籍
中世近世渡来銭標本集	日本文化資料センター
考古学雑誌（全20巻）	学生社
長野県の百年	山川出版社
北信濃の美術	郷土出版社
長野県の中世城館跡	長野県文化財保護協会
塩田平の文化と歴史	塩田文化財研究所
村上百系図	村上　清
木曽式材木運材図会	銀河書房
日本考古学講座　（全 7 冊）	河出書房
信濃史料叢書　（全 3 冊）	歴史図書出版社
長野県水産史	長野県漁業協同組合連合会
漁具図説・図譜　（2 冊）	左文字書店
塩および魚の移入路	古今書院
神道大辞典（全 3 冊）	臨川書店
穂高神社史	穂高神社

（藤森治幸・樋口良江）

3）　報告書等

書　　籍　　名	寄贈者・刊行者
国立民族学博物館研究報告（3 巻 3，4 号，4 巻 1～4 号，5 巻 1～4 号，6 巻 1～4 号，7 巻 1～3 号）	国立民族学博物館
小県郡和田村和田山遺跡緊急発掘調査報告書	長野県教育委員会
中央本線原野・木曽福島間複線化事業地内埋蔵文化財緊急分布調査報告書	国鉄岐阜工事局
新産都市等開発地域内埋蔵文化財緊急分布調査報告書	長野県教育委員会
国鉄複線化等地域内埋蔵文化財緊急分布調査報告書（昭和42年度・43年度）	長野県教育委員会
関越自動車道上越線建設予定地域内埋蔵文化財緊急分布調査報告書	長野県教育委員会
農業振興地域等開発地域内埋蔵文化財緊急分布調査報告書（昭和44年度，45年度，46年度）	長野県教育委員会
中央自動車道長野線建設予定地域内埋蔵文化財緊急分布調査報告書（昭和48年度）	長野県教育委員会
重要文化財浄光寺薬師堂修理工事報告書	長野県教育委員会
重要文化財智識寺本堂修理工事報告書	修理委員会
重要文化財中禅寺薬師堂修理工事報告書	修理委員会
重要文化財大宮熱田神社本殿，若宮八幡本殿修理工事報告書	長野県教育委員会
重要文化財福徳堂本殿修理工事報告書	長野県教育委員会
国宝安楽寺八角三重塔修理報告	長野県教育委員会
安楽寺修理報告	長野県教育委員会
歴史の道調査報告書	信毎書籍出版センター
京都府史蹟名勝天然記念物調査報告（全23巻）	臨川書店

（大蔵　満・樋口良江）

4）　16mm映写フィルム

作　　品　　名	製　作　社
登呂のむら	東映株式会社
大和の国のはじまり	教育映画配給社
星の動きをしらべる	東映株式会社
むかしの旅	東映株式会社
わら細工	毎日映画社

（竪岩百合子）

5）　企画展等の購入資料

〔企画展「職人さん」〕

花桶・飯台・漬物桶・せいろ・裏ごし・ふるい（大・小）・せいろ半製品・竹箕・そばざる・めかご・竹箕半製品・丸型提灯・鍬柄・釜蓋・鍬柄の木取り・台の木取り・台の半製品・手鍬の工程品・備中鍬(3)・手鍬・改良鍬・板鍬・草掻き・堆肥切り・金矢・薪割り・押し切り・畳・駒下駄用丸太・木取り・下駄（五分製品・七分製品）・一本歯・雪箱下駄・ほう高・高堀

〔特別企画展「街道と旅」〕
関所まん幕(新調)・茶屋のれん(新調)
〔企画展「ワラと生活」〕
ハバキ(2)・ミノ・ハバキ・ワラボウキ・カマス・ショイコノテ・セナカアテ・ウシノクツ・ウマノクツ・ガニ・ウマノクツ・ゴンゾ・ワラジ・ゾウリ・シッペゾ・フンゴミ(3)・ゴンゾ・ゴンゾノツツ・ワラグツ （竪岩百合子）

2　収蔵・寄贈資料

1)　美術品

作　品　名		作　者
油彩画	展望台道路付近	梠井　春雄
〃	あじさい	大島　和芳
日本画	新装	鈴木　万平
〃	風景	栗原　御風
〃	孔雀雌雄図	狩野　栄信
〃	旭鶴	冠　岳
〃	夏景山水図	長井　雲坪
〃	水墨山水図	加藤　半溪
〃	淡彩山水図	秋田　高実
〃	米法山水図	梁川　星巌
〃	雲舒浪巻	大橋　翠石
〃	蘭花	猿堂　李胤
〃	花石図	玄　図
〃	松間菊見を訪う図	岡本　清彦
〃	橋下遊舟図	〃
墨　蹟	天高群	賀川　華城
〃	象正	〃
〃	五絶（群山四面起……）	中林　梧竹
〃	五絶（倚山新一築……）	〃
〃	五絶（須尽芳樽酒……）	三好　秋畝
〃	五絶（岸上収綸立……）	羽　峰
〃	七絶（百里長程……）	杉　聴雨
〃	七絶（梅田万石……）	落合　翠香
〃	七絶（第一風光……）	岩谿　裳川
〃	五絶（群山四面起……）	中林　梧竹
〃	五絶（倚山新一築……）	〃
日本画	秋野図	古玩　重寿
〃	水墨山水図	岡本　清彦
〃	淡彩山水図	銕　香
〃	達摩図	香　圃
墨　蹟	七絶（山上白雲……）	阿江　迂人
〃	七絶（春山白雲……）	〃
墨　蹟	大器晩成	高橋　白山
〃	群賢畢至	根　洲
〃	月白風清	岡　三橋
〃	城山館	浩　潮
〃	七絶（梅花開処……）	〃
〃	長詩	〃
〃	放薫	中臣　陽州
〃	七絶（城楼迎客……）	碧城　居士
〃	七絶（楊花飛尽……）	朴　泳孝
〃	七律（凜々威風……）	山田　新川
〃	七律（彩雲陰復……）	春　橋
〃	城山館	藤原　資武
寄せ書	墨絵と書	猿堂ほか
〃	墨絵と書	典川ほか
〃	城山館名刺交換会	柳堂ほか
〃	長野産業文化博覧会	倉島至ほか
拓　本	弘道館庭の歌碑	徳川　光圀
屛　風	四曲一双　鳳凰図	児玉　果亭
〃	六曲一双　金箔無地	
衝　立	木製（表　金箔無地）	
〃	木製　円形	
墨　蹟	七律（月色如霜……）	渋谷　竹雨
〃	五絶　稠松台之詩	鎌原　桐山
〃	五絶　淡竹崖之詩	〃
〃	五絶　群芳畦之詩	〃
〃	長詩　ほか11点	楽　山
尺　牘	佐久間象山あて	鎌原　桐山
〃	金吾あて	〃
〃		〃
拓　本	梅里先生之碑文	徳川　光圀

（藤森治幸）

2)　火山噴出物等

名　称	採　集　地	資料提供者・寄贈者
溶　岩	神　津　島	諏訪　彰（東京都）
溶　岩	三　宅　島	〃
溶　岩	ハワイ島キラウェア火山	〃
火山礫	ハワイ島キラウェア火山	〃
火山毛	ハワイ島キラウェア火山	〃
紡錘状火山弾	ハワイ島マウナ・ケア火山	〃
火山弾	富　士　山	〃
火山灰	木曽御岳山	開田村役場
黒曜石	和　田　峠	新谷和夫氏(和田村)
黒曜石	男　女　倉	森山公一氏(信濃町)
火山弾	浅　間　山	小諸市立火山博物館
火山礫	浅　間　山	〃

火山砂	浅間山	小諸市立火山博物館
溶岩	鬼押出	長野原町立火山博物館
火山弾	浅間山	長野原町立火山博物館
炭化木	鬼押出	長野原町立火山博物館

（和田　博）

3）収蔵化石類

(1) 県外産化石

学名	和名	寄贈者
Amphipora sp.	層孔虫類	森島一夫（名古屋市）
Arges parallelus (De Haan)	ムカシメクラガニ	〃
Bellerophon jonesianus De Konlnck	ベレロフォロン	〃
Brachinopoda	腕足類	〃
Corbicula sp.	コルビキュラ	〃
Cladoophlebis Raciborskii Zeiller	フラドフレービス	〃
Crinoid sp.	ウミユリ	〃
Entomonotis ochotica (Keyserling)	エントモノチス	〃
Fulgovaria striata Yokoyama	チヂミヒタチオビ	〃
Inoceramus Ammonite	イノセラムス アンモナイト	〃
Ostrea gigas Thunberg	ナガガキ	〃
Productus sp.	プロダクタス	〃
Solenomorpha elegantissima Ha	ソレノモルファ	〃
Yabeina sp.	ヤベイナ	〃
Favosites sp.	ハチノスサンゴ類（床板サンゴ）	〃
Squemofavosites sp.	〃（〃〃）	〃
Heliolites sp.	日石サンゴ（〃）	〃
Romeria sp.	シリンゴポロイド類（〃）	〃
Waagenophyllum (*Waagenophyllum*) *akasakense* (Yabe)	ワーゲンサンゴ（四射サンゴ）	〃
Echinavachnius (*Scaphechinus*) *mirabilis* (A. Agasslz)	ハチノスカシパン	〃
Schizaster lacunosus (Linne)	ブンブクチャガマ	〃
Temnopleurus toreumaticus (Leske)	サンショウウニ	〃
Myliobatis sp.	トビエイ（中央歯）	〃
Carcharhinus ? sp.	メジロザメ属（歯）	〃
Galeocerdo aduncus Agassiz	イタチザメ属（歯）	〃
Hemipristis serra Agassiz	サメ（歯）	〃
Isujus sp.	アオザメ属（歯）	〃
Metasequoia glyptostroboides Hu et Cheng	メタセコイア	〃

(2) 北信産化石

① 動物化石

学名	和名	寄贈者
Anadara amicula (Yokoyama)	シガラミサルボウ	七瀬据花グループ山と谷の会
Arca boucardi Jousseaume	フネガイ	〃
Coptothyris grayi (Davidson)	タテスジホオズキガイ	〃
Glycymeris yamasakii (Yokoyama)	ヤマサキタマキ	七瀬据花グループ山と谷の会
Haliotis discus koyamai Makiyama	コヤマクロアワビ	〃
Notoacmea schrenskii (Lischke)	カサガイ	〃
Ostrea gigas Thunberg	ナガガキ	〃
Patinopecten tryblium (Yokoyama)	トリブリホタテ	〃
Patinopecten yamasakii (〃)	ヤマサキホタテ	〃
Soletellina minoensis Yokoyama	ミノイソシジキ	〃
Solen grandis Dunka	オオマテ	〃
Turritella saishuensis Yokoyama	サイシュウキリガイダマシ	〃
	クジラ（肋骨）	〃
Anadara amicula (Yokoyama)	シガラミサルボウ	田中邦雄（松本市）
Anisocorbula venusta (Gould)	クチベニデガイ	〃
Callista brevisiphonata (Carpenter)	エゾワスレ	〃
Chlamys tanakai Akiyama	カミオニシキガイ属	〃
Corbicula sp.	シジミ属	〃
Dosinia japonica troscheli Lischk Lisschke	カガミガイ	〃
Glycymeris yamasakii (Yokoyama)	ヤマサキタマキ	〃
Lucina mochizukii Kuroda	カブラツキガイ属	〃
Mya japonica Jay	オオノガイ	〃
Neverita cf. didyma (Röding)	ツメタガイ	〃
Ostrea gigas Thunberg	ナガガキ	〃
Patinopecten yamasakii (Yokoyama)	ヤマサキホタテ	〃
Patinopecten yessoensis (Yokoyama)	ホタテガイ	〃
Tectonatica janthostomoides	エゾタマガイ	〃
Terebrtulia yokoyamai Makiyama	チョウチンガイ属	〃
Ostrea gigas Thunberg	ナガガキ	高島慶一（東京都）
Testudo sp.		
	オカガメ	松本　史（小川村）
	クジラ（椎骨）	中条正勝（徳　間）
	クジラ（肋骨）	大久保邦彦（三　輪）
Akebiconcha sp.	アケビガイ属	冨沢恒雄（三　輪）
Anadara amicula (Yokoyama)	シガラミサルボウ	〃
Ancistrolepis fragilis Kuroda	アンシストロレピス	〃
Anodouta sp.	ドブガイ	〃
Buccinum sinanoense Makiyama	シナノエゾバイ	〃
Callista brevisiphonata (Carpenter)	エゾワスレ	〃
Callista sp. (α)	マツヤマワスレ属	〃
Cardiam angustum Yokoyama	ナガザルガイ	〃
Cardium Kuródai Hatai & Nishiya Hatai & Nishiyama	クロダザルガイ	〃
Chlamys cosibensis (Yokoyama)	コシバニシキ	〃
Chlamys swifftii (Bernardi)	エゾギンチャク	〃
Chlamys sp. (Kuroda 1931)	カミオニシキガイ属	〃
Chrysodomus modestus Kuroda	クリソドウマス	〃

Clinocardium ciliatum (Fabricius)	コケライシカゲガイ	冨沢恒雄
Conchocele nipponica (Yabe & Nomura)	オウナガイ	〃
Corbicula sakaënsis (Makiyama)	シジミガイ	〃
Corbicula sp.	ヤマトシジミ属	〃
Cultellus otukai	オオツカタカノハ	〃
Dosinia angulasa (Philippi)	ウラカガミ	〃
〃	カガミガイ	〃
Dosinia Kaneharai Yokoyama	カネハラカガミ	〃
Dosinia ovata Kanno	オバタカガミ	〃
Dosinia sp.	カガミガイ属	〃
〃	ウラカガミ属	〃
Echinarachnius microthyroides (Nishiyama)	カシパンウニ	〃
Fusitriton oregonensis (Redeield)	カブトアラゴヤ	〃
Glycymeris yamasakii (Yokoyama)	ヤアサキタマキ	〃
Linthia nipponica (Yoshiwara)	ムカシブンブク	〃
Lucina mochizukii Kuroda	モチズキツキガイモドキ	〃
Lucinoma acutilineatum (Conrad)	ツキガイモドキ	〃
Macoma sp.	シラトリガイ属	〃
Mactra sp.	ウバガイ属	〃
Mercenaria chitanina (Yokoyama)	チタニヒノスガイ	
Mercenaria sigaramiensis (Makiyama)	シガラミヒノスガイ	〃
Modiola modiolus (Linné)	ツヤガラスガイ	〃
Mya donaciformis Kuroda	ドジリオオノガイ	〃
Mya japonica Jay	オオノガイ	〃
〃	キタノオオノガイ	〃
Natica janthastomoides Kuroda & Habe	エゾタマガイ	〃
Heptunea sp.	エゾボラ属	〃
Ostrea gigas Thunberg	ナガガキ	〃
Bndara pulchella Yokoyama	ネリガイ	〃
Patinopecten yamasakii (Yokoyam (Yokoyama)	ヤマサキホタテ	〃
Peronidia sp.	サラガイ属	〃
Saxidomus purpuratus (Sowerby)	ウチムラサキ	〃
Schizothaerus Keenae Huroda & Habe	ミルクイ	〃
Serripes sp.	ウバトリガイ属	〃
Soletellina commoda Yokoyama	コモダムラサキガイ	〃
Spisula sachalinensis (Schrenck)	ウバガイ	〃
Spisula voyi (Gabb)	ナガウバガイ	〃
Tectura asmiiformis (Yokoyama)	アズミカサザイ	〃
Trapezium japonica Pilsbry	ウネナシトマヤガイ	〃
Turritella saishuensis Yokoyama	サイシュウキリガイダマシ	〃
Venerupis sp.	ベネラピス属	〃
	クジラ（肋骨）	

(3) 生痕その他

学　　名	和　　名	寄 贈 者
Sand pipe	砂管	七瀬グループ 冨沢恒雄氏
Slicken side	断層滑面	〃

(4) 植物化石

学　　名	和　　名	寄 贈 者
Caslanopsis marinoi Ogura	クリカシ	七瀬グループ 冨沢恒雄
Sasa sp.	ササ属	〃
Trachycarpus sp.	シュロ属	〃
Acer polymorphum miocenum Menzel.	カエデ	冨沢恒雄
Acer sp. *cfr. Buergerianum* Miq.	〃	〃
Betula brongniarti Ettingshausen	シラカバ	〃
Camellia sp.	ツバキ属	〃
Castanopsis marinoi Ogura	クリカシ	〃
Diospyros sp.	コクタン	〃
Salix sp.	ヤナギ属	〃
Sasa sp. (*cfr. Bambusium yadakeides* Konno)	ササ属	〃
Sequoia cfr. *sempervi*	セコイア	〃
Trachycarpus n. sp.	シュロ属	〃

（和田　博・西川昭史）

3） 民俗文化財等

58年１月受入

名　　称	員数	寄　贈　者
竜 吐 水	1	杉山利治(小島田)
高橋式麦作土入機	1	〃

58年２月受入

名　　称	員数	寄　贈　者
水　筒（竹製）	1	森山公一(信濃町)
地 籍 図	34	長野市資産税課

58年３月受入

名　　称	員数	寄　贈　者
納戸箪笥	1	岩下　武(西鶴賀町)
手あぶり	2	〃
おひつ（蓋付）	1	〃
穀　　箱	1	〃
杵	1	〃
石　　臼	1	〃
半 切 り	1	〃
古　　銭	902	小出ふみ子(岡田町)
和　　鏡	1	〃
鞴(ふいご)	1	若林信雄(松代町)
ひもだし	1	〃

蜂の巣	1	若林信雄(松代町)
ふるい(小)	1	美谷島今朝雄(安茂里)
水筒(アルマイト製)	1	〃
とうじかご	1	〃
米上げざる	1	〃
棒ばかり	1	〃
陶製あんか	1	〃
アイロン(鉄製)	1	〃
鍋(銅製)	1	〃
鉄瓶(アルマイト製)	1	〃
ゆたんぽ(陶製)	1	〃
徳利	1	〃
やかん(鉄)	2	〃
かめ	1	〃
ランプ	1	〃
ガスランプ	1	〃
糸車	1	〃
下駄スキー	1	〃
丸盆	1	〃
おろし金	1	〃
座繰	1	〃
アイロンごて	1	〃
釜	1	〃
火のし	1	〃
踏鋤	1	〃
竹製ストック	1	〃
空気入れ(自転車用)	1	〃
やかん(つば付)	1	〃
みそこし	1	〃
中皿	10	〃
小皿(大)	7	〃
〃(中)	7	〃
〃(小)	5	〃
バリカン	2	〃
西洋かみそり	2	〃
巻尺	1	〃
櫛	8	〃
笄(こうがい)	2	〃
かんざし	1	〃
輪回し	1	和田康雄(西長野)
手桶	1	松下 遂(松代町)
片手桶	1	〃
打板	1	〃

58年4月受入

「天真館」看板(薬屋)	1	碓井 忠(西長野)
「官許神霊散」看板		〃
ジャッキ大(大正)	2	川崎喜作(西鶴賀町)
〃 中(大正)	1	〃
〃 小(昭和)	2	〃
小杵(こねぎり)	2	〃
道金(みちがね)	2	〃
金ゴロ	4	〃
パイプゴロ	4	〃
ワイヤーロープ	2本	〃
とめごて	1	〃
めじごて	4	
めんどごて(四半ごて)	5	〃
こて	6	〃
留型	1	〃
金腰	1	〃
裏ずり	1	西沢淳夫(西鶴賀町)
小刀	1	〃
裁包丁	2	〃
打ち刷毛	2	〃
なで刷毛	1	〃
のり刷毛	1	〃
つけ回し刷毛(切断刷毛)	1	〃
水甕	1	松本才徳(川中島町)
七輪	1	〃
洗い桶(銅製)	1	〃
釜	1	〃
紅鉢大	1	〃
〃 小	1	〃
火鉢大	〃	〃
〃 小	1	〃
やかん(ホウロウ製)	1	〃
塗高歯	1	小池あい子(丹波島)
豆たんごたつ	1	松本才徳(川中島町)
やぐらごたつ	2	〃
臼	1	〃
背負子	1	〃
杵	1	〃
せいろう	1	〃
すいのう	2	〃
とうじかご	1	〃
ほうろく	1	〃
火消壺	1	〃
くれんじつ(くれたたき)	1	北村 正(風間)
唐箕(大正式)	1	〃
かまどの一部	1	〃
やかん(蓋付)	1	〃
糸こき箕	1	〃

傷痍軍人の衣類	1	米沢　進(鶴賀七瀬)
つるべ桶	2	〃
毛羽取り器	1	栗林直次(松代町)
座　繰	1	〃
綿繰器	1	〃
行　燈	1	〃
かなくり	1	〃
むしろ機	1	山崎範夫(川中島町)
足　膳	5	〃
汁椀（蓋付）	5	〃
米撰機	1	〃
整経器	1	〃
糸撚器	1	〃
縄あみ器	1	〃
みそかき棒	2	〃
杓子（みそ用）	1	〃
すりこぎ	1	〃
濾過器（牛乳用）	1	山崎範夫(川中島町)
桶	1	〃

58年5月受入れ

吸入器（西川式）	1	松本才徳(川中島町)
手あぶり	1	〃
ひしゃく	1	〃
下駄スケート	1	〃
こたつ板	1	〃
水　筒	2	〃
飯びつ（アルマイト製）	1	〃
ちりとり	1	〃
米上げざる	1	〃
石油ストーブ（米国製）	1	青木一幸(川中島町)
〃　（日本製）	1	〃
鉄　帽	1	〃
手あぶり	2	〃
鬼　瓦	2組	永井達雄(上千歳町)
煙草盆	2	小島忠男(篠ノ井)
車掌かばん	2	㈱川中島観光
パンチ	2	〃
バス車内券	6冊	〃
紺スカート（子供用）	1	野沢幸子(篠ノ井)
紺ブルマー	3	〃
木綿色足袋	19	〃
めん棒	2	米沢　進(鶴賀七瀬)
のし板	2	〃
滑　車	1	〃
自在鉤	1	〃
綿ぼうし	1	〃
まゆかご	2	酒井英知(小田切)
湯　桶	1	〃
ひさげ	1	〃
とうじかご	1	〃
とうじかご	1	〃
馬　鍬	1	〃
鍋	1	〃
繰糸鍋	2	〃
千歯扱	2	〃
千歯扱きの歯	11	〃
ぞうり作り	1	〃
桑扱き台	1	〃
そ　り	1	〃
牛の鞍	1	〃
手動再繰機	1	〃
手動再繰機の糸枠	1	〃
ふるい	1	〃
真綿がけの木枠	1	〃
粉ふるい	1	〃
めん棒	1	〃
のし板	1	〃
はんぼう	2	〃
こね棒	1	〃
ねこ機	1	〃
豆板削り機	1	〃
肥柄杓	1	〃
酒　樽	2	〃
すくら折り機	1	〃
鉤つけ	1	〃
経　机	1	〃
押切鎌	2	〃
犂　先	2	〃
中耕除草機	1	〃
糸　車	2	〃
むしろ機	1	〃
万石どおし	1	〃
綿帽子の型	1	〃
米びつ	1	〃
くれたたき	2	〃
鳶　口	1	〃
棹　秤	7	〃
分　銅	7	〃
杼ほか付属品	11	〃
木製の棒	1	〃
筬　束	1組	〃
縄編み機	1組	〃

小　枠	6	酒井英知(小田切)	ほうろく	1	酒井英知(小田切)
大　枠	2	〃	真綿織り板	1	〃
犂	2	〃	織り板の杼	7	〃
摺　鉢	1	〃	踏　鋤	2	〃
紅　鉢	2	〃	とぐわ	3	〃
わらぞうり	10	〃	堆肥切り	1	〃
うそかけ	1	〃	鍬　先	4	〃
まぐさ切り機	1	〃	風呂鍬	4	〃
桑切り機	1	〃	風呂鍬（鍬先なし）	2	〃
足踏式紡毛機	1	〃	備中鍬	7	〃
一斗枡	1	〃	じょれん	2	〃
ござうち高下駄	1組	〃	水　甕	1	〃
根桑切り鎌	4	〃	両掛の棒	1	〃
つめ切り包丁	1	〃	両　掛	2	〃
馬足の石落し	1	〃	牛耕用具	3	〃
焼　印	1	〃	かきだし(炭焼用)	1	〃
な　た	3	〃	スキー	1	〃
包　丁	1	〃	ランプ	3	〃
総上げ台	1	〃	電燈の笠	3	〃
羽釜台	1	〃	ランプ用つり下げ枠	4	〃
座　繰	1	〃	自転車用電灯	1	〃
はさみ	1	〃	はんてん	1	〃
折　釘	4	〃	はかま	1	〃
桑摘み爪	15	〃	かみしも	1	〃
たがね	3	〃	脚　絆	2	〃
金　棒	5	〃	防寒用脚絆	2	〃
びく	1	〃	牛用掛布	1	〃
つまがけの木型	2	〃	外　套	3	〃
たばこ入れ	1	〃	経　机	1	〃
絎(くけ)　台(だい)	1	〃	五　徳	1	〃
杼	1	〃	写真乾燥機	2	松本才徳(川中島町)
桑掻き	2	〃	引伸し機	2	〃
ランプ	1	〃	プリントウォシャー	1	〃
鍋	1	〃	貯蔵ポリタンク	7	〃
羽釜付かまど	1	〃	貯蔵ガラスビン	1	〃
羽　釜	1	〃	バット	8	〃
手あぶり	2	〃	ロート	2	〃
蚕室暖房用火桶	1	〃	メスカップ	2	〃
毛羽取り器	1	〃	ドライグロス	5	〃
寄　桶	1	〃	亜硫酸ソーダ	1	〃
型箱（とうふ箱）	2	〃	現像フィルムリーダー	4	〃
万　力	1	〃	フィルム水洗用ポリ桶	2	〃
やかん	1	〃	カッター	2	〃
一升枡	1	〃	イーゼル	1	〃
升かき	1	〃	ナボックス・臭化カリウム	各1	〃
線香立	1	〃	はんごう	1	〃

弁当箱	4	松本才徳(川中島町)
氷酢酸他	6	〃
結晶ハイポ	10kg	〃
石油ランプ	1	〃
唐　箕	1	酒井英知(小田切)
土臼用上戸	1	〃
階段式穀箱	一式	〃
塗器用箱	1	〃
竹　簀	7	〃
わら簀	1	〃
手　籠	1	〃
米上げざる	2	〃
めんぱ	1	〃
はんぼう	3	〃
桶	5	〃
はえとり	1	大川成司（中越）
火熨斗	1	〃
片　口	1	〃
「天神さん」掛軸	4	〃
うそかけ	1	〃
子供用飯茶碗	1	〃

58年６月受入れ

堆肥切り	1	松本信一（妻科）
手　斧	1	〃
粉ふるい	1	〃
蚊　張	4	松本才徳(川中島)
柱時計	1	〃
重　箱	2	〃
カメラバック（昭和10年頃）	1	〃
引伸機コンデンサー	1	〃
貯蔵びん	2	〃
目覚し時計	1	〃
ウォッシャー(印画紙水洗)	1	〃
フィルム現像用品・薬品類	1	〃
引伸用品類	1	〃
キャビネ版印画紙	4	〃
閃光器	1	〃
閃光球	19箱	〃
座　卓	1	〃
フェロタイプ板	8	〃
衝　立	1	荒井千代忠(豊野町)
液用五合枡	1	〃
きせる	1	〃
杓　子	1	〃
独　楽	4	〃
桑摘み爪	2	〃
手あぶり	1	荒井千代忠(豊野町)
教科書等	42	〃
石　板	1	〃
絵はがき	7	〃
古銭（札）	16	〃
麻	1	〃
「天神さん」掛軸（小）	5	〃
〃　（大）	6	〃
はんてん	1	〃

58年７月受入れ

ボーリングコア	185	長野市理科教育センター
ふいご	1	畑岡房子(若穂川田)
祠	2	〃
じょうのうのみ(１寸４分)	1	古畑芳明(北区豊島)
〃　(１寸５分)	1	〃
〃　(１寸６分)	1	〃
〃　(１寸８分)	1	〃
〃　(２寸５分)	1	〃
シュース用じょうのうのみ (2分2分)	1	〃
シュース用天付じょうのうのみ(2寸3分)	1	〃
シュース用あご付じょうのうのみ(2寸5分)	1	〃
丸すきのみ（２分５厘）	1	〃
〃　（２分８厘）	1	〃
〃　（４分５厘）	1	〃
ありかきのみ（１分）	1	〃
〃　（２分５厘）	1	〃
あご突のみ	1	〃
帰り突のみ	1	〃
ほおの歯突のみ	1	〃
かし突のみ	1	〃
きく壺	1	〃
前　壺	1	〃
横　壺	1	〃
はな廻し	1	〃
歯殺し用玄能	1	〃
なた（八寸）	1	〃
せ　ん	1	〃
桐用伐採鋸	2	〃
はなきり鋸	1	〃
歯切り鋸	1	〃
あ　て	1	〃
かなばん	1	〃
おがみ鉋	1	〃
丸　鉋	1	〃
こぐちとり鉋	1	〃
平　鉋	3	〃

下駄のはさみ	1	古畑芳明(北区豊島)
油　壺	1	〃
すみさし	1	〃
ものさし	1	〃
とくさ	1	〃
うずくり	1	〃
えぼた	(粉末)	〃
ラジオ	1	松本才徳(川中島)
フラッシュ	1	〃
閃光球	5	〃
霧吹き(昭和初め)	1	〃
下駄スケート	1	〃
花　器	1	〃
屑　籠	1	〃
湯たんぽ(陶製・ブリキ製)	2	〃
ぞうり	1	〃
こたつやぐら	1	〃
そろばん	1	〃
たらい	2	〃
写真現像用品類		〃
人　体	1	〃

58年8月受入れ

漆用桶	10	清水京子(南県町)
へ　ら	2	〃
玉髄(長27cm・17kg)	1	上平　実(篠ノ井)
五反織木製支柱	2式	北中区
オルガン	1	更級農業高校
掛　図	52	〃
がまござ	6	〃
七　輪	1	〃
羽　釜	2	〃
釜　蓋	5	〃
考古資料(土器・石器等)	一括	〃

58年9月受入れ

印画紙・酢酸等薬品	/	松本才徳(川中島)
鍋　敷	1	〃
羽釜(蓋付)大・小	2	〃
製氷皿	3	〃
スパナ	/	〃
せいろう	1	〃
しゃもじ	5	〃
きゅうり刻み	1	〃
うどんすくい	1	〃
鋸	2	〃
鍋	1	〃
三　脚	1	〃

ミシン(昭和初期)	1	更級農業高校
鉄びん	1	〃
七　輪	1	〃
スキー(昭和初期)	1	〃
ストック(〃)	1	〃
ホルマリン用ガラスびん	1	〃

58年10月受入れ

高　機	1	樽田俊一(篠ノ井)
座繰り	1	〃
桑切り機	1	〃
滑車(鉄製・木製)	2	〃
糸撚り用大枠	1	〃
長　着	1	中村はる子(篠ノ井)
半　衿	1	〃
こたつ網	1	〃
十　能	1	〃
蒸　籠	1	中村千二三(篠ノ井)
ランプ(カーバイト)	1	〃
ランプ(石油)	〃	〃
背負子	1	〃
米びつ	1	〃
つけ木	1束	〃
一升枡	1	〃
一斗枡	2	〃
毛羽取り機	1	〃
雁　爪	2	〃
わらぼて	2	〃
つむぎ糸(木綿)	12束	平林清志(篠ノ井)
備後手織畳表(麻糸使用)	1	春原利昭(県町)
ミシン鋸	1	更級農業高校
摺　臼	1	村松忠夫(川中島)
七　輪	1	〃
行李(柳・竹)	2	松本才徳(川中島)
帽子(中折れ・戦闘帽)	2	〃
弁当箱(木製2段)	1	〃
こ　て	2	〃
すきやき鍋	1	〃
洗たく板	1	〃
十能(大1・小2)	3	〃
火　箸	2	〃
灰かき	1	〃
パン焼・今川焼板	2	〃
火消壺	1	〃
角火鉢	1	〃
ご　ざ	1	〃
冷蔵器	1	〃

58年11月受入れ

講中通行札外	3	牧内亮憲(西長野)
商い許可鑑札	6	〃
株札麦屋佐助外	3	〃
迎札平野与左エ門	1	〃
常備御用札左官重兵衛外	2	〃
人馬通行札松井田宿	6	〃
宮内省御用札	1	〃
繭輸送籠	1	瀧沢今朝行(信州新町)
たて（まゆ袋）	1	〃
苗　籠	2	一由渦水(安茂里)
桑びく	2	〃
桑摘み用笊	1	〃
桑扱き台	2	〃
ぞうり	11足	吉沢梅吉(川中島)
細　縄	一玉	〃
つとっこ	1	〃
丸盆(大・小・内側朱塗)	2	森山公一(信濃町)
汁椀等（箱つき）	14	〃
木　鉢	1	鈴木守雄(小川村)
千歯扱きの歯(木製)	1	〃
畳製作台	1	鈴木助一郎(篠ノ井)
背負子	1	〃
鉤付け	1	〃
むしろ機の杼	1	〃
いぐさ裂き器	1	〃
消防団の頭巾・衣	各1	小林　勇（県町）
巻脚絆	4	〃
麻　縄	3	〃
昆虫採集用胴乱(ブリキ製)	1	〃
くけ台	1	〃
茶こし	1	〃
味噌こし	1	〃
重箱（祝儀用）	1	〃
茶　芮	1	〃
こんごう	1	〃
白足袋	1	〃
飾　弓（大・小）	2	〃
ガラス乾板	2箱	〃
カメラケース（皮製）	1	〃
最新通俗衛生大鑑	1冊	〃
土　鍋	1	〃
電熱器	1	〃
木　箱	1	〃
晴着（綿入れ）	2	〃
前　掛	5	〃
手　甲	2	小林　勇（県町）
簞　笥	1	〃
長火鉢	1	〃

59年1月受入れ

着物類	8	荒井伊佐夫(小島田)
着物類	3	徳成孝一(小島田)
漆器類	18	〃
着物類	16	北村たけ子(小島田)
つづら	1	〃
柳行李	1	〃

（山口　明・水品紫乃）

4) 図書類

みずみち	長野市水道局
子供時代―長野県児童文化史―	
海外事情調査報告書（55年度）	日博協
ふるさとに伝わる年中行事	高井地方史研究会
ふるさとの伝説と昔話	〃
春日山城と上杉謙信	
博物館指導者研究協議会報告書56年	日博協
名品図録第1集	救世箱根美術館
第28回全国博物館大会報告書	日博協
総合基本計画	長野市企画調整部
昭和55年度版区政概要	世田谷区
沼津市歴史民俗資料館紀要6	沼津市歴史民俗資料館
板　碑	埼玉県立博物館
特別展正倉院宝物	東京国立博物館
神奈川県近代美術館30年の歩み（1951－1981）	神奈川県立近代美術館
長野県東海自然保護センター展示実施設計説明書	国立公園協会
第28回博物館の運営実態	日博協
第29回全国博物館大会報告書	日博協
五郎兵衛新田古文書目録第1集	浅科村教育委員会
松代付近名所図会	
長　野	長野市秘書課
伊那市寺院誌	伊那市教育委員会
信濃・善光寺秘儀，堂童子	
沿革誌1975	山際　順(須坂市)
上高井誌（社会）	滝沢富男(若穂)
〃　（歴史）	〃
〃　（自然）	〃
更埴市制20年誌	更埴市制20年誌編纂会
創設30周年公民館の歩み	芋井公民館
更府小学校百年のあゆみ	更府小学校
富国生命五十五年史	富国生命
開校70周年記念誌	若槻小学校

真島小学校百年誌	真島小学校
丸子町地域開発史	丸子町教育委員会
資料目録（上）	逓信博物館
〃　（下）	〃
〃　追録	〃
源頼朝とその周辺	鎌倉国宝館
多摩の神道垂迹美術Ｓ56	八王子市郷土資料館
台東区立下町風俗資料館	下町風俗風俗資料館
EXHIBITION OF SHŌSŌ-IN TREASURES	奈良国立博物館
国立国際美術館年報	国立国際美術館
栃木県の民俗文化第１集	栃木県立郷土資料館
栃木県の稲作習俗	〃
古山・中塩原の民俗	〃
秋山の民俗	〃
長野市箱清水史料集	
図録法皇塚古墳	市川博物館
山陰のはにわ	島根県教育文化財団
半田市郷土資料館所蔵文書目録	半田市郷土資料館
〃　2	〃
神奈川県立近代美術館―鎌倉	神奈川県立近代美術館
国学院大学考古学資料室要覧1972	国学院大学考古学資料室
国学院大学博物館学紀要1980	国学院大学博物館学研究室
鎌倉国宝館案内	鎌倉国宝館
別府大学付属博物館展示資料図録	別府大学付属博物館
はんだの産業と観光	半田市
江戸時代の旅1980	石川県立郷土資料館
海がまぶしいＭＯＡ美術館	ＭＯＡ美術館
紙のあゆみ	富士市立博物館
富士市立博物館1981	富士市教育委員会
旧松永家住宅移築復元概要	〃
富士市立歴史民俗資料館竣工記念	〃
神奈川県博物館協会々報第46号	神奈川県博物館協会
神奈川県博物館協会々報第47号	神奈川県博物館協会
秋期展示目録	永青文庫
永青文庫	〃
浜松市博物館1979	浜松市立博物館
目でみる浜松の歴史	〃
は に わ	〃
伊場遺跡	〃
「鏡・剣・玉」	〃
土に埋もれた人々のくらし	〃
採集から稲作へ	〃
親子で楽しむ古美術展こころとかたち	仙台市博物館
大田区郷土博物館紀要	大田区郷土博物館
特別展はにわにみる古代東国の人々	〃
〃　江戸時代の旅	〃

房総出土の古代の玉	千葉県立房総風土記の丘
東洋のやきもの陶磁器展	水戸市立博物館
歴史への招待	名古屋市博物館
年報昭和52年度	〃
尾張の国宝重要文化財	〃
愛知の新出土品展	〃
第２回収蔵品展	〃
明治大学刑事博物館資料第５集	明治大学刑事博物館
〃　目録 別冊	〃
〃　年報　〃	〃
平塚市博物館年報No. 3	平塚市博物館
〃　No. 4	〃
旧石器時代の東北	東北歴史資料館
年報昭和55年度	〃
群馬県立歴史博物館	群馬県立歴史博物館
〃　年報第２号	〃
山口薫展	神奈川県立近代美術館
高山辰雄展	〃
浜田知明　銅版画展	〃
富士美術館　開館記念展	富士美術館
ボストン美術館展	名古屋市博物館
長野県考古学会誌(12号～41号)	長野県考古学会
年報II(足利市文化財総合調査55年度)	足利市教育委員会
伊那市考古資料館図録	森山公一(信濃町)
特別展　入善沖の埋没林	富山市科学文化センター
〃　富山に生きる昆虫たち	〃
展示概説　上田の幕末・維新	上田市立博物館
特別展　郷土の絵馬	沼津市歴史民俗資料館
地 学 I	北海道開拓記念館
第21回特別展　野幌丘陵	〃
浦和市立郷土博物館研究調査報告書	浦和市立郷土博物館
長岡市立科学博物館研究報告18号	長岡市立科学博物館
福井市立郷土自然科学博物館研究報告29号	福井市立郷土自然科学博物館
小松市立博物館研究紀要第19集	小松市立博物館
岐阜県博物館報第５号	岐阜県博物館
特別展　高賀山の信仰	〃
岐阜県産貝類標本総合目録	〃
香港大空館	廖慶斉（香港）
要覧　創立15周年記念	元興寺文化財研究所
第10回企画展　写真で見る群馬	群馬県立歴史博物館
群馬県立歴史博物館	〃
〃　常設展示解説	〃
第12回企画展　上野国の大名	〃
第13回企画展　関東の中国陶器	〃
特別展　くらしとあかり	大田区立郷土博物館
図録　縄文人の食生活	〃

交通と昔の旅	調布市郷土博物館
和田宿	和田村教育委員会
いと・ぬの・きもの	東大阪市立郷土博物館
特別展図録　井上コレクションの古瓦	八王子市郷土資料館
特別展　旅だちの民俗	〃
年報　1　56年度	茨城県教育財団
特別展　音の考古学　古代の響	奈良県立橿原考古学研究所附属博物館
仙台市科学館時報第14号	仙台市科学館
富士に生きる(紙の町の歴史と文化)	富士市立博物館
文化財グラフぎふ第5号	岐阜市教育委員会
白山信仰　一向一揆展	小松市立博物館
昭和57年版　福井県勢要覧	福井県立美術館
ふくい	〃
特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡	福井県教育委員会
三国町郷土資料館概要	三国町郷土資料館
博物館30年の歩み	下諏訪町立博物館
展示解説図録 民具	〃
氷見市立博物館	氷見市立博物館
特別展　氷見の寺社名宝展	〃
アステカ文明	名古屋市立博物館
古文書(3)近世・近代文書目録	沼津市歴史資料館
立教大学博物館研究No.28	立教大学
特別展　島根の古代	八雲立つ風土記の丘
ホームギャラリーNo.9	ホームギャラリー編集室
特別展　水戸の指定文化財	水戸市立博物館
〃　世界の昆虫展	〃
水戸市立図書館・水戸市立博物館	水戸市教育委員会
国学院大学考古学資料館要覧1981	国学院大学考古学資料館
特別展　古代東国の甍	埼玉県立博物館
飯盛神社関係史料集	福岡市教育委員会
長野市の石造文化財（第5集）	長野市社会教育課
会誌「地理研究」第13号	長野県高等学校地理教育研究所
明治大学刑事博物館目録第51号	明治大学刑事博物館
明治大学刑事博物館目録第50号	〃
〃　年報　13	〃
彫刻作品図録	碌山美術館
荻原碌山	南安曇教育会
高松塚拾年	国立飛鳥資料館
展示は語る（常設展示解説）	平塚市博物館
平塚市博物館年報No.5	〃
平塚市博物館研究報告1982 自然と文化 No.5	〃
夏期特別展　掘り起こされた平塚	〃
S56年度 市立市川博物館 年報	市立市川博物館
富山市考古資料館紀要 第1号	富山市考古資料館
MINAMI TADA	多田美波(東京都)
仙台市博物館年報 第9号	仙台市博物館

要覧　1982	神奈川大学日本常民文化研究所
開館30周年特別展　九州古代のまつり	熊本市立熊本博物館
博物館学紀要 第6輯 1981	国学院大学博物館学研究室
玉依比賣命神社の児玉石神事(抜刷)	桐原　健(上高田)
三菱電機社史（創立60周年）	三菱電機
鐘鋳堰の話	霜田　巌(三輪)
学びの道	長沼小学校
写　楽	坂口清一(安茂里)
長野県厚生連松代病院三十周年記念誌	三十周年記念誌編集委員会
開校30周年　裾花のあゆみ	裾花小学校
十周年記念誌	松ヶ丘小学校
25 年 史	日本軽印刷工業会長野県支部
地震防災	高橋　博(東京都)
地震百科	〃
東京市政調査会60年史	長野市秘書課
写真集・日本社会党	〃
歴史の道 上街道保存整備工事報告書	岩出山町教育委員会
文化財シリーズNo.16 鮫の神楽	八戸市教育委員会
群馬県立歴史博物館紀要 第3号	群馬県立歴史博物館
北海道開拓記念館研究年報 第10号	北海道開拓記念館
〃　調査報告 第21号	〃
弘化四年善光寺大地震記録集	岡沢　要(　　)
組合20年の歩み	千曲厚生福祉事業協同組合
真田家文書（中巻）	長野市秘書課
若槻史	若槻史刊行会
'82年誌　和　敬	長野市秘書課
長野市統計書　S57年版	長野市企画調整部
栗田の町	タルタ信夫(栗田)
八幡一郎先生寄贈図書目録　1982	
自家製鋼による鐔つくり	成木一彦(中津川市)
長野県生涯教育リーダーバンク登録者名簿S58 1	長野県生涯教育推進本部
第30回 全国博物館大会報告書S58（1983）	日博協
ふるさとの生活を伝える	皆野町
東山道と萬葉集	青木村教育委員会
平林若者連永代記録	長野市社会教育課
上千田小誌	竹内好太郎(上千田)
世田谷の民家	世田谷区教育委員会
喜多見	〃
さがみはらの文化財第17集 生業調査報告書	相模原市教育委員会
国立歴史民俗博物館研究報告第2集	国立歴史民俗博物館
昭和57年度　長野市まちづくりアンケート	長野市企画調整部
菅平牧場百年史	菅平牧場畜産農業協同組合
国学院大学 考古学資料館要覧	国学院大学考古学資料館
東京大学文学部 考古学研究室研究紀要	東京大学文学部考古学研究室
博物館指導者研究協議会 報告書	日博協

中山道第4巻	児玉幸多(東京都)
若穂の文化財	若穂公民館
今王2号墳太宰府市の文化財第6集	太宰府市教育委員会
大宰府条坊跡II太宰府市の文化財第7集	〃
年　報　2	群馬県埋蔵文化財 調査事業団
大神楽考	富建千引神社神楽保存会
長野県人	
日韓辞典	
教育年報　S56年度版	長野県教育委員会
国鉄浜松工場内(梶子)遺跡第VI次発掘調査概要	浜松市博物館
第1回近畿地方埋蔵文化財担当者研究会資料	大阪文化財センター
歴史の道調査報告書第5集　信州街道	群馬県教育委員会
日本の歴史 別巻2　史跡・資料館事典	小学館
建築画報 173 特集 宮本忠長建築設計事務所	建築画報社
郷土の文化財 絵葉書 (第1集)	上田市立博物館
〃　古建築　〃　(第2集)	〃
郷土の文化財 仏　像	〃
〃　古建築	〃
郷土の歴史 城下町上田	〃
上田築城400年 真田史料展	〃
長野県上水内郡地方の化石の研究・地史	冨沢恒雄(三輪)
信州北部地方の新第3系の地質学的研究−層序篇−	〃
明治百年史	長野市秘書課
年　報　2　S57年度	茨城県教育財団
文化財学報 第2集	奈良大学文学部文化財学科
鶴尾神社4号墳調査報告書	高松市教育委員会
東京大学文学部 考古学研究室研究紀要 第2号	東京大学文学部 考古学研究室
特別展図録　三～四世紀の東国	八王子市郷土資料館
長野県文化財分布図	長野県教育委員会
巻町郷土資料館資料目録No.1 石塚松太郎コレクション徳利	巻町郷土資料館
〃　No.2 館源文庫目録	〃
〃　No.3 越後毒消しコレクション目録	〃
〃　No.5 松郷屋焼館蔵品目録	〃
角海浜の民具 巻町双書27	〃
まきの本 第22号 1983.9	〃
第32回特別展 松野尾関係文人墨客展	〃
蓬来山 (絵葉書)	新宮市
しなの追分 第一集	東信史学会
十年のあゆみ S49～S58	箕輪町郷土博物館
釈　彦　安田靫彦展	上越市立総合博物館
愛媛の自然 第25巻 (6号～12号)	愛媛自然科学教室
1984年刊 美術家名鑑	美術倶楽部出版局
近世栗田村古文書集成	青木正義(栗田)
博物館概要	栃木県立博物館
常設展示解説	〃
栃木県立博物館研究報告書 第1号	〃
小中学校における博物館利用の手引き	栃木県立博物館
化石の世界	〃
小松市立博物館研究紀要 第20集	小松市立博物館
小松ゆかりの近代日本画工遺作展	〃
佐野市郷土博物館概要	佐野市郷土博物館
訟平賦均録	別府大学付属博物館
石垣市立八重山博物館 館報 第5号	石垣市立八重山博物館
黒岩旧白山寺遺宝展 北上の修験道資料展図録	北上市立博物館
北上川の水運	〃
北上市立博物館研究報告 第4号	〃
立教大学博物館研究 No.29	立教大学 学校・社会教育講座
特別展 大田の祭りと民俗芸能	大田区郷土博物館
'82－'83青少年センターのあらまし	神奈川県立青少年センター
東北の中世陶器	東北歴史資料館
目で見る八戸の歴史	八戸市博物館
特別展 関東の埴輪	水戸市立博物館
水戸市立博物館報 第1号	〃
文化財グラフ ぎふ 第6号 '83-3	岐阜市教育委員会
韓国古代文化展 新安海底引揚げ文物	東京国立博物館
昭和58年度 事業概要	自然科学博物館
気象庁地震観測所技術報告第4号	気象庁地震観測所
大阪市立自然史博物館館報II	大阪市立自然史博物館
織物　十日町市博物館常設展示解説書3	十日町市博物館
志村一男遺作展	諏訪市美術館
(仮称)考古資料館基本構想のあり方について	横浜市教育委員会
要　覧　1983	神奈川大学 日本常民文化研究所
千曲川流域の旧石器	上田市立信濃 国分寺資料館
板橋区立郷土資料館紀要(1983)	板橋区教育委員会
1982 平塚市博物館年報 No.6	平塚市博物館
信州書芸展図録 第30回	信州書芸会
愛知県設楽層群の貝類および植物化石	瑞浪市化石博物館
郷土資料館資料シリーズ第22号 石川日記(5)	八王子市教育委員会
館　報　第4号	富山市 科学文化センター
特別展　アバカスからコンピュータまで	〃
年　報　S54年度～S56年度	岡山県立博物館
氷見市立博物館年報 第1号	氷見市立博物館
明治大学刑事博物館年報 14	明治大学刑事博物館
図録　大鋸コレクション	石川県立郷土資料館
柳敬助集	碌山美術館
食の民具展	真壁町歴史民俗資料館
児童科学館 1983	長崎市児童科学館
特別展　京見塚遺跡展	磐田市立郷土館
国立歴史民俗博物館要覧 '83	国立歴史民俗博物館
現代抽象展	㈱美術倶楽部
埼玉県立自然史博物館研究報告	埼玉県立自然史博物館
教職・社会教育主事・学芸員課程年報 S57年	明治大学

明治大学考古学陳列館案内　S57	明治大学考古学陳列館
埼玉県史跡名勝天然記念物調査報告書第4集	埼玉県教育委員会
白隠とその時代	沼津市歴史民俗資料館
沼津市歴史民俗資料館紀要7　1983	〃
瀬戸内海歴史民俗資料館年報　1983	瀬戸内海歴史民俗資料館
讃岐青銅器図録　1983	〃
ＮＫＨ長岡市立科学博物館報　No.42	長岡市立科学博物館
〃　No.43	〃
仙台市博物館年報 第10号	仙台市博物館
仙台市博物館調査研究報告Ｓ57年度	〃
仙台市博物館収蔵資料目録（Ｖ）	〃
志賀自然教育研究施設研究業績　第20号	志賀自然教育研究施設
研究報告4	岡山県立博物館
皆野町農山村具展示館要覧	埼玉県皆野町教育委員会
夏季特別展 郷土のスポーツ～百年のあゆみ～	調布市郷土博物館
仙台市科学館時報第15号	仙台市科学館
'83特別展　古代人の食生活	八雲立つ風土記の丘
鬼虎川遺跡出土遺物にみる弥生人のくらし	東大阪市郷土博物館
特別展 郷土の生んだ先覚者	岐阜県博物館
岐阜県博物館調査研究報告第4号	〃
岐阜県博物館	〃
岐阜県博物館報 第6号	〃
特別展 岐阜県の考古遺物	〃
考古特別展シリーズⅠ掘り起こされた古代のくびき	上越市立総合博物館
館蔵品図録　1983	石川県立郷土資料館
市立長浜城歴史博物館企画展示解説シート	市立長浜城歴史博物館
1983.4 第14回企画展 絵馬	群馬県立歴史博物館
群馬県立歴史博物館年報　第3号	〃
第15回企画展　埋もれていた縄文人のくらし	〃
群馬県立歴史博物館紀要　第4号	〃
〃　年報　第4号	〃
第16回企画展　群馬ゆかりの文化財	〃
特別展　岡山ゆかりの画人たち	岡山県立博物館
豊田市郷土資料館収蔵品図録Ⅸ	豊田市郷土資料館
甲 冑 展	〃
年表 近代女流文学展 －昭和前期－	近代文学博物館
松前藩主・一族書状集・Ⅰ	北海道開拓記念館
近藤家資料目録・誌篇	〃
生 物 Ⅰ　1983	〃
北海道開拓記念館研究年報 第11号	〃
〃　調査報告 第22号	〃
'83 要 覧	〃
北海道開拓の村	〃
第23回特別展 発掘された北の文化	〃
竣工記念 丸子町郷土博物館	丸子町郷土博物館
丸子町郷土博物館	〃
常設展示解説　小山の文化のあゆみ	小山市立博物館
第2回企画展　甲 冑 展	〃
特別展　東洋を奏でる民族楽器	大田区立郷土博物館
香川県自然科学館 研究報告 第5巻	香川県自然科学館
新豊院山墳墓群 Ｄ地点調査概報	磐田市教育委員会
近世・近代版画資料目録　1983	神奈川県立博物館
八王子市郷土資料館15年史	八王子市郷土資料館
特別展図録　東京の娯楽	〃
平塚市博物館研究報告 1983 自然と文化 No.6	平塚市博物館
辰野町郷土美術館（絵葉書）	辰野町郷土美術館
浦和市立郷土博物館研究調査報告書 第10集	浦和市立郷土博物館
産業文化会館博物館紀要 第5号	川崎市立 産業文化会館博物館
常設展示会館博物館紀要 第5号	市立長浜城歴史博物館
紀　　要 1983	下諏訪町立博物館
国学院大学博物館学紀要 第7輯	国学院大学 博物館学研究室

（大蔵　満・樋口良江）

5） 報告書等

浅川西条	長野市教育委員会
三浦古文化第29号	山田泰弘
みたかの庚申塔　（文化財シリーズ1）	三鷹市教育委員会
井の頭文化財　（　〃　2）	〃
みたかの石造遺物　（　〃　3）	〃
松井家文書　（　〃　4）	〃
みたかの民家　（　〃　5）	〃
〃　の民俗(野崎)（　〃　6）	〃
〃　の民家　（　〃　7）	〃
〃　の民俗(大沢)（　〃　8）	〃
〃　の民家　（　〃　9）	〃
〃　の民俗(深大寺)（　〃　10）	〃
〃　のお寺	〃
西宮の文化財	西宮市　〃
麻生の文化	〃
蔵造りの町並	川越市　〃
取手市郷土史資料写真集	取出市　〃
取手と先史文化（上）	〃
〃　（下）	〃
原始・古代の豊岡	〃
石川日記(4)	八王子市　〃
長野県指定文化財調査報告	長野県　〃
千葉・南総中学遺跡	駒沢大学考古学研究室
鹿島の植土	鹿島町教育委員会
丘中学校遺跡－調査報告書－	塩尻市　〃
金沢市畝田・無量寺遺跡	金沢市　〃
金沢市二口六丁遺跡	〃

金沢市新保町チカモリ遺跡	金沢市教育委員会
金沢市二口町遺跡	〃
金沢市無量寺遺跡	〃
金沢市埋蔵文化財調査年報	〃
高塩Ｂ遺跡発掘調査報告	西山町教育委員会
内越遺跡	新潟県教育委員会
長岡ニュータウン遺跡	〃
三条考古学研究会機関誌２	金子拓男(新潟市)
栗原遺跡第４・５次	〃
松本市文化財調査報告（26）	松本市教育委員会
草津城跡	広島市教育委員会
57年度埋蔵文化財発掘調査報告	市川市教育委員会
史跡御経塚古墳	野々市町教育委員会
弘住遺跡発掘調査報告	広島市教育委員会
京都府埋蔵文化財情報６号	京都府埋文センター
小矢部市埋文分布調査概要II	小矢部市教育委員会
〃 III	〃
多摩ニュータウン遺跡Ｓ56第５	東京都埋文センター
〃 第６	〃
〃 No. 513遺跡	〃
松本市寿小赤遺跡	松本市教育委員会
推定信濃国府	〃
笹賀牛の川遺跡	〃
先史12(千葉県報告書)	駒沢大学考古学研究室
〃 15(長崎，松浦四山窯址)	〃
〃 16(町田市武蔵岡遺跡)1977	〃
〃 17(〃)1979	〃
〃 18(〃)1980	〃
〃 19(〃)1981	〃
〃 20 滝山高燥遺跡	〃
〃 21 東京石川天野遺跡３次	〃
〃 22 〃 ４次	〃
平城京左京五条五坊七・十坪	奈良市教育委員会
京大構内遺跡調査年報Ｓ51	京大考古学研究室
宮中野古墳群現地説明会資料	鹿島町教育委員会
木曽福島町の文化財（第１集）	木曽福島町教育委員会
わかさ小浜の文化財（図録）	小浜市教育委員会
弘前の文化財（板石塔婆）	弘前市教育委員会
清水台廃寺	郡山市教育委員会
無定形 1965	長野吉田高校地理班
信越本線滋野・大屋間複線化工事事業地内埋文緊急発掘調査報告	長野県教育委員会
稲荷山出土埴輪円筒棺調査略報	木立雅朗
あるけおろじいNo.40	〃
下畑玉作遺跡第１次	写真測図研究所
〃 第２次	〃
文化財グラフ ぎふ 第３号 '80－３	岐阜市教育委員会
文化財グラフ ぎふ 第４号 '81－３	岐阜市教育委員会
第２回弥生時代シンポジウム発表要旨	千曲川水系古代文化研究所
富士市の文化財	富士市教育委員会
川崎市文化財調査集録17	川崎市教育委員会
シンポジウム邪馬台国の謎を解く	大阪文化財センター
千曲水系における弥生時代終末から古墳時代初頭の土器編年	千曲川水系古代文化研究所
神野向遺跡	鹿島教育委員会
井沼方・大北・和田北・西谷・吉場遺跡発掘調査報告書 1982	浦和市遺跡調査会
研究論集Ｉ	東京都埋蔵文化財センター
京都府埋蔵文化財情報 第３号	京都府埋蔵文化財調査研究センター
〃 第４号	〃
〃 第５号	〃
新幹線と遺跡	東北歴史資料館
井上氏	須坂高校郷土部史学班
大和を掘る 1982年度発掘調査速報展３	奈良県立橿原考古学研究所附属博物館
阿久 No.２	原村教育委員会
浅川扇状地遺跡群迦田遺跡外	長野市社会教育課
伊倉遺跡	下関市教育委員会
綾羅木川下流域の条理遺構	〃
遺跡分布調査概要Ｉ	魚津市教育委員会
早月上野遺跡 第５・６次調査概要	〃
中尾（遺構篇）	群馬県 〃
横井・阿弥陀堂遺跡	茅野市 〃
建応寺跡の調査	中野市 〃
開運町遺跡	標茶町 〃
標茶町のアイヌ地名	〃
埋蔵文化財発掘調査概報集	相模原市 〃
橋本遺跡III	〃
長岡藩主牧野家墓所発掘調査概報	港区 〃
大堀城跡発掘調査報告書	大阪文化財センター
新池台遺跡	茨城県教育財団
十王堂坂の上遺跡	飯島町教育委員会
茂呂山東方遺跡	板橋区 〃
志村坂上遺跡調査報告	〃
長峰横穴群	市貝町 〃
本田遺跡発掘調査報告書	浦和市 〃
別所子野上遺跡発掘調査報告書	〃
成東町真行寺廃寺跡研究調査概報	千葉県文化財センター
知久平遺跡群	飯田市教育委員会
天竜峡東原遺跡	〃
鳥屋平	〃
酒屋前遺跡	〃
米子市石州府遺跡群発掘調査報告書Ｉ	米子市 〃
目久美遺跡	〃
陰田遺跡群III	〃
諏訪市の遺跡	諏訪市 〃

穴　場　Ｉ 第５次	諏訪市教育委員会
上向遺跡 Ｓ57年度	岡谷市　〃
氷見市遺跡地図	氷見市　〃
佐賀県多久三年山における石器時代の遺跡	明治大学考古学研究室
浜松市谷田遺跡発掘調査報告書	浜松市遺跡調査会
蜆塚遺跡範囲確認調査概報 Ｓ57年度	浜松市教育委員会
伊場遺跡遺物編３	〃
伊場遺跡遺物別冊	〃
沼津市文化財調査報告書第29集 神明塚古墳	沼津市　〃
下総国分尼寺跡Ｉ 昭和57年度調査報告	市川市立考古博物館
川崎市文化財調査集録 18	川崎市教育委員会
尾上イラウネ遺跡発見の線刻礫調査報告書	沼津市　〃
軽井沢町茂沢南石堂遺跡総集編	軽井沢町　〃
開成４遺跡	北見市立郷土博物館
中台三丁目南の丘遺跡発掘調査報告書	南の丘遺跡調査会
研究連絡誌 第１号	千葉県文化財センター
〃　第２号	〃
〃　第３号	〃
〃　第４号	〃
更埴市粟佐遺跡群　五輪堂遺跡II	更埴市教育委員会
森将軍塚古墳 第２年次	〃
取手市内における重要遺跡発掘調査報告	取手市　〃
取手市小文間における縄文時代中期の貝塚	〃
舞台場 Ｓ56年度	佐久市　〃
前山焼（川越石焼）	〃
高部遺跡	茅野市　〃
京都府埋蔵文化財情報 第７号	京都府埋蔵文化財調査研究センター
史跡 観音山古墳	群馬県教育委員会
覆刻社会教育資料（埋蔵文化財調査報告）	和歌山市　〃
斉院 茶臼山古墳	松山市　〃
長尾鯉坂遺跡	川崎市　〃
新作小高台遺跡	〃
東之手・西之手遺跡	上田市　〃
上田市文化財調査報告書第20集和手	〃
長法寺南原古墳	大阪大学南原古墳調査団
松本市内田雨堀遺跡	松本市教育委員会
松本市内田雨堀遺跡 第２次	〃
松本市笹賀くまのかわ遺跡	〃
鳥浜貝塚 1979	福井県　〃
〃　1980年度調査概報	〃
〃　1981年・1982年度調査概報	〃
福井県上中町十善の森古墳出土の金銅製冠帽（抜刷）	西山要一
奈良市十輪院出土の常滑焼大甕（抜刷）	〃
Ｘ線透過試験による古墳時代刀剣の調査（抜刷）	〃
高野山発掘調査報告書 第５章 論考篇（抜刷）	〃
元興寺文化財研究 No.11	元興寺文化財研究所
なずな原遺跡 1981	重久淳一
文化財シリーズ第45集 いたばしの古道	板橋区教育委員会
真光寺第１号古墳	望月町　〃
春日尾崎遺跡	〃
後沖遺跡	〃
栃久保Ａ遺跡	〃
千葉県文化財センター年報 No.7	千葉県文化財センター
〃　No.8	〃
京都府埋蔵文化財情報 創刊号	京都府埋蔵文化財調査研究センター
〃　第２号	〃
国鉄浜松工場内遺跡第VII次発掘調査概報	浜松市遺跡調査会
Ｓ57年度 市川東部遺跡群発掘調査報告	市川市教育委員会
大分県上下田遺跡 第２次	別府大学付属博物館

（西川昭史・樋口良江）

3　寄託・借用資料

58年２月受入れ

名　称	数量	寄託者・借用先
明和２年小島田村絵図（額装）	1	小島田町内会長

58年３月受入れ

明治時代の輸入自転車	1	和田康雄（西長野町）
看板「おきゃらの油」	1	〃

58年８月受入れ

阿久遺跡出土深鉢	1	長野県教育委員会
大石遺跡出土深鉢	1	〃

58年９月受入れ

茶臼山産動植物化石	553	大田繁則（山布施）

58年12月受入れ

文章軌範詳林他	221	広田金治郎（松代）

（和田　博）

Ⅳ　博物館施設・管理

1　建物概要

① 建設位置　長野市小島田町1,414番地（八幡原史跡公園内）

② 敷地面積　95,000㎡

③ 建築面積　5,206.9㎡　　昭和59年度増築　113.2㎡

④ 延床面積　7,144.7㎡・回廊　96.5㎡　　昭和59年度増築　113.2㎡

⑤ 建築構造　鉄筋コンクリート造・一部鉄骨鉄筋コンクリート造・地下1階地上3階一部4階・軒高16.2ｍ・最高19.1ｍ

⑥ 主　　室

1号館：常設展示室（1・2階）・教室・相談室・収蔵庫・事務室・機械室・エレベーターほか（2,992.5㎡）

2号館：特別展示室・収蔵庫（1・2階）・消毒室・研究室・実験室・会議室・工作室・プラネタリウム・天体観測室・館長室・学芸員室・管理室・救護室・機械室・荷解室ほか（4246.7㎡）

⑦ 建　　物

1）主外装　壁：合板型枠打放しコンクリート斫り仕上

屋根：耐候性高張力鋼板平ぶき

建具：アルミ製建具・耐候性高張力鋼加工サッシ

2）主内装　床：床用レンガタイル・カーペット敷・塩ビタイル

壁：化粧合板打放しコンクリート・一部斫り仕上プラスターＰ・合板Ｓ.Ｃ.Ｌ

天井：格子天井・岩綿吸音板

⑧ 設　　備

イ 電　　気　受電々圧 6,600Ｖ　60Hz

主変圧器　3相 200kVA 2台・20kVA 1台・単相 100kVA 1台・75kVA 2台

自家発電　発電機 100kVA・原動機　ディーゼル機関133ps

蓄 電 池　キュービクル式200AH

ロ 防　　災　自動火災報知設備・非常放送設備・非常照明設備・非常警報設備・屋内消火栓設備・ハロン1301消火設備・防犯設備・避雷設備・排煙設備

ハ 給 排 水　高置水槽方式（受水槽40㎥・高置水槽10㎥）・し尿浄化槽（345人合併処理）

ニ 空　　調　ターボ冷凍機2基 362,000kcal/h・蒸気ボイラー2基 443,000kcal/h・自動制御設備・空気調和器5系統・換気（空調除く）設備28系統・フアンコンベクター（14室）・コンベクター（9室）・ルームクーラー（1室）

ホ 昇 降 機　車いす兼用乗用エレベーター1台（油圧式 750kg）・小荷物用ダムウエーター1台（電動式 200kg）

ヘ くん蒸機　減圧殺虫菌装置1基

ト 通　　信　ＴＶ共聴設備・ボタン式電話2回線・インターホン3回線・放送設備

チ 時　　計　親時計2回線　子時計17台

⑨ 工　　期

着　　工　昭和55年4月　　完　　成　昭和56年5月　　増　　築　昭和58年10月

（松沢忠幸）

2　博物館施設整備事業

昭和57年度は開館時未整備であった博物館建物周囲の環境整備を重点に諸工事を実施したほか度び重なる台風等による地下室浸水被害を防止するための対策工事を行った。

昭和58年度については荷解室が手狭となったため洗い場流し等の設備を含め83平方メートルを増築し博物館施設機能の充実を図った。

各年度毎の工事及び施設管理委託は下記のとおりである。

〔昭和57年度工事〕

(1)　外構関係

外構工事	9,050千円
館北側樹木移植工事	455
芝石敷込工事	3,183
散水配管工事	1,100
案内板設置工事	1,490
安全柵工事	140
西側階段改修工事	965
計	16,383

(2)　外灯関係

外灯新設工事	6,000千円
遠隔地操作盤増設工事	720
計	6,720

(3)　災害関係

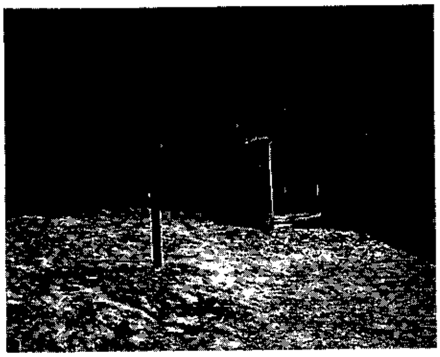
災害対策工事	8,800千円
災害対策増工事	1,779
台風災害復旧工事	588
地下室床塗装工事	280
計	11,447

(4)　施設整備関係

ファンコイル凍結防止工事	850千円
キュービクル改修工事	182
警報機取付工事	487
地下室壁改修工事	231
トイレ改修工事	323
誘導灯増設工事	280
計	2,353

外溝工事

外溝工事



外灯新設工事

西側階段改修工事

(5) 企画展関係

長野の祭り	146千円
はにわの世界	190
職人さん	296
計	632

〔58年度〕

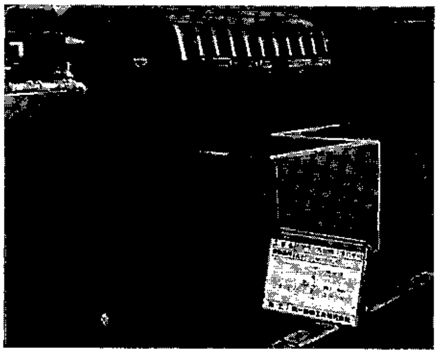
(1) 施設整備関係

荷解場増築工事	17,350千円
収蔵庫前室改修工事	610
荷解室警報機器取付工事	155
キーボックス移設工事	189
設備修繕工事	82
計	18,386

(2) 企画展関係

シナノから科野国へ	156千円
街道と旅	900
計	1,056

(小島忠男)



災害対策工事

企画展実演場製作工事

3 委託事業等

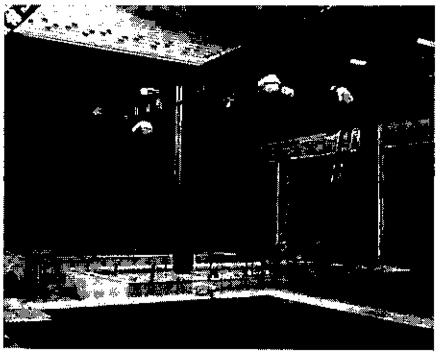
(1) 施設管理委託等

名称	年度	備考
空調設備等管理委託	57・58	職員2人常駐
し尿浄化槽管理委託	〃	月1回点検
清掃業務管理委託	〃	職員3名常駐
自家用電気工作物保安点検委託	〃	月1回点検
エレベーター保守委託	〃	月1回点検
警備業務委託	〃	夜間総合警備
防火マットレンタル	〃	月2回取替
庭園管理	〃	年3回除草等
ターボ冷凍機保守委託	〃	年4回点検

(2) 展示用機器管理等

くん蒸処理委託	57・58	年1回(1月第4週)
プラネタリウム保守委託	〃	年4回点検
展示模型映像機器保守委託	〃	年1回総点検

(松沢忠幸)



荷解室増築工事

同上竣工

V　事務報告

1　昭和58年度予算

（単位千円）

項目	本年度	前年度	比較	本年度の財源内訳				節	
				特定財源			一般財源	区分	金額
				国県支出金	地方債	その他			
博物館費	143,703	186,586	△42,883	0	0	13,602	130,101	(1)報酬	1,904
								(2)給料	19,081
								(3)職員手当等	11,478
								(4)共済費	4,522
								(7)賃金	13,080
								(8)報償費	1,792
								(9)旅費	864
								(11)需用費	38,149
								(12)役務費	5,551
								(13)委託料	22,915
								(14)使用料及び賃借料	319
								(15)工事請負費	17,250
								(16)原材料費	300
								(18)備品購入費	6,350
								(19)負担金補助及び交付金	139
								(27)公課費	9

2　入館者等

1)　天体学習室入館者数

内訳 / 月別	個人			団体			計	累計	開館日数	一日平均
	一般	高校生	小中学生	一般	高校生	小中学生				
58年1月	195	3	169	0	0	0	367	22,159	6	61
2月	222	8	200	0	0	0	430	22,589	8	54
3月	631	22	719	9	0	47	1,428	24,017	15	95
合計	6,816	209	6,624	552	55	841	15,097	24,017	123	123
4月	448	16	583	10	0	25	1,082	25,099	10	108
5月	914	29	995	270	42	371	2,621	27,720	13	202
6月	508	14	487	83	0	171	1,263	28,983	8	157
7月	561	24	419	29	0	80	1,113	30,096	10	111
8月	896	39	833	0	0	0	1,768	31,864	18	98
9月	426	12	468	62	0	152	1,120	32,984	9	124
10月	587	22	593	65	0	80	1,347	34,331	11	122
11月	381	14	339	6	0	20	760	35,091	10	76
12月	169	10	161	47	0	0	387	35,478	8	48
59年1月	188	5	145	0	0	0	338	35,816	7	48
2月	238	20	202	0	0	0	460	36,276	8	58
3月	443	19	672	31	0	0	1,165	37,441	16	73
合計	5,759	224	5,897	603	42	899	13,424	—	128	105

2） 博物館入館者数

内訳／月別	有料入館者							無料入館者						特別展入館者数	入館者合計	入館者累計	開館日数	平均入館者
	個人			団体			小計	小学校		中学校		視察等	小計					
	一般	高校生	小中学生	一般	高校生	小中学生		校数	人数	校数	人数							
57年度																		
1月	1,027	25	392	176	0	0	1,620	—	—	—	—	24	24	—	1,644	150,735	18	91
2月	1,262	24	327	305	0	38	1,956	1	28	—	—	82	110	—	2,066	152,801	23	90
3月	3,117	145	1,398	402	0	47	5,109	2	218	—	—	81	299	—	5,408	158,209	27	200
合計	38,481	1,208	14,803	20,628	608	5,224	80,952	84	5,539	6	1,176	2,315	9,030	7,461	97,443	158,209	295	330
58年度																		
4月	3,159	109	1,337	972	131	233	5,941	2	225	0	0	165	390	—	6,331	164,540	26	244
5月	4,456	94	1,978	1,775	42	1,441	9,786	9	599	6	1,481	151	2,231	—	12,017	176,557	26	462
6月	2,506	41	759	2,141	900	544	6,891	8	723	1	394	160	1,277	—	8,168	184,725	26	314
7月	2,682	93	742	2,913	501	521	7,452	10	824	1	15	145	984	—	8,436	193,161	27	312
8月	5,363	321	2,661	1,377	0	317	10,039	1	78	0	0	104	182	—	10,221	203,382	27	378
9月	2,130	28	586	1,820	42	166	4,772	5	268	0	0	115	383	—	5,155	208,537	24	214
10月	3,101	42	1,013	2,888	0	714	7,758	15	721	0	0	327	1,048	4,233	13,039	221,576	26	501
11月	2,418	40	596	1,634	3	287	4,978	12	1,143	0	0	20	1,163	2,004	8,145	229,721	24	339
12月	662	12	172	355	0	44	1,245	3	184	0	0	68	252	—	1,497	231,218	24	62
1月	613	12	241	17	0	3	886	2	181	0	0	7	188	—	1,074	232,292	18	60
2月	941	23	328	242	0	32	1,566	6	461	0	0	88	549	—	2,115	234,407	25	85
3月	2,013	106	1,081	303	0	0	3,503	2	246	0	0	145	391	—	3,894	238,301	26	150
合計	30,044	921	11,494	16,437	1,619	4,302	64,817	75	5,653	8	1,890	1,495	9,038	6,237	80,092	—	299	268

（竪岩百合子）

Ⅵ 彙　　報

1　博物館の概要

1)　長野市立博物館条例　(昭和56年３月28日 長野市条例第29号)

（趣旨）

第１条　この条例は，地方自治法（昭和22年法律第67号）第244条の２第１項及び博物館法（昭和26年法律第285号。以下「法」という。）第18条の規定に基づき，長野市立博物館（以下「博物館」という。）の設置及び管理等に関し必要な事項を定めるものとする。

（設置）

第２条　自然科学及び人文科学等に関する資料を収集し，保管し，及び展示して教育的配慮の下に市民の利用に供し，その教養，調査研究，レクリエーション等に資するとともに，これらの資料に関する調査研究を行うため，博物館を長野市小島田町1414番地に設置する。

（管理）

第３条　博物館は，常に善良な管理者の注意をもつて管理運営するものとする。

（入館料）

第４条　博物館に入館しようとする者は，入館の際に別表第１に定める入館料（以下「入館料」という）。を納付しなければならない。

２　特別な展示等の場合は，前項の規定にかかわらずその期間に限り，長野市教育委員会（以下「教育委員会」という。）は入館料を増額することができる。

（特別展示室の使用等）

第５条　展示発表等のため，博物館の特別展示室（以下「展示室」という。）を使用しようとする者は，教育委員会の許可を受けなければならない。

２　前項の許可を受けた者（以下「使用者」という。）が継続して展示室を使用できる期間は，30日を限度とする。ただし，教育委員会が特別な理由があると認めるときは，この限りでない。

（使用料）

第６条　使用者は，別表第２に定める使用料（以下「使用料」という。）を納付しなければならない。

（入館料等の減免）

第７条　教育委員会は，特別な理由があると認めるときは，入館料又は使用料を減免することができる。

（入館料等の還付）

第８条　既に納付された入館料又は使用料は，還付しない。ただし，教育委員会が特別な理由があると認めるときは，その全部又は一部を還付することができる。

（資料の特別利用等）

第９条　博物館の資料の特別利用等については，教育委員会が別に定める。

（入館等の制限）

第10条　教育委員会は，次の各号の一に該当するときは，入館を拒否し，退館を命じ，又は許可を取り消し，その他必要な措置を講ずることができる。

(1)　公の秩序又は善良な風俗を害するおそれがあると認められるとき。

(2)　管理上支障があると認められるとき。

(3)　その他教育委員会が必要と認めるとき。

（賠償責任）

第11条　故意又は過失により博物館の資料，施設等を破損し，又は滅失したときは，教育委員会の命ずるところにより，これを原状に復し，又はその損害を賠償しなければならない。

（博物館協議会）

第12条　法第22条第1項の規定に基づき，長野市立博物館協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

2　協議会の委員（以下「委員」という。）の数は，10人以内とする。

3　委員の任期は，2年とする。ただし，補欠委員の任期は，前任者の残任期間とする。

（会長及び副会長）

第13条　協議会に会長及び副会長1人を置く。

2　会長及び副会長は，委員の互選とする。

3　会長は，会務を総理し，協議会を代表する。

4　副会長は，会長に事故あるときは，その職務を代理する。

（会議）

第14条　協議会は，必要に応じ会長が招集する。

2　協議会は，委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。

3　会長は，協議会の会議の議長となる。

4　議事は，出席委員の過半数をもつて決し，可否同数のときは，議長の決するところによる。

（委任）

第15条　この条例に定めるもののほか，この条例の施行に関し必要な事項は，教育委員会が別に定める。

附　則

この条例は，昭和56年4月1日から施行する。

別表第1　（第4条関係）

区分	常設展示		プラネタリウム	
	個人	団体（20人以上の場合）1人につき	個人	団体（20人以上の場合）1人につき
一般	円 200	円 160	円 100	円 80
高校生	100	80	50	40
小・中学生	50	40	30	20

別表第2　（第6条関係）

区　　　　　　分	1日当りの使用料
入場料等を徴収しない場合	4,000 円
入場料等を徴収する場合	8,000

備考

1　入場料等とは，使用者が入場者から徴収する入場料，会費，その他これに類するものをいう。

2　展示室の一部を使用する場合の使用料は，使用する面積により，1日当たりの使用料の金額を基準として算出し，100円未満の端数があるときはこれを切り上げる。

3　冷暖房費は，実費を徴収する。

2)　長野市立博物館条例施行規則　（昭和56年3月31日 長野市教育委員会規則第10号）

改正　昭和56年7月8日　教委規則第14号 ｜ 昭和57年3月30日　教委規則第8号
昭和56年9月17日　教委規則第15号

（趣旨）

第1条　この規則は，地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号）第33条第1項及び長野市立博物館条例（昭和56年長野市条例第29号）第15条の規定に基づき，長野市立博物館（以下「博物館」という。）の組織運営，管理及び処務に関し，必要な事項を定めるものとする。

（係の設置）

第2条　博物館に，次の係を置く。

(1)　庶務係

(2)　学芸係

（事務分掌）

第3条　各係の分掌事務は，次のとおりとする。

庶務係

(1)　博物館の庶務に関すること。

(2)　公印の管守に関すること。

(3)　博物館協議会に関すること。

(4)　博物館の予算に関すること。

(5)　施設の維持管理に関すること。

(6)　入館者の受付及び案内に関すること。

(7)　入館料及び使用料等の収納に関すること。

(8)　他の係の分掌に属さないこと。

学芸係

(1)　資料の収集，保管，展示及び利用等に関すること。

(2)　資料の専門的，技術的調査研究に関すること。

(3)　資料の解説書、目録，図録，年報，調査研究の報告書等の刊行に関すること。

(4) 講演会，講習会，研究会等の開催に関すること。
(5) 文化財の学術調査に関すること。
(6) その他学芸事務に関すること。

（職員の職）

第4条 博物館に，博物館法（昭和26年法律第285号。以下「法」という。）第4条の規定による館長，学芸員のほか，必要に応じて次の職を置く。
(1) 副館長
(2) 係長
(3) 学芸員補
(4) 博物館主事・博物館主事補又は主事・主事補

2 前項に掲げる職のほか，必要に応じて主幹及び主査，主任を置くことができる。

（職務）

第5条 館長は，上司の命を受け，館を統括し，所属職員を指揮監督する。

2 主幹は，上司の命を受けて，特定の事務を処理する。
3 副館長は，館長の職務を補佐し，館務を掌理し，所属職員を指揮監督する。
4 係長は，上司の命を受けて，館務を分掌し，係員を指揮監督する。
5 主査は，上司の命を受けて，特定の事務を処理する。
6 主任は，係長の命を受けて，事務の一部を分担処理する。
7 学芸員及び学芸員補は，上司の命を受けて，法第4条第4項に規定する職務に従事する。
8 博物館主事・博物館主事補又は主事・主事補は，上司の命を受けて，分担事務に従事する。

（専決事項）

第6条 館長の専決事項は，次のとおりとする。
(1) 職員の事務分担に関すること。
(2) 職員の在勤地内旅行に関すること。
(3) 職員の年次休暇に関すること。
(4) 職員の勤務を要しない時間の指定に関すること。
(5) 職員の時間外勤務に関すること。
(6) 許可，取消し等に関すること。ただし，異例又は長期にわたるものを除く。
(7) 通知，照会，回答，報告，申請，証明等に関すること。ただし，異例のものを除く。
(8) 施設及び資料の貸与に関すること。ただし，異例又は長期にわたるものを除く。

（代決）

第7条 館長が不在のときは，主幹を置く場合にあつては主幹が，館長，主幹がともに不在のとき又は主幹を置かない場合にあつては，副館長がその事務を代決する。

（開館時間）

第8条 博物館の開館時間は，次のとおりとする。ただし，館長が特に必要と認めるときは，これを変更することができる。

午前9時から午後4時30分まで

（休館日）

第9条 博物館の休館日は，次のとおりとする。ただし，館長が特に必要と認めたと

きはこれを変更し，又は臨時に休館することができる。
(1) 月曜日
(2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（元日を除く。）の翌日
(3) 1月1日から同月3日まで及び12月29日から同月31日まで
(4) 館内くん蒸期　1月第4週の1週間

（特別展示室の使用許可）

第10条　特別展示室を使用しようとする者は，あらかじめ長野市立博物館特別展示室使用許可申請書（様式第1号）を教育委員会に提出しなければならない。

（入館料等の減免）

第11条　入館料又は使用料の減免を受けようとする者は，あらかじめ，長野市立博物館入館料減免申請書（様式第2号）又は長野市立博物館特別展示室使用料減免申請書（様式第3号）を教育委員会に提出しなければならない。

（資料の特別利用）

第12条　学術上の研究のため，資料を特別に利用しようとする者は，あらかじめ，長野市立博物館資料特別利用許可申請書（様式第4号）を教育委員会に提出しなければならない。

（資料の館外貸出し）

第13条　他の博物館，図書館，学校その他教育委員会が適当と認めたものは，資料の館外貸出しを受けることができる。

2　資料の館外貸出しを受けようとする者は，長野市立博物館資料館外貸出許可申請書（様式第5号）を教育委員会に提出しなければならない。

3　資料の館外貸出期間は，30日を限度とする。ただし，教育委員会が特別な理由があると認めるときは，この限りでない。

（資料の寄贈及び寄託）

第14条　博物館は，資料の寄贈及び寄託を受けることができる。資料を寄贈しようとする者は，長野市立博物館資料寄贈書（様式第6号）を，資料を寄託しようとする者は，長野市立博物館資料寄託書（様式第7号）を教育委員会に提出するものとする。

（資料等の破損，滅失）

第15条　館長は，博物館の資料，施設等が破損し，又は滅失したときは，速やかに教育委員会に報告し，その指示を受けなければならない。

（防災及び警備）

第16条　館長は，防災及び警備の計画を作成し，その職務を遂行しなければならない。

（事業計画及び事務報告）

第17条　館長は，毎年度末までに，次年度における事業計画を作成し，教育委員会に提出しなければならない。

2　館長は，博物館の事業について，毎年度終了後1箇月以内に，前年度における事業概要を教育委員会に報告しなければならない。

（補則）

第18条　この規則に定めるもののほか，職員の勤務，事務の処理その他の事項は，教

育委員会事務局の例による。

附　則

この規則は，昭和56年４月１日から施行する。

附　則（昭和56年７月８日教委規則第14号）

この規則は，昭和56年７月19日から施行する。

附　則（昭和56年９月17日教委規則第15号）

この規則は，昭和56年９月24日から施行する。

附　則（昭和57年３月30日教委規則第８号）

この規則は，昭和57年４月１日から施行する。

様式第１号（第10条関係）

長野市立博物館特別展示室使用許可申請書

年　　月　　日

長野市教育委員会　　　　殿

申請者住所＿＿＿＿＿＿＿＿

（団 体 名）＿＿＿＿＿＿＿＿

代表者氏名＿＿＿＿＿＿＿㊞

（連絡方法）　電話＿－＿＿＿

下記のとおり使用したいので申請します。

記

室　　名	特別展示室
使用日時	年　月　日（　）午　時　分から 年　月　日（　）午　時　分まで 延使用期間　　日間
使用目的	
入 場 料	徴収する（最高額　　　円）　徴収しない
使用人員	
（備考）	

※　継続使用の場合は備考欄に日程等の説明を詳細に記入のこと。

様式第２号（第11条関係）

長野市立博物館入館料減免申請書

年　　月　　日

長野市教育委員会　　　　　殿

申請者住所＿＿＿＿＿＿＿＿

（団 体 名）＿＿＿＿＿＿＿＿

代表者氏名＿＿＿＿＿＿＿＿㊞

（連 絡 先）　電話＿－＿＿＿＿

下記のとおり博物館の入館料の減免を受けたいので申請します。

記

減免を必要とする理由	
入館年月日	年　　月　　日（　）
在館時間	午　時　分から午　時　分まで
入館人員	
引率者氏名	
減免の額	円

様式第３号（第11条関係）

長野市立博物館特別展示室使用料減免申請書

年　　月　　日

長野市教育委員会　　　　　殿

申請者住所＿＿＿＿＿＿＿＿

（団 体 名）＿＿＿＿＿＿＿＿

代表者氏名＿＿＿＿＿＿＿＿㊞

（連 絡 先）　電話＿－＿＿＿＿

下記のとおり博物館特別展示室の使用料の減免を受けたいので申請します。

記

減免を必要とする理由	
使用期間	年　月　日（　）午　時　分から 年　月　日（　）午　時　分まで 延使用期間　　　日間
利用人員	人
減免の額	円

様式第４号（第12条関係）

長野市立博物館資料特別利用許可申請書

年　　月　　日

長野市教育委員会　　　　　殿

申請者住所＿＿＿＿＿＿＿＿

氏　　　名＿＿＿＿＿＿＿㊞

（連 絡 先）電話＿－＿＿＿

下記のとおり博物館資料の特別利用をしたいので申請します。

記

利用目的				
利用期間	年　月　日から　年　月　日まで			
利用資料	記号・番号	品名	数量	備考
利用内容	□ 模写	□ 模造	□ 撮影	□ その他
その他参考事項				

様式第５号（第13条関係）

長野市立博物館資料館外貸出許可申請書

年　　月　　日

長野市教育委員会　　　　　殿

申請者住所＿＿＿＿＿＿＿＿

（団 体 名）＿＿＿＿＿＿＿＿

代表者氏名＿＿＿＿＿＿＿㊞

（連 絡 先）電話＿－＿＿＿

下記のとおり博物館資料の館外貸出しを受けたいので申請します。

記

利用目的			
貸出期間	年　月　日から　年　月　日まで		
利用場所			
利用方法			
貸出資料	記号・番号	品名	数量
輸送方法			
取扱責任者			

様式第6号（第14条関係）

長野市立博物館資料寄贈書

年　月　日

長野市教育委員会　　　　殿

申込者住所＿＿＿＿＿＿＿＿

（団 体 名）＿＿＿＿＿＿＿＿

氏　　名＿＿＿＿＿＿＿㊞

（連 絡 先）　電話＿－＿＿＿

下記のとおり資料を寄贈いたします。

記

品　名	数　量

（備考）

様式第7号（第14条関係）

長野市立博物館資料寄託書

年　月　日

長野市教育委員会　　　　殿

申請者住所＿＿＿＿＿＿＿＿

（団 体 名）＿＿＿＿＿＿＿＿

氏　　名＿＿＿＿＿＿＿㊞

（連 絡 先）　電話＿－＿＿＿

下記のとおり資料を寄託いたします。

記

寄託期間	年　月　日から　年　月　日まで	
寄託資料	品　名	数　量

（備考）

（松沢忠幸・久保田仁太郎）

2　長野市立博物館協議会

1）委　員

職　　名	氏　　名	住　　所	選出区分
会　　長	花岡直一	長野市上松二丁目20―9	学校教育
副会長	小出ふみ子	長野市中御所78―1	社会教育
委　　員	浅川欽一	長野市駒沢3333―4	学識経験
〃	倉田稔	長野市松代町松代1475―2	学校教育
〃	小林計一郎	長野市鶴賀658―2	〃
〃	佐藤進	長野市箱清水2221	〃
〃	島坦	長野市上松三丁目11―15	〃
〃	中島正美	長野市上松一丁目6―39	学識経験
〃	矢沢頼忠	長野市松代町松代163	社会教育
〃	米山一政	長野市妻科750	学識経験

（任期昭和57年9月25日から2年間）

2）審議事項等

昭和57年9月25日開催
- (1) 長野市立博物館協議会，会長・副会長の選出
- (2) 長野市立博物館の現況について
- (3) その他

昭和58年3月26日開催
- (1) 昭和57年度博物館事業報告
- (2) 昭和58年度博物館事業計画及び予算について
- (3) その他

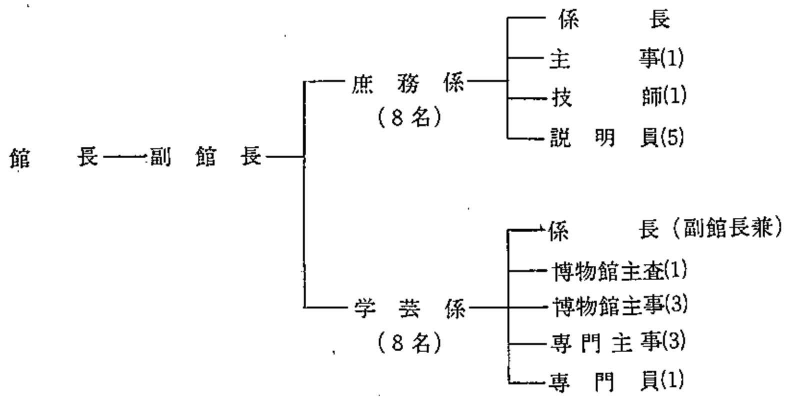
昭和58年10月20日開催
- (1) 長野市立博物館運営について
- (2) 博物館屋外展示について
- (3) その他

昭和59年3月23日開催
- (1) 昭和58年度博物館事業報告
- (2) 昭和59年度博物館事業報告及び予算について
- (3) その他

（小島忠男）

3　組　　織

1) 組 織 図



（昭和58年4月1日現在）

2) 職　　員

館長	掛川一夫	
副館長	山口純一	
庶務係長	小島忠男	
主事	竪岩百合子	
技師	松沢忠幸	（施設管理）
説明員	水品紫乃	（学芸員）
〃	大林育薬	（〃）
〃	坂口清子	（〃）
〃	樋口良江	（〃）
〃	久保田仁太郎	
学芸係長	（山口純一）	
博物館主査	矢口忠良	（学芸員）
博物館主事	山口　明	（学芸員・民俗担当）
〃	大蔵　満	（学芸員・自然科学担当）
〃	青木和明	（学芸員・考古担当）
専門主事	藤森治幸	（学芸員・歴史担当）
〃	和田　博	（歴史担当）
〃	中沢袈裟延	（自然科学担当）
専門員	西川昭史	（自然科学担当）

（昭和58年4月1日現在）

（小島忠男）

Ⅶ　講演会・実演収録

1　講演会収録

「松代焼の伝統と新しい可能性について」

唐木田又三（日本工芸会正会員）

現在，『職人さん』の企画展を博物館でされておりまして，その道50年60年という職人さんが，時々おみえになって実演されております。私も職人の片割れとして多少仕事をやっておりますが，これら経験豊富な職人さんと比べられますと，私など多少恥しい気がします。

今日は「松代焼の伝統と新しい可能性」ということについて，私が長い間見たり，聞いたり，調べたり，試みた経験をもとにお話したいと思います。大きく分けますと，伝統ということはどういうことか，伝統はどういう発展形態をとるか，松代焼の伝統の発展形態とその位置，現在の松代焼の方向とこれからの可能性，以上の事を歴史的・文化史的にとらえ，心の面と技術の面で試みていることを述べたいと思います。

まず松代焼とは，どういうものであるかアウトラインをお話したいと思います。

松代焼は近世の焼物であり，明治維新以後も続いたものであります。ほぼ同時代長野県下には，何十もの窯が起こりました。例えば上田の染谷焼，東筑摩の洗馬焼などです。その中においても松代焼は群をぬいていました。つまり，窯の数・焼物の量・釉薬の種類・芸術性においてなどです。それらの点において松代焼は信州を代表する焼物といえます。

さて，松代焼はどうしてできたのでしょうか。それには，自然的条件と社会的条件の二つの条件があげられます。

自然的条件としましては，松代10万石の領土（長野市・上水内・更級郡・埴科郡・上高井・下高井の一部）より，焼物に適した原料（土）が出たことが上げられます。逆に言えばこれほどの原料は他の地域にはなかったのですが。

社会的条件としましては，松代藩が殖産興業の一端として始め，松代焼の技術開発に努めたことです。記録に残っているだけで，松代藩では文化13年～文政４年のわずか5～6年間に400両もの大金を投じています。また，購買人である民衆がこれらの陶器を好んで買い入れたことも原因です。松代藩では，藩内の各地をくまなく調査し，最も焼物に適した土を探し出しました。主体となるこの土は，篠ノ井から稲荷山にかけての西山地区の山裾より産出する耐火性の土です。また釉薬は，安茂里小市より産出する白土であります。藩の力によりこれら最も適した原料を見つけ出された松代焼は，盛んに作られていきました。そして，最初松代城下にできた窯も，その弟子達により善光寺平一円に広がり，その技術的系統を受け継ぐ窯の数は，最盛期には20程になりました。これほどの集団をもつ窯は，県下には他にありません。

以上，これらのことを通して考えてみても，松代藩なくして松代焼の発展はなかったといっても言いすぎではないでしょう。

私は伝統というものは，ただ古いものというだけでなく，今日のため，明日のためにあるものだと考えております。歴史をもった伝統は，明日のために生かしていかなければいけないと思います。松代焼も，古いものを尊ぶということだけでなく，それを充分理解し，役立たせ，その足場の上で新しいものを作っていかなければならないと思います。また，伝統は風土とは，切り放せないもの

であります。なぜならば，自然に恵まれた原料により始められるからです。でも，原料がなくなっても伝統は残ります。技術をもった人が残っていれば，伝統技術として伝統は存在します。たとえば，木曽の漆器です。木曽では，昔良質の漆が産出されましたが，現在では中国からの輸入に頼り，木曽の漆は使われなくなっています。しかし，伝統の出発にはその風土，自然環境は，切り放せないのであります。また，伝統の地域があると，伝統は受け継がれていきます。たとえば，松代焼です。松代焼は，長野市を中心として人々に愛され支えられ，受け入れられております。しかし，だからといって逆に伝統の地域の中に安住して流されてしまっていいものではありません。伝統の技術は，長い歴史を通し実験されたものであります。人間の人生に限りがあるように，個人の実験には限りがあります。ですから100年，200年をかけた歴史を通しての伝統実験にはかないません。〝故きを温ずねて新しきを知る〟という諺がありますが，昔の作品には，見ればみるほど色々と教えられるものがあります。つまり，現在に残る具体的実験例として，作品中より最良の原料・技術などをくみとっていかなければいけないのです。

伝統はどういう発展形態をとるのでしょうか。剣道には〝心技一体〟という言葉がありますが，物を作るには，心と技が必要であると思います。つまり心と技が一体にならなければ良い作品は生まれないのです。技は，努力すれば努力するほど発展するものでありますが，ある程度までいくと平行線になるものもあります。心は，個人の心・社会の心と大別できますが，それぞれに情熱・盛り上り・欲求といったものを持っております。たとえば，縄文土器を例にとってみましょう。この土器は，前期・中期・後期・晩期と分けることができます。前期のこの作品の中からは，技も心も模索時代であったことが，うかがえます。中期はすばらしい作品が一番多く，心と技の最盛期であり，一番盛り上がった時代であったことがうかがわれます。しかし，後期から晩期にかけては，技術的には非常にすぐれていますが，その作品の中からは情熱が感じられません。つまり，技術にだけはしり，仕上げはよいが心の感じられない作品になってきています。同じように青磁においても漢・隋・唐の時代は模索時代，宋の時代は最高に盛り上がった時代，元・明・清の時代は衰退時代といえます。このようなことは松代焼においてもいえます。松代焼の始まりは文化13年(1817年)，松代藩により始められた東寺尾の名雲窯，東条の天王山窯であると思われます。この窯跡からは，本来の松代焼といえるものではありませんが，色々な陶片が出土します。これら数多くの陶片からは，模索時代であることが感じられます。その後の代官町，荒神町の窯も最初は松代藩の経営でしたが，民間に移されました。これらの窯跡から出土する陶片は，一見して松代焼と思えるものであり，その種類・各種の釉薬の面からも松代焼の最盛期といえます。これらの窯をもとに寺尾に銀兵衛窯，南は篠ノ井・稲荷山，北は上水内郡牟礼村赤塩，善光寺裏の上松など各地にちらばり，その系統の窯の数は20程になります。しかし，これらの窯跡より出土する陶片からは，完成度は高いが盛り上りのない，芸術的に心を打つものがありません。パターン化された，決りきったものしか出土しません。そして昭和27年，稲荷山元町米山さんの窯を最後に窯の火は消えてしまいました。これが第一期の松代焼の歴史のあらましです。それから20年後，昭和47年より，私どもは新しい松代焼を作り始めました。これが第二期の松代焼です。それでは第一期と第二期の松代焼の違いはどこにあるのでしょうか。第一期の松代焼製品は，全部生活必需品で，主力をなしているのは台所用品であります。つまり，甕・醤油入・酒入・漬物甕・塩壷といったものが多く，生活の裏舞台で活躍したものであります。しかし，現在これらの製品は，生活文化の向上に伴い安くて便利で使い捨てのプラスチックやガラス製品に変ってきております。第二期の松代焼の製品は，見て楽しみながら使うような製品が主力になっています。つまり，コーヒーカップ・急須・お茶道具・酒徳利・ぐい呑・湯呑といった飲食器のほか，飾鉢・花瓶・小皿・菓子皿といった生活の表舞台で活躍するものであります。これらは，現代の人々の要求により作られるようになったものであります。私は技

術面においては，第一期も第二期も変わりがないと思います。違っているのは，時代の変化・社会の変化により変ってきた心です。つまり，第一期においては，生活に役立ちさえすればよい製品であり，その製品には，美しいものを作ろうとする心が先行するのではなく，無意識の中に美しさが漂よっております。しかし，第二期の製品は，使いやすさだけでなく美しさが求められてきました。

では，松代焼の技術的発生はどこに見ることができるでしょうか。中国には鈞窯という焼物があります。北宋時代の名窯で河南省にその中心があります。そして，この系統の焼物は，河北省から中国東北部にまで散在しております。この焼物の原料には，藁灰・木の灰・長石などを使い，一見松代焼に似ておりますが，青磁の一種であります。藁灰釉は，透明感がなく失透と言われます。朝鮮半島の北に会寧がありますが，この焼物は，鈞窯焼の流れをくんでおります。つまり，藁灰の失透釉を用いて，還元焼成を酸化焼成にかえたものであります。この焼物にみられる技法は，会津本郷焼・堤焼・朝鮮唐津・萩焼にもみられます。そしてその中に松代焼も入ると思います。ですから，松代焼の発生は，鈞窯の流れの中に入るのです。つまり，松代焼は土俗的鈞窯，鈞窯の地方的発展としてとらえることができます。

次に，松代焼のこれからの可能性を考えてみたいと思います。可能性を考える上で，技術は切り放なせないものですが，大きな流れは〝美〟の方向へ進んでいることにあります。これは，ポリ容器とか，ガラス容器といった画一化された時代の中で暮らしている人々の反作用であると思います。どこを見ても同じものばかりといった反発として，つまり水平化への反発が個性化，地方化につながり〝地方の時代〟といわれるようになるのです。今後の松代焼は，ひとつひとつの品物の中に変化を求め，美を求めるといった個性化の流れの中にあると思います。そして，後世の人々に末期のまた末期であるなどと定義づけられないように，第一期の松代焼のまねをするだけではなく，中身が充実し，それ自身が生きていなければいけないのです。そのためには，職人根性をもたなければいけません。つまり自分の良心を貫き，材料の吟味や技術を確かなものにし，美意識を高くもつことであります。昔の作品の中には，骨太いものが多く安心感があります。しかし，これからの時代は，〝美〟にとらわれ美しさを考えるあまり小手先に流されてしまう危険があります。つまり，〝美〟を追い求め過ぎると，小細工にはしり，表面的な作り事の美になってしまいます。〝美〟というものは，深いところにある深い美でなければいけないのです。〝美〟に対しての定義として，河井寛次郎，柳宗悦氏らは，「無意識の美が一番美しい」と言われています。それでは，ただ無意識に作ればよい作品が生まれるのでしょうか。何も考えず無心になって作るだけでは，人間の機械化と同じです。無意識の中でも心がこもっていなければ良い作品は生まれません。心をむなしくし，虚心の美しさを知り，作品を第一に大切にする心が，良い作品を作り出します。これからの松代焼は，社会がそれを望んでいるように，〝美〟という意識が，表面に出てきております。ですから，昔の作品の中にある中世的心を理解し，表面的な作り事の美にならないようにしなければいけません。

松代焼の新しい可能性は，現在第二期の松代焼として，具体的に始めたばかりであるため模索中であるといえます。発展段階から考えると第二期の中の初期であり，今後の努力しだいであるといえます。

（以降，松代焼新旧の製品説明をしながら新しい松代焼の技術の可能性についての話がありますが省略させていただきます。）

〔企画展『職人さん』講演会にて収録〕

（テープから原稿を起こした人　坂口清子）

唐木田又三
住所　長野市中御所
陶園　長野市篠ノ井夜交
略歴
大正15年　松本市に生まれる。
昭和19年　長野中学校卒業。
〃 26年　東京芸術大学工芸科中退。
〃 27年　中学校美術教師になる。教職のかたわら陶芸の勉強に励む。
〃 38年　長野市松代町に窯を作り，絶えていた松代焼の技術復元に成功。
〃 42年　名古屋工業技術試験所窯業所窯業研修生として一か年更に勉強に励む。この年より加藤嶺男先生に師事し，青磁の研究をはじめる。
〃 47年　教職を退き，長野市篠ノ井の山中に登り窯を築き，作陶生活に入る。
〃 52年　日本伝統工芸展に入選（以後入選を重ねる）。
〃 〃　畠山記念館作品買入。
〃 55年　日本工芸会正会員になる。
〃 58年　「唐木田又三作陶展」を日本橋三越で開催する。

施　　釉

施　　釉

窯 出 し

2　職人さんの製作工程

1)　曲物屋(まげものや)

製　品　せいろう（三升・直径９寸５分）
実演者　遠藤広一（更埴市稲荷山）
収録日　昭和58年３月12日
工　程

①曲輪は予め熱湯に入れ，型で曲げておく。柾目の曲輪はとうひ（エゾマツ），板目は檜を使う。

②飯粒を板の上でよく練り糊(続飯)をつくる。

③皮かきした山桜の皮を８～９㎜位の幅に切る。

④先ず，曲輪を6分の幅に5本割る。一本を渦型にはめてまるめ、その内へ４本巻き込んでいく。ウズガシラを先に曲げ、糊をつけ，輪にして乾かす。その内側へ曲輪をあて長さを決める。輪の内側へ糊を塗り，長さを合わせた曲輪をはめ込む。同様にして，その内側へ糊を塗り，曲輪をはめ込んでいき，糊をよく乾かす。

⑤幅２寸５分に輪を割り腰輪にする。外側になる部分の端を４㎝位を両端約５㎜ずつ削る。ウズに巻き，合わせる部分に印を付ける。外して糊を付け，重ね合わせ，はさみで留める。

⑥乾いたウズに鉋をかける。

⑦檜のさん棒２本に鉋をかけ，ウズの上に平行に置く。棒にウズの輪の通りに印をつけ，両端を削る。さん棒は幅2.5cm，厚さ1.5cm。削ったさん棒をウズにはめて，今度はウズに印をつけ，切り込みを入れる。そして，さん棒をウズガシラにはめ込む。さん棒のウズガシラの外へ出っ張った部分を胴付鋸で切り落とす。

⑧桜の皮を小刀でなめすようにする。

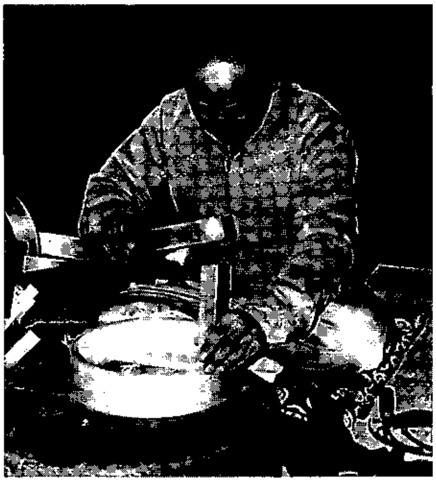
⑨柔らかくなった桜の皮で，曲げておいた腰輪の糊付けした部分を縫う。針で穴をあけながら，５㎜位の間隔で外側の重なりの端から１㎝の所を縫う。そのすぐ脇を縫い目を互い違いにして縫う。内側の重なりの端から２㎝位重なりの内側へ寄った所を５㎜間隔で縫い合せる。

⑩４分の幅の曲輪を腰輪の内側にはめ，その上にウズを腰輪にはめ，たたいて下までさげる。

⑪９分の幅の桂輪をウズの上になるように，腰輪の内側へはめる。さらにその上に６分の桂輪をはめ，腰輪の内のりに合わせて、重なりの部分を糊付して腰輪

曲物屋　④段階

曲物屋　⑨段階



曲物屋　⑩段階

にはめる。

⑫桂輪の内側に幅1寸2分の受輪をはめ，桂輪の内のりに合わせ糊付して，はさみでとめて糊を乾かす。乾いたら，桜の皮で重なりの部分を5㎜間隔に縫う。縫った受輪を桂輪の内側，ウズに接するようにはめる。

⑬幅5寸の親輪を桂輪の内のりに合わせて曲げ，重なりを糊付し，乾いた後，桜の皮で縫う。外側の端から1cm位の所を縫目が1.5cm位の幅になるように縫い，そのすぐ内側の脇は同じように縫い目を互い違いにして縫う。内側の端から重なりの方へ2cm位の所を約1cmの間隔で細かく縫う。切り口に鉋をかけ，桂輪の内側，受輪の上にはめる。

⑭腰輪と親輪を桜の皮で5ヶ所縫い留める。

⑮一番下にはめておいた4分の仮の曲輪をはずし,腰輪とウズガシラを桜の皮で6ヶ所縫い留めて完成する。

曲物屋　⑬段階

2)　下駄屋（げたや）

製　品　駒下駄

実演者　山田春房（長野市三輪）

収録日　昭和58年3月19日

工　程

①木取りした縦約23cm・横約12cm・高さ約12cmの桐の木を万力に固定する。

②木を下駄の歯が互い違いに噛み合うようにガガリ・突込み・廻挽き鋸で組み抜く。

下駄屋　②段階

③切り終ったら，足の当たる部分を合わせ，長さを揃えて切る。

④丸スキノミで歯の付け根を削り，残りの部分をジュウノウノミで裏を削る。

⑤足の当たる所を鉋で削り平にする。

⑥両方の下駄を合わせては長さを調整する。

⑦荒すき後歯の部分をぬるま湯でぬらし，水が浸み込むのを待って10分間位休ませる。

⑧中まで水が浸みたところでオガミかけをする。オガミ鉋という歯が端へ寄って付いているキワ鉋で下駄の歯の側面を削る。二つを合わせ，左右の歯の厚さを揃えるように削る。（ここまでの工程をハガスキという。）

⑨仕上げすきは，丸スキで歯の付け根を削り，ジュウノウスキで下駄の裏の歯以外の部分を削る。

⑩台部につら型をあて，角に丸味をもたせるように印を付け，また鼻緒の穴の位置も印を付ける。印に合

下駄屋　④段階

わせて角を胴付鋸で切り落す。

⑪穴開けで鼻緒の穴を開ける。爪先の穴を前ツボと言い，かかとに近い穴二つを後ツボという。後ツボは爪先からかかとへ傾斜して穴を開ける。後ツボは裏は後歯の前面付け根へ穴がいく。前ツボは小さく，後ツボは大きな穴を開ける。

⑫前ツボは裏側を穴の回りを少し大きな半円形に削り，のみで爪先の方より斜めに削る。これは前ツボのキクサライといい，鼻緒の結び目を留めるためのものである。

⑬足の当たる部分を合わせて，きっちりと留め，左右の足を揃えるようにして，鼻廻しで角を丸く削る。

⑭墨罫引で歯に墨を付けて，高さを揃えるため歯の底を鉋で削る。これをセイゾロイという。

⑮前の歯の前面の角をカエリシキノミで少し削る。これはカエリといい，つまずかないためのものである。

⑯最後に側面，足の当たる部分，歯を鉋をかける。

⑰表面・角を砥草で研く。その後との粉を塗り，ウズクリなどでツヤ出しする。

3) 竹細工屋(たけざいくや)

製　品　竹箕

実演者　戸隠中社竹細工生産組合・徳武義治（戸隠村中社）

収録日　昭和58年３月20日

工　程

①幅３～４cmの藤の木の皮を長さ２尺５寸(約76cm)程のへだて棒に張り，その両端を固定する。

②その両側に皮竹を１本ずつ置く。

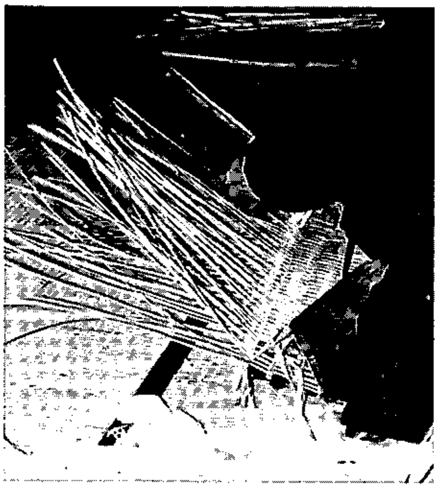
③竹の皮を１本，藤の皮の下を通し，次の竹の皮の１本を両側の竹の下，藤の木の皮の上を通す。これを交互に繰り返し，織っていく。その際，最初の６寸（約18cm）位は「ニバ」という少し厚目の竹の肉皮を使う。

④下から３分の２程まで織り，今度は残りの部分を上から下へと同様にして織る。

⑤織り上がったら，藤の皮を固定してある棒を横にして，竹の皮を縦にし，藤の皮を横糸のように織っていく。箕の口の中心となる所へ桜の皮を入れて補強しながら織る。竹の皮を交互に分けた所へ板をはさみ，今まではさんでおいた竹の棒を抜く。藤の皮を竹の皮の間へ入れ，板(ナギナタ)を使って織る。端から15cm位を残して織り上げ，下にしていた半分も同様に織る。

下駄屋　⑯段階

竹細工屋　③段階



竹細工屋　⑤段階

⑥途中，残りが40cm位になった所で立ち上りの分として，端から15cm位の所を底辺とした三角形の切れ込みができるように両側を３本くぐり３本越えで編む。

⑦織り上げたら，端に残って出ている竹の皮のうち，内側の竹の皮は全部切り落してしまう。外側の竹の皮は４本に１本を残して切り落す。

⑧立ち上りの分の重なりの部分に穴を開け，側面の角となる部分に細い竹の皮を縛り付け，その穴に通して，しっかり固定する。

⑨ふち巻は，まず細い竹２本を箕の曲がり具合に合わせて曲げ，ふちの外側へ１本，内側へ１本，合わせてふちへ出ている竹の皮でとめていく。ふちをかがるための補強として縄で箕の口から30cm位の所を縛っておく。ふち巻のかがるための竹の皮はやわらかい若竹を使う。

竹細工屋　⑨段階

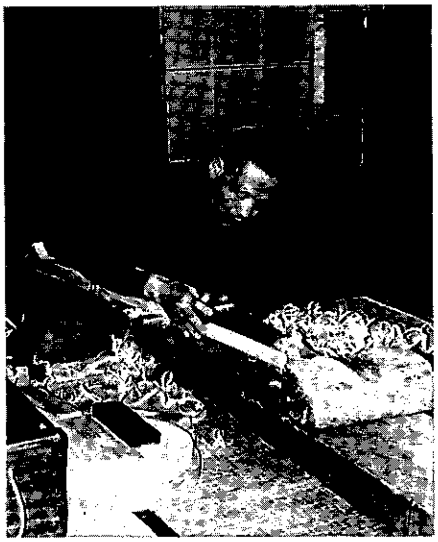
⑩ふち巻は立ち上りの中心から外へとかがっていき，竹の皮３本分のが巻きつけられていく。同じようにもう片方も中心から外へとふち巻をしていく。キリで穴をあけながら竹を通し，最初は荒く巻き，二回目はその間をうめるように巻いていく。

⑪最後に，長く突き出たふちの竹を切り，仕上がりとなる。

4)　棒　屋(ぼうや)

製　品　鍬　柄
実演者　太田恒雄
収録日　昭和58年３月27日
工　程

①およその形に切ったブナの木をかんなで削る。特に手で握るようになる部分は丸鉋角をきれいに削り落し，やすりをかける。



棒屋

②ノミを使い鍬の台部へはめ込まれる部分を削り，段をつける。

③台の部分に柄の大きさを写しとり，ノミで穴を開ける。

④台に柄をはめ込み，そこへ檜のくさびを木づちで打ちこむ。

⑤のこぎりで長いくさびを出ている所から切り落す。さらにくさびを打ち込み，ノミできれいに削りとる。

以上の工程は，採録したものの一部を略述したにすぎない。詳細については別の機会に改めてまとめる予定である。

（水品紫乃）

年　報　VOL. 2

―昭和58年１月～昭和59年３月―

発行　昭和59年３月31日

編集
発行　長　野　市　立　博　物　館

長野市小島田町八幡原史跡公園内

☎　0262（84）９０１１

印刷　ほおずき書籍株式会社

正　誤　表

P1　下から6行目　始じめる→始める
　　4行目　修理器機→修理機器
P2　下から17行目　岐阜県立博物館→岐阜県博物館
　　右側3段　4段目写真　収材→取材
P3　右上写真説明　収材→取材
P4　11行目　始じまる→始まる
　　14行目　スモック→スモッグ
　　下から5行目　石室が→石室を
P7　15行目　浅川欣一先生→浅川欽一先生
P8　21行目　一升星と七ツ星→一升星と七つ星
P11　下から5行目　かがり鋸→ががり鋸
P14　11行目　めのり→のめり
P18　右側3段目写真　古墳時代土器→弥生時代土器
　　〃 4段目 〃　弥生時代土器→古墳時代土器
P28　下から6行目　ツットコ→ツトッコ
P29　11行目　宮島克己→宮島克巳
P30　下から12・19行目　宮島克己→宮島克巳
P31　右上写真　松倉旧義氏→飯島角松氏
　　右下写真　飯山・平坦部→戸隠・平坦部
P39　右側2段目写真　部位（マラ）をつくる→オンマラを吊るす
　　右下写真　長谷→越
P40　24行目　神楽奉納が滞りなく終わると、神主年番（中真島）→神楽は年番の中真島組を筆頭にして本道組・琵天
P41　右下写真　長谷→越
P42　[illegible]

P44　右3・4段目　番組製作→番組制作
P45　7行目　（アルフアルド・ふたご座）→（アルフアルド）・ふたご座
　　下から1行目　ギリシア→ギリシヤ
P46　13行目　プレアデス星団すばる）→プレアデス星団（すばる）
　　下から3行目　A5→A4
P52　9行目　アルゴル→アルコル
　　下から4行目　（カシオペア座）→カシオペア座
P59　20行目　冬虫夏草菌図譜→削除
P65　左19行目　総上げ台→絵上げ台
　　左下から15行目　桑掻き→桑扱き
P69　左9行目　奈良国立博物館→削除
P70　左20行目　名古屋市立博物館→名古屋市博物館
P75　5行目　昭和59年度→昭和58年度
　　6行目　〃　〃
　　下から9行目　フアンコンベター→フアンコンベクター
　　下から7行目　ダムウエーター→ダムウエーダー
　　下から5行目　減圧殺虫菌→減圧殺虫殺菌
P97　15行目　カエリシキノミ→カエリツキノミ
　　右上写真　16段階→17段階
P98　29行目　部分は丸鉋角を→部分は丸鉋